

7 スポーツ施設

その1 施設の概要

与謝野町にあるスポーツ施設は、体育館、グラウンド、テニスコートが主で、旧町に一つずつ整備されていたものをそのまま新町に引き継いで運営しています。施設種類ごとに分けて紹介します。

カテゴリー1 体育館

体育館は、旧町時代の町民体育館をそのまま引き継いでいます。建築年はそれぞれ昭和 60 年頃となっていますが、岩滝小体育館は平成 17 年度に建築されています。岩滝体育館は昭和 63 年の京都国体においてウェイトリフティング競技の会場にもなっており、規模においては町内最大です。その他、石田地区に農林事業で整備された農業者健康管理施設があります。

【体育館施設一覧】

施設名	所在地	面積 (㎡)		建築年	運営形態
		敷地	延床		
大江山体育館	滝881番地 1	5,298.0㎡	1,495.2㎡	S61	直営
岩滝体育館	岩滝875番地、861番地2、850番地	7,507.7㎡	2,281.3㎡	S56	直営
岩滝小体育館			531.2㎡	H17	直営
野田川体育館	四辻145番地	2,672.04㎡	1,100.1㎡	S57	直営
農業者健康管理施設	弓木245番地	10,672.0㎡	509.6㎡	S57	地元委託

合計 26,149.7㎡ 5,917.4㎡

※農業者健康管理施設は、農林事業により整備された健康増進施設で、現在は地元の石田区に管理委託しています。近くにグラウンドもあり、敷地面積はそれも合わせた面積です。白書では体育館部分のみを取り上げます。



カテゴリー2 グラウンド

グラウンドは、旧町時代の町民グラウンドをそのまま引き継いでいます。大江山運動公園グラウンドと野田川グラウンドは昭和63年の京都国体において軟式野球競技の会場にもなっていました。その他、算所地区に算所社会体育グラウンドが設置されています。

【グラウンド施設一覧】

施設名	所在地	面積 (㎡)		建設年	運営形態
		敷地	延床		
大江山運動公園グラウンド	滝881番地1	16,915.0㎡	-	S 58	直営
岩滝グラウンド	岩滝875番地1	11,452.6㎡	-	S 55	直営
野田川グラウンド	幾地450番地	15,956.0㎡	-	S 57	直営
算所社会体育グラウンド	算所576番地	3,446.8㎡	-	S 62	直営

合計 47,770.4㎡

※敷地面積のみを記載しています。ダックアウトやトイレ、倉庫などの建築部分の延床面積は表示しません。

※男山八幡公園は野球のできるグラウンドが整備されていますが、条例上は都市公園となっており、都市公園のカテゴリーに入れています。

【施設位置図】



カテゴリー3 テニスコート

テニスコートも旧町で1つずつ整備されていたコートをそのまま引き継いでいます。後述しますが、大江山運動公園テニスコートと城山公園テニスコートは砂入人工芝で、野田川テニスコートは土のコートです。

【テニスコート施設一覧】

施設名	所在地	面積 (㎡)		建設	運営形態
		敷地	延床		
大江山運動公園テニスコート	滝881番地1	2,316.0㎡	-	S61	直営
城山公園テニスコート	岩滝477番地1	3,200.0㎡	-	S59	直営
野田川テニスコート	幾地450番地	2,890.0㎡	-	S57	直営

【施設位置図】

合計 8,406.0㎡



カテゴリー4 その他スポーツ施設

その他スポーツ施設は城山公園弓道場です。

場所は城山公園敷地内です（城山公園テニスコートと同じ）。



【その他スポーツ施設一覧】

施設名	所在地	面積 (㎡)		建築年	運営形態
		敷地	延床		
城山公園弓道場	岩滝1656番地15	710.5㎡	94.8㎡	S61	弓道協会管理

その2 施設の物理的状況

スポーツ施設の建築物は体育館と、城山公園の弓道場の屋内体育施設になります。これらは昭和 56 年～昭和 61 年の 5 年間に建設されており、概ね築 30 年を経過する建物ばかりです。

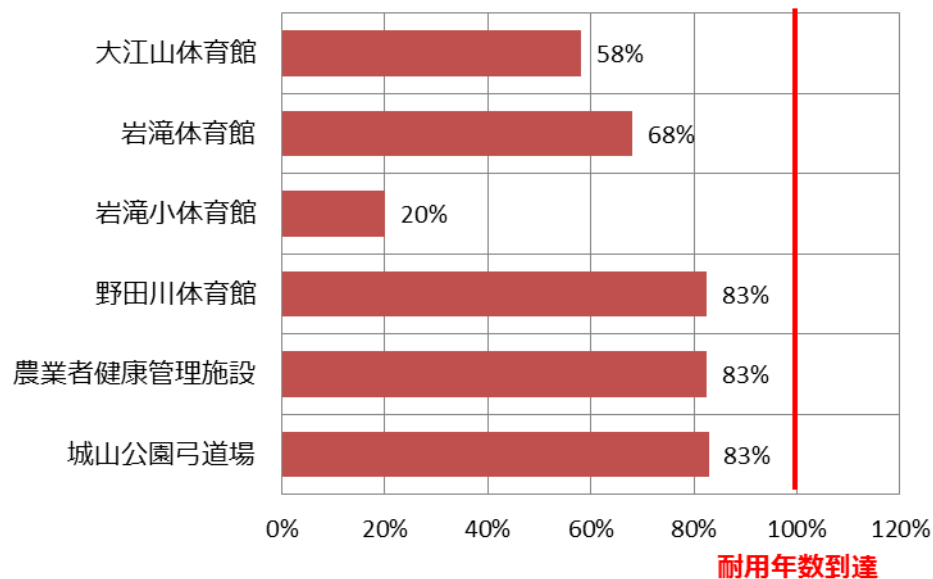
① 老朽化の状況

【屋内体育施設老朽化一覧】

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建設年	耐用年数到達	老朽化率	
大江山体育館	鉄筋コンクリート造Ⅱ階建	S61	H48	58%	有
岩滝体育館	鉄筋コンクリート造 1階建一部2階建	S56	H43	68%	無
岩滝小体育館	鉄骨鉄筋コンクリート造一 部鉄骨造2階建	H17	H67	20%	有
野田川体育館	鉄骨造1階建	S57	H34	83%	有
農業者健康管理施設	鉄骨造1階建階建	S57	H34	83%	不明
城山公園弓道場	木造1階建	S61	H33	83%	不明

※老朽化率は（経過年数/耐用年数）で算出しています。100%を超えると耐用年数超過となります。

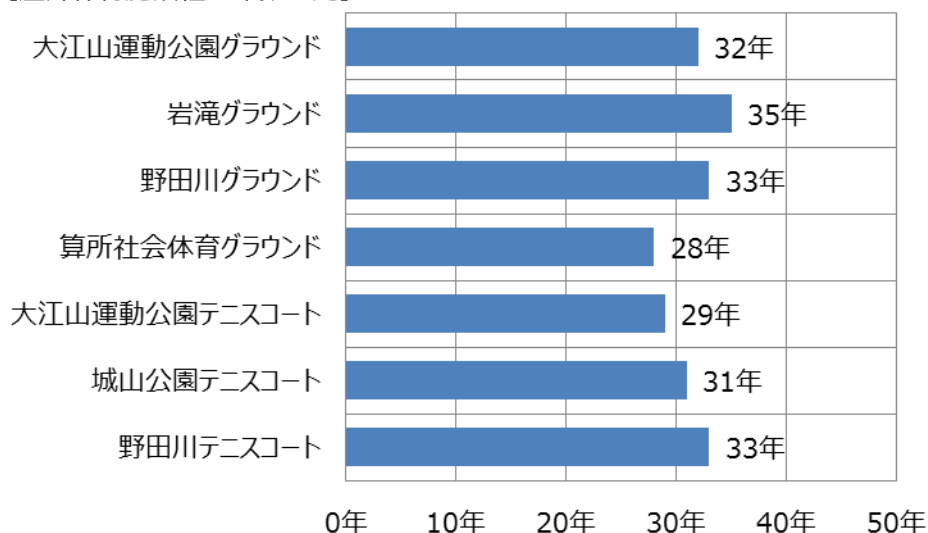
※耐用年数は鉄筋コンクリート造50年、鉄骨造40年、木造35年を想定しています。



野田川体育館、農業者健康管理施設、城山公園弓道場については、老朽化率が 80%を超えています。岩滝体育館は雪の加重を加味した場合、耐震基準を満たさないという診断結果であり、耐震性無となっています。大江山体育館は老朽化が激しく平成 25 年度に大規模改修を行っています（耐用年数には考慮していません）。

グラウンドとテニスコートの屋外体育施設ですが、それらには明確な耐用年数がありませんので、参考に経過年数を示します。どの施設も概ね 30 年を経過しており、老朽化が目立っています。特にテニスコートについては大江山運動公園テニスコートと城山公園テニスコートは人工芝の張替を近年実施しています。

【屋外体育施設経過年数一覧】



② 施設の規模

それぞれの施設の面積と、実際に競技を行う上でどれくらいの規模なのかを比較しています。

■ 体育館

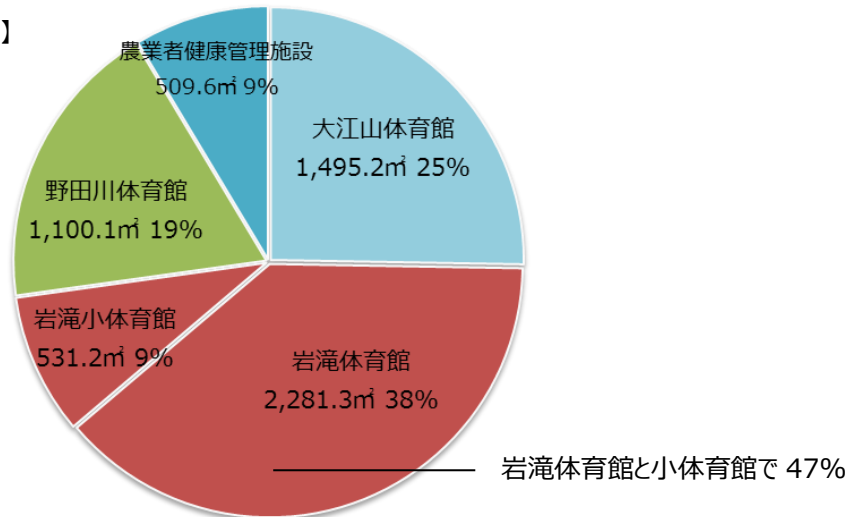
体育館の規模はバスケットボールやバレーボールのコート数と武道場の大きさを比較しています。

【体育館規模一覧】

施設名	延床面積	規模	
		体育館	武道場
大江山体育館	1,495.2㎡	バスケットボール1面 (ジュニアコート2面) バレーボール2面	50畳
岩滝体育館	2,281.3㎡	バスケットボール2面 バレーボール2面	剣道180㎡ 柔道126畳
岩滝小体育館	531.2㎡	19メートル×24メートル (バトミントンコート3面分)	-
野田川体育館	1,100.1㎡	バスケットボール1面 バレーボール2面	42畳
農業者健康管理施設	509.6㎡	バレーボール1面 (バスケットボールはゴールが1カ所)	-

※その他に、岩滝小体育館は1階部分が外部空間になっている、いわゆるピロティ構造になっていて、ゲートボール場が2面あります。

【体育館施設面積比較】



体育館の規模を比較しますと、岩滝体育館が大きいことが分かります。隣接する岩滝小体育館と合わせると、全体体育館施設の約 50% の面積になります。競技を行う上での規模も岩滝体育館が大きく、武道場で比較しても一番大きい施設と言えます。

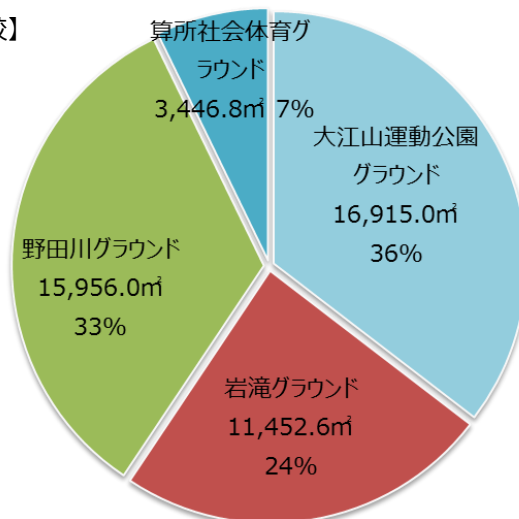
■グラウンド

グラウンドは野球・ソフトボールのコート数で比較しています。また夜間のナイター照明の下で可能なコート数も示しています。

【グラウンド規模一覧】

施設名	敷地面積	規模	
		昼間	夜間（ナイター使用）
大江山運動公園グラウンド	16,915.0㎡	野球2面、ソフトボール4面	野球1面、ソフトボール1面
岩滝グラウンド	11,452.6㎡	野球1面 ソフトボール2面	野球1面 ソフトボール2面
野田川グラウンド	15,956.0㎡	野球1面 ソフトボール2面	野球1面 ソフトボール2面
算所社会体育グラウンド	3,446.8㎡	野球、ソフトボールの試合ができる規模でない	

【グラウンド面積比較】



算所社会体育グラウンドを除くグラウンドは、概ね同等規模のと言えます。大江山グラウンドが他よりもやや規模が大きくなっています。

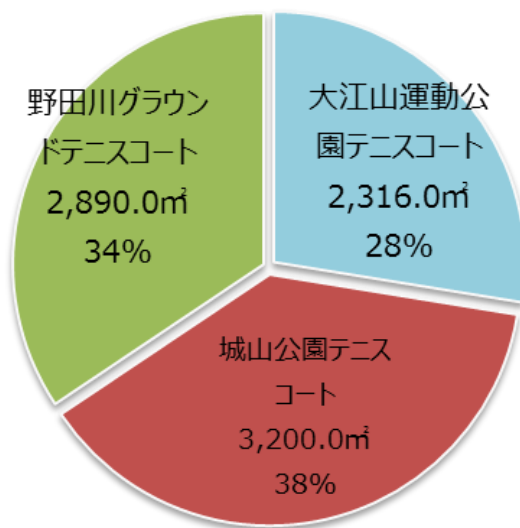
■テニスコート

テニスコートはコート数での比較です。

【テニスコート規模一覧】

施設名	敷地面積	規模
大江山運動公園テニスコート	2,316.0㎡	3面（砂入人工芝）
城山公園テニスコート	3,200.0㎡	4面（砂入人工芝）
野田川テニスコート	2,890.0㎡	4面（土）

【テニスコート面積比較】



テニスコートは規模的には大差はありません。野田川テニスコートは江陽中学校がクラブ活動で使用しています。どのコートもナイター設備がありますが、野田川テニスコートはナイター設備の不備があり、夜間の使用が2面に限られている状況です。

③ バリアフリー化状況

スポーツ施設のバリアフリー化の状況としては、建築物である体育館分を示します。以下のとおり、入口やトイレなどはバリアフリーに対応した整備が施されています。

【スポーツ施設バリアフリー化状況】

施設名	バリアフリー化						
	多目的 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	点字 ブロック	車いす用	
						エレベーター	階段昇降機
大江山体育館	○	○	-	-	-	-	-
岩滝体育館	○	○	-	-	-	-	-
岩滝小体育館	○	-	-	-	-	-	○
野田川体育館	○	○	-	-	-	-	-

④ 防災状況

スポーツ施設の防災状況は以下のとおりです。スポーツ施設は、収容できる人数が多いことから避難所などにも活用されています。

【スポーツ施設防災状況】

施設名	避難所指定		警戒区域の指定		
	水害	地震	浸水想定区域	土砂災害（特別）警戒区域	
				急傾斜地の崩壊	土石流
大江山運動公園体育館	-	○	-	○	-
野田川体育館	○	○	-	-	-
岩滝体育館 （岩滝柔道場、岩滝剣道場）	○	-	-	-	-
岩滝小体育館	○	○	-	-	-
農業者健康管理施設	-	○	-	○	-
大江山運動公園グラウンド	○	○	-	-	-
野田川グラウンド	○	○	-	-	-
岩滝グラウンド	○	-	-	-	○
算所社会体育グラウンド	-	-	-	-	○

※大江山運動公園体育館、農業者健康管理施設は、付近の斜面が水害時の危険地域に指定されているため避難所指定されていません。

※岩滝体育館は、耐震構造基準を満たしていないために地震時の避難所指定されていません。

※算所社会体育グラウンドについては、近隣の加悦小学校・中学校等に避難所指定があるため避難所指定されていません。

その3 施設の利用状況

スポーツ施設の利用状況を施設の種類ごとに比較しながら見ていきます。

■ 体育館

旧町ごとに設置された体育館は、バスケットボールやバレーボールなど主に社会人の利用が多くなっています。野田川体育館は野田川スポーツクラブの活動が盛んで、様々な競技に活用されています。大江山体育館は平成 25 年度に大規模改修を行い、運営日数が少なくなっています。

【体育館施設利用状況推移表】

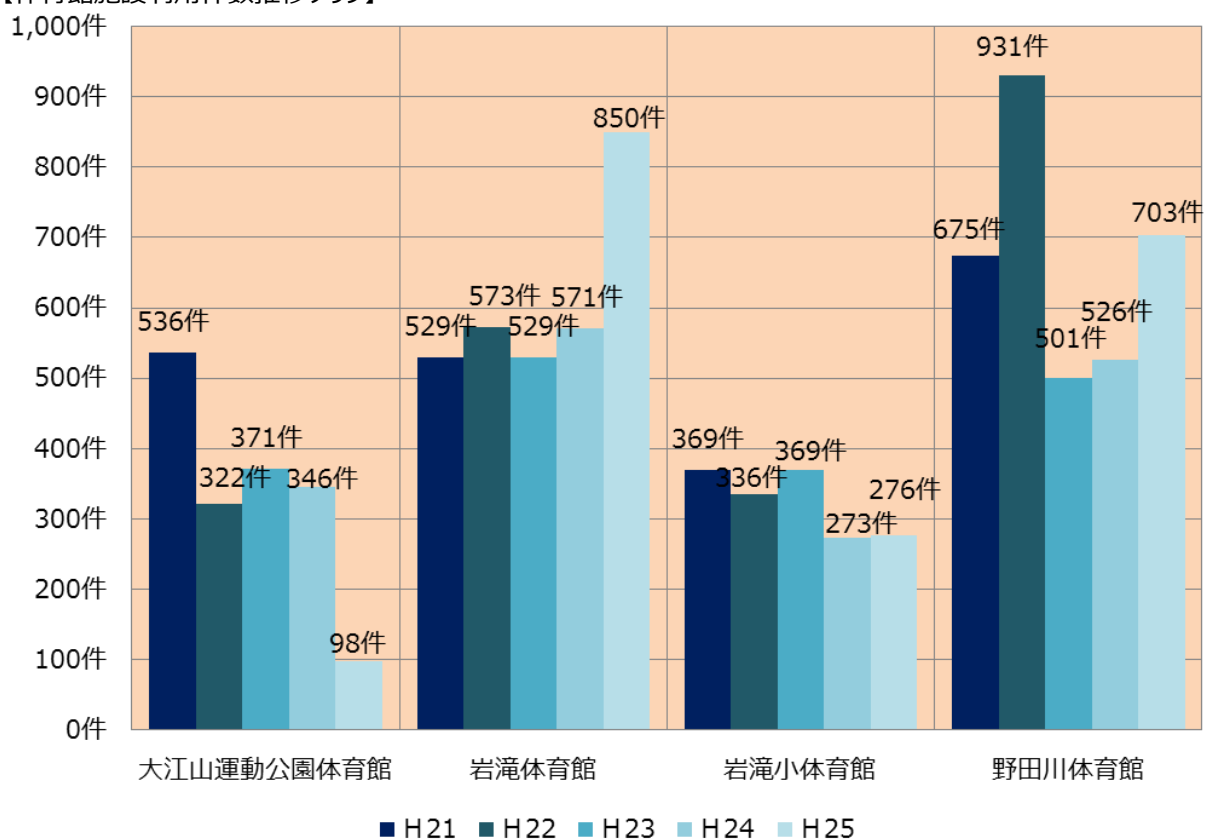
施設名	項目	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25
大江山運動公園体育館	年間運営日数	359日	359日	360日	359日	359日
	年間利用件数	536件	322件	371件	346件	98件
	年間利用者数	2,302人	6,357人	10,525人	8,329人	1,895人
	1日当たりの利用件数	1.5件	0.9件	1.0件	1.0件	0.3件
	1日当たりの利用者数	6.4人	17.7人	29.2人	23.2人	5.3人
岩滝体育館	年間運営日数	359日	359日	360日	359日	359日
	年間利用件数	529件	573件	529件	571件	850件
	年間利用者数	18,276人	16,388人	13,179人	16,090人	15,511人
	1日当たりの利用件数	1.5件	1.6件	1.5件	1.6件	2.4件
	1日当たりの利用者数	50.9人	45.6人	36.6人	44.8人	43.2人
岩滝小体育館	年間運営日数	359日	359日	360日	359日	359日
	年間利用件数	369件	336件	369件	273件	276件
	年間利用者数	1,994人	3,398人	3,202人	2,706人	2,959人
	1日当たりの利用件数	1.0件	0.9件	1.0件	0.8件	0.8件
	1日当たりの利用者数	5.6人	9.5人	8.9人	7.5人	8.2人
野田川体育館	年間運営日数	359日	359日	360日	359日	359日
	年間利用件数	675件	931件	501件	526件	703件
	年間利用者数	11,444人	15,085人	9,274人	9,791人	11,914人
	1日当たりの利用件数	1.9件	2.6件	1.4件	1.5件	2.0件
	1日当たりの利用者数	31.9人	42.0人	25.8人	27.3人	33.2人

※各施設は、年末年始に6日間それぞれ休館するため運営日数は、359日（360日）となります。

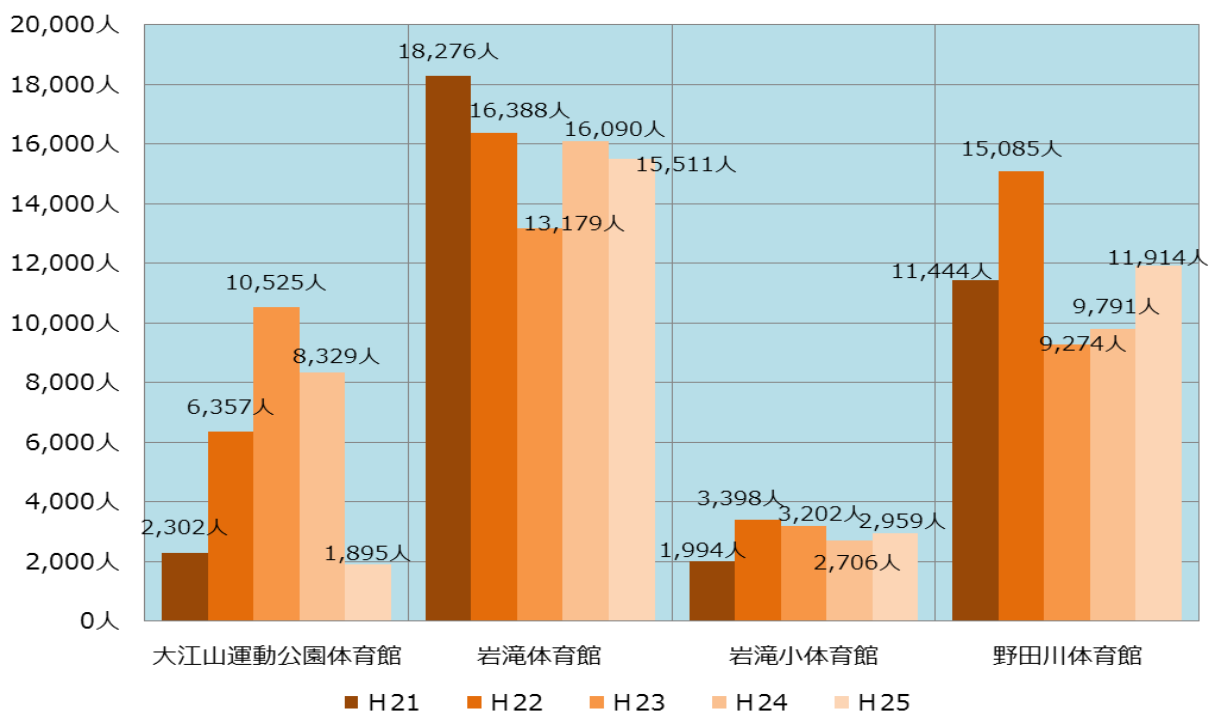
ただし、平成 25 年度は大江山体育館の大規模改修工事がありましたので閉館期間があります。

※農業者健康管理施設は、石田区が管理運営を行っており利用人数の把握ができていません。

【体育館施設利用件数推移グラフ】

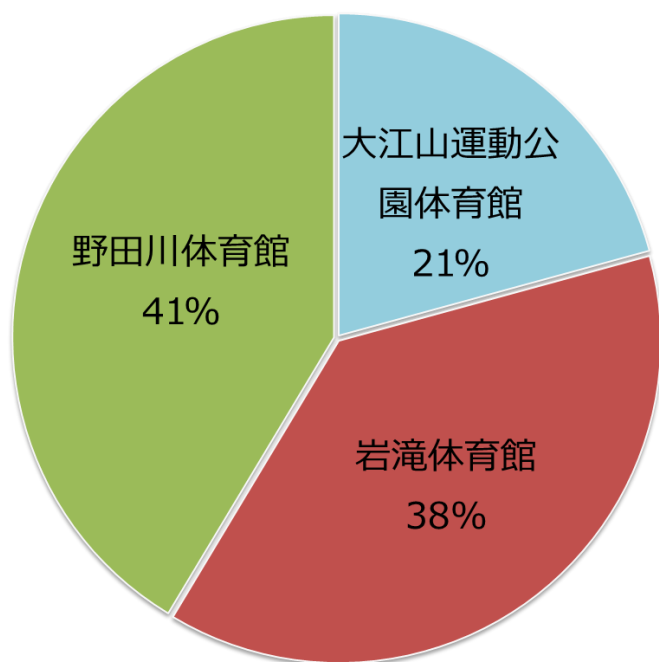


【体育館施設利用人数推移グラフ】



利用件数、利用人数ともに岩滝体育館と野田川体育館が多い印象です。大江山運動公園体育館は平成 25 年度に改修による休止期間があったものの、やや他と比べやや利用が少なくなっています。

【体育館施設利用件数比較グラフ】



大江山運動公園体育館、岩滝体育館、野田川体育館の3体育館の過去5年間の利用件数合計を比較すると、岩滝体育館、野田川体育館の割合は同じくらいで、大江山運動公園体育館がやや少ない印象です。

【参考：平成25年度利用者の町内外割合（体育館）】

町内・町外の別	大江山運動公園体育館	岩滝体育館	岩滝小体育館	野田川体育館
町内利用者	80.0%	80.2%	74.4%	87.3%
町外利用者	20.0%	19.8%	25.6%	12.7%

概ね町内の方の利用が8割、町外の方の利用が2割です。

■グラウンド

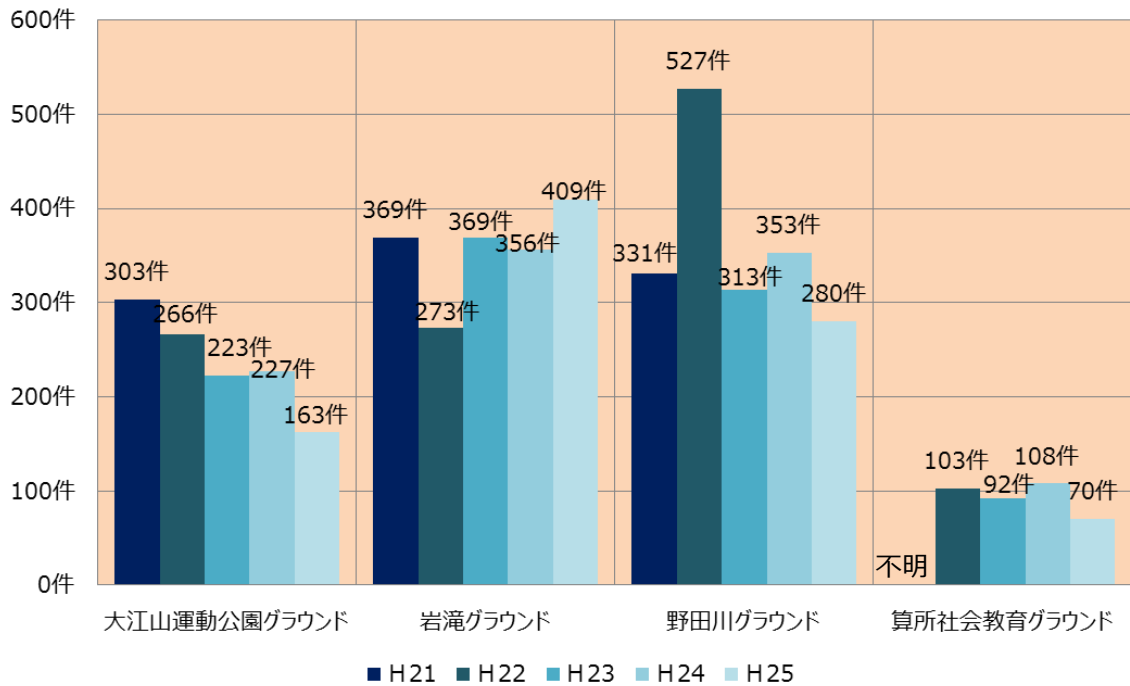
旧町地域にそれぞれ設置されたグラウンドは、ソフトボールのナイターリーグやグラウンドゴルフなどの利用が日常的であり、学童野球の大会なども行われています。冬季はナイターの利用を休止するため昼間しか利用できず、降雪などもあり利用は少なくなります。

【グラウンド利用状況推移表】

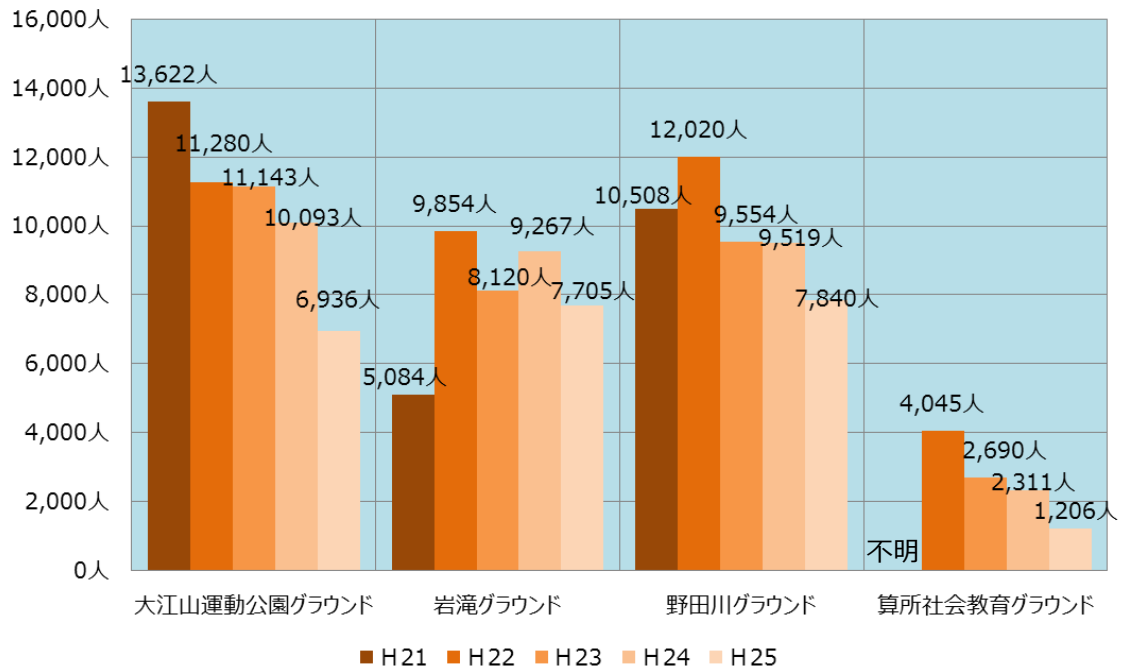
施設名	項目	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25
大江山運動公園グラウンド	年間運営日数	359日	359日	360日	359日	359日
	年間利用件数	303件	266件	223件	227件	163件
	年間利用者数	13,622人	11,280人	11,143人	10,093人	6,936人
	1日当たりの利用件数	0.8件	0.7件	0.6件	0.6件	0.5件
	1日当たりの利用者数	37.9人	31.4人	31.0人	28.1人	19.3人
岩滝グラウンド	年間運営日数	359日	359日	360日	359日	359日
	年間利用件数	369件	273件	369件	356件	409件
	年間利用者数	5,084人	9,854人	8,120人	9,267人	7,705人
	1日当たりの利用件数	1.0件	0.8件	1.0件	1.0件	1.1件
	1日当たりの利用者数	14.2人	27.4人	22.6人	25.8人	21.5人
野田川グラウンド	年間運営日数	359日	359日	360日	359日	359日
	年間利用件数	331件	527件	313件	353件	280件
	年間利用者数	10,508人	12,020人	9,554人	9,519人	7,840人
	1日当たりの利用件数	0.9件	1.5件	0.9件	1.0件	0.8件
	1日当たりの利用者数	29.3人	33.5人	26.5人	26.5人	21.8人
算所社会教育グラウンド	年間運営日数	359日	359日	360日	359日	359日
	年間利用件数	不明	103件	92件	108件	70件
	年間利用者数	不明	4,045人	2,690人	2,311人	1,206人
	1日当たりの利用件数	0.0件	0.3件	0.3件	0.3件	0.2件
	1日当たりの利用者数	0.0人	11.3人	7.5人	6.4人	3.4人

※各施設は、年末年始に6日間それぞれ休館するため運営日数は、359日（360日）となります。

【グラウンド施設利用件数推移グラフ】

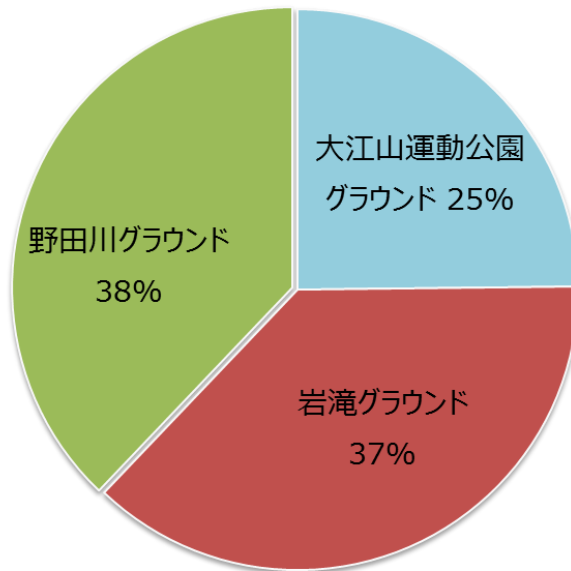


【グラウンド施設利用人数推移グラフ】



利用件数では岩滝グラウンド、野田川グラウンドが多くなっています。一方で利用人数では大江山運動公園グラウンドが多くなっており、1件あたりの人数規模が大きくなっています。

【グラウンド施設利用件数比較グラフ】



大江山運動公園グラウンド、岩滝グラウンド、野田川グラウンドの3グラウンドの過去5年間の利用件数合計を比較すると、岩滝グラウンド、野田川グラウンドの割合は同じくらいで、大江山運動公園グラウンドがやや少ない印象です。ただし、大江山運動公園グラウンドは大江山登山マラソンや消防団の大会などの規模の大きなイベントで利用されるケースが多いです。

【平成25年度利用者の町内外割合（グラウンド）】

町内・町外の別	大江山運動公園グラウンド	岩滝グラウンド	野田川グラウンド	算所社会体育グラウンド
町内利用者	90.6%	88.8%	87.9%	100.0%
町外利用者	9.4%	11.2%	12.1%	0.0%

概ね町内の方の利用が9割、町外の方の利用が1割です。

■テニスコート

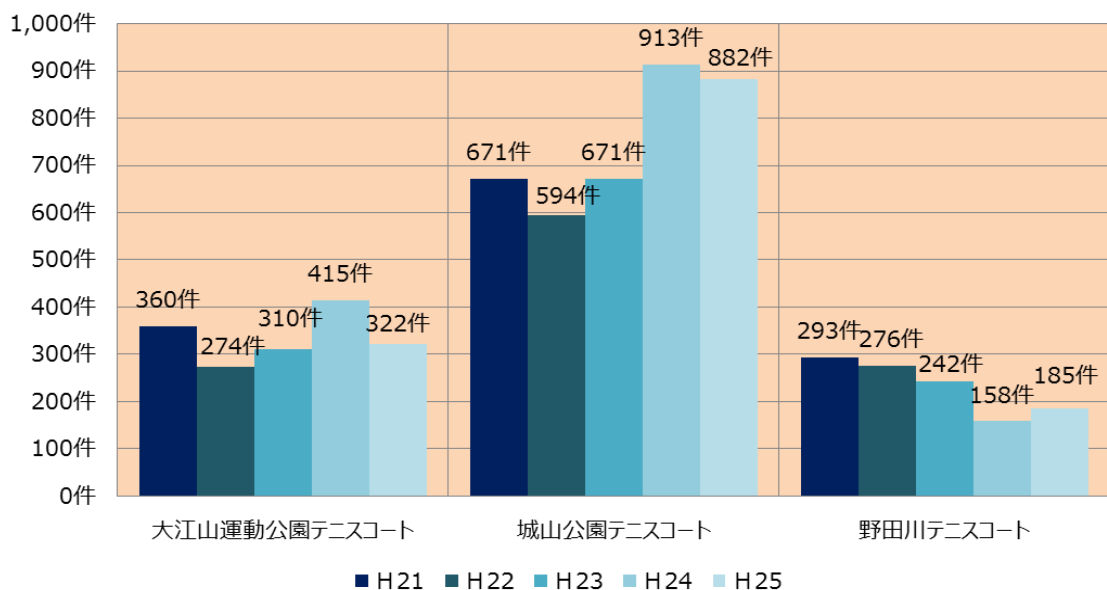
与謝野町にはテニス愛好家が多く、特に夜間や休日はほとんど利用されている状況です。こちらも屋外施設ですので、冬季の利用は制限される面がありますが、多くご利用いただいています。

【テニスコート利用状況推移表】

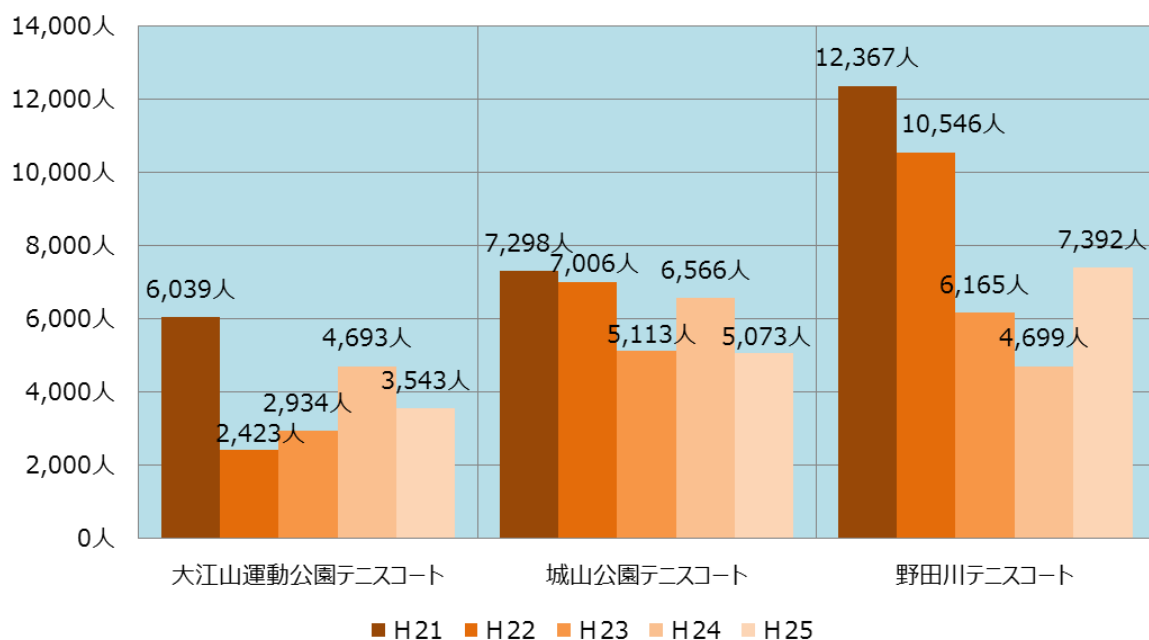
施設名	項目	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25
大江山運動公園テニスコート	年間運営日数	359日	359日	360日	359日	359日
	年間利用件数	360件	274件	310件	415件	322件
	年間利用者数	6,039人	2,423人	2,934人	4,693人	3,543人
	1日当たりの利用件数	1.0件	0.8件	0.9件	1.2件	0.9件
	1日当たりの利用者数	16.8人	6.7人	8.2人	13.1人	9.9人
城山公園テニスコート	年間運営日数	359日	359日	360日	359日	359日
	年間利用件数	671件	594件	671件	913件	882件
	年間利用者数	7,298人	7,006人	5,113人	6,566人	5,073人
	1日当たりの利用件数	1.9件	1.7件	1.9件	2.5件	2.5件
	1日当たりの利用者数	20.3人	19.5人	14.2人	18.3人	14.1人
野田川テニスコート	年間運営日数	359日	359日	360日	359日	359日
	年間利用件数	293件	276件	242件	158件	185件
	年間利用者数	12,367人	10,546人	6,165人	4,699人	7,392人
	1日当たりの利用件数	0.8件	0.8件	0.7件	0.4件	0.5件
	1日当たりの利用者数	34.4人	29.4人	17.1人	13.1人	20.6人

※各施設は、年末年始に6日間それぞれ休館するため運営日数は、359日（360日）となります。

【テニスコート施設利用件数推移グラフ】

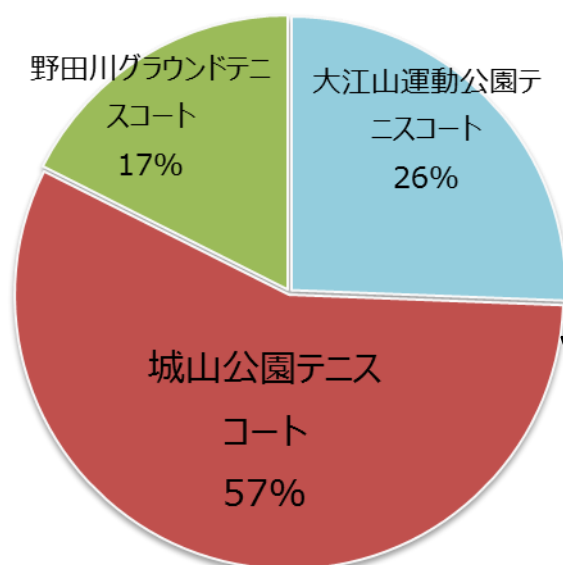


【テニスコート施設利用人数推移グラフ】



利用件数では城山公園テニスコートが多くなっています。一方で利用人数では野田川テニスコートは利用人数が多くなっており、テニスコートが校内に設置されていない江陽中学校がクラブ活動で利用するので件数に対して人数が多くなっていると考えられます。

【テニスコート施設利用件数比較グラフ】



大江山運動公園テニスコートと城山公園テニスコートと野田川グラウンドテニスコートの過去5年間の利用件数を比較すると、城山公園テニスコートの割合が57%と大きな割合になっています。ついで大江山運動公園テニスコートとなり、野田川テニスコートはナイター設備の不備などで利用件数割合は低くなっています。

【平成25年度利用者の町内外割合（テニスコート）】

町内・ 町外の別	大江山運動 公園テニスコート	城山公園 テニスコート	野田川 テニスコート
町内利用者	99.9%	95.7%	100.0%
町外利用者	0.1%	4.3%	0.0%

町内の方の利用が
ほとんどです。

■その他スポーツ施設

その他スポーツ施設は城山公園弓道場のみで、主に与謝野町弓道協会に利用いただいています。

【その他スポーツ施設利用推移表】

施設名	項目	H21	H22	H23	H24	H25
城山公園弓道場	年間利用者数（人）	2,047人	2,444人	2,594人	2,482人	2,742人

その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

スポーツ施設の管理・運営面での年間コストは以下のとおりです。

【スポーツ施設管理・運営コスト一覧】

(単位：千円)

項目	大江山体育館	岩滝体育館 (剣道場含む)	岩滝小体育館	野田川体育館
賃金	0	1,042	0	0
光熱水費・燃料費	865	2,097	32	35
通信料・手数料	0	0	0	0
使用料・賃借料	0	0	0	0
消耗品費	54	60	0	22
備品購入費	0	0	0	0
賄・医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	0	104	0	84
委託料	184	3,770	182	0
指定管理料	0	0	0	0
その他	62	90	23	19
支出合計	1,165	7,163	237	160

項目	農業者健康 管理施設	大江山運動公園 グラウンド	岩滝グラウンド	野田川グラウンド
賃金	0	0	0	0
光熱水費・燃料費	136	2,703	1,136	410
通信料・手数料	0	0	0	0
使用料・賃借料	0	0	0	0
消耗品費	10	19	0	0
備品購入費	0	0	0	0
賄・医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	0	276	135	75
委託料	360	1,594	350	611
指定管理料	0	0	0	0
その他	13	0	0	0
支出合計	519	4,592	1,621	1,096

項目	算所社会体育 グラウンド	大江山運動公園 テニスコート	城山公園 テニスコート	野田川 テニスコート
賃金	0	0	0	0
光熱水費・燃料費	0	0	228	120
通信料・手数料	0	0	0	0
使用料・賃借料	0	0	0	0
消耗品費	0	0	123	0
備品購入費	0	0	0	0
賄・医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	242	0	502	91
委託料	0	0	0	0
指定管理料	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
支出合計	242	0	853	211

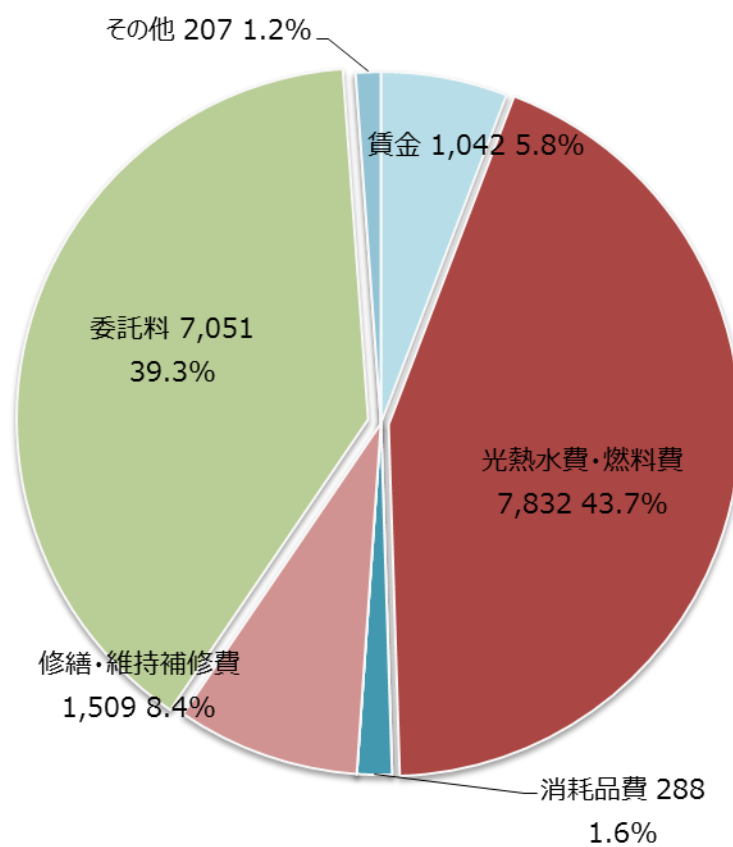
(単位：千円)

項目	城山公園弓道場	合 計
賃金	0	1,042
光熱水費・燃料費	70	7,832
通信料・手数料	0	0
使用料・賃借料	0	0
消耗品費	0	288
備品購入費	0	0
賄・医薬材料費	0	0
修繕・維持補修費	0	1,509
委託料	0	7,051
指定管理料	0	0
その他	0	207
支出合計	70	17,929

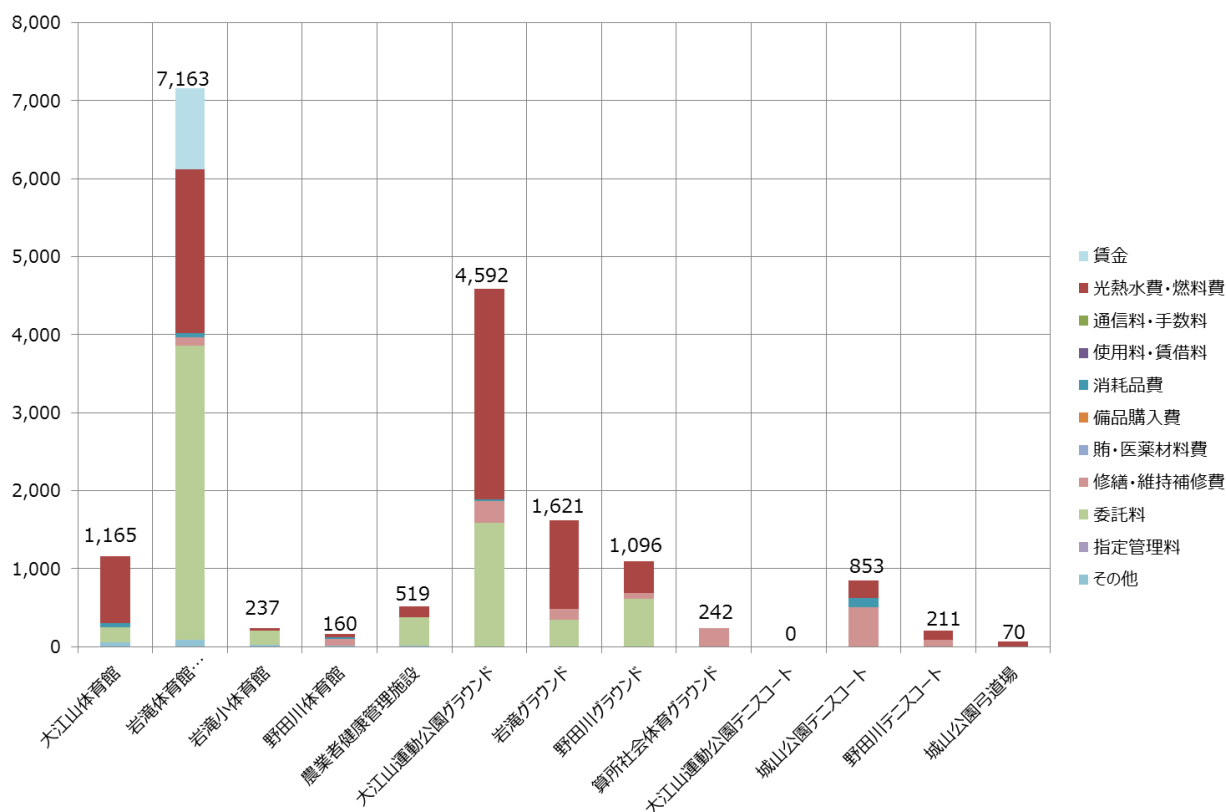
※平成25年度の実績額です。ただし大規模改修で運営期間が短かった大江山体育館は平成24年度コストです。

※野田川体育館は併設されている中央公民館にコストが含まれている場合があります。

【スポーツ施設管理・運営コスト内訳グラフ①（単位：千円）】



【スポーツ施設管理・運営コスト内訳グラフ②（単位：千円）】



スポーツ施設の管理・運営経費は年間で約 1,793 万円かかっています。その中でも多くを占めるのは光熱水費です。特にナイター設備のあるグラウンドではその割合が多くなっています。委託料も多くなっていますが、その大半は岩滝体育館の管理委託料で体育協会に委託している経費で、体育協会の事務運営費も含まれています。また、野田川体育館のコストが低くなっているのは、併設する中央公民館に包含されているためですので、体育館施設を比較するとそれほど大差がないと考えられます。

【参考：平成25年度利用料等収入】

(単位：千円)

項目	大江山体育館	岩滝体育館 (小体育館含む)	野田川体育館	農業者健康管理施設	体育館計
利用料等収入	65	673	398	94	1,230
項目	大江山グラウンド	岩滝グラウンド	野田川グラウンド	算所グラウンド	グラウンド計
利用料等収入	269	425	281	7	982
項目	大江山テニスコート	城山テニスコート	野田川テニスコート	テニスコート計	弓道場
利用料等収入	291	394	47	732	0
収入合計					2,944

【参考：スポーツ施設料金表】

各施設の利用料金は下記のとおりです。

社会体育施設利用料金表					
屋外体育施設	区分	午前	午後	夜間	設備等
		8：30～12：30	13：00～17：30	18：00～21：30	
大江山運動公園グラウンド	半面利用	800円	800円	野球 5,000円 リフトボール 2,000円	
	全面利用	1,600円	1,600円	その他 1,000円 *21時迄	
岩滝グラウンド	半面利用	800円	800円	A面：30分ごと 700円	
	全面利用	1,600円	1,600円	B面：30分ごと 300円	
野田川グラウンド	半面利用	800円	800円	30分ごと 500円	
	全面利用	1,600円	1,600円		
算所地区社会体育グラウンド	全面利用	800円	800円		
大江山運動公園テニスコート	1コート	400円	400円	1時間ごと 500円 *21時迄	
城山テニスコート	1コート	400円	400円	1時間ごと 500円	
野田川テニスコート	1コート	400円	400円	1回 800円	
岩滝ゲートボール場	1コート	200円	200円	1時間ごと 100円	
備 考： 町外住民の使用の場合は使用料を3倍とする。 ナイター利用期間は、4月1日から11月30日までとする。					
屋内体育施設	区分	午前	午後	夜間	設備等
		8：30～12：30	13：00～17：30	18：00～22：00	
大江山運動公園体育館	半面利用	500円	500円	500円	
	全面利用	1,000円	1,000円	1,000円	
岩滝体育館	半面利用	500円	500円	500円	
	全面利用	1,000円	1,000円	1,000円	
岩滝小体育館		500円	500円	500円	
野田川体育館		600円	600円	600円	
大江山運動公園体育館柔道場		200円	200円	200円	
岩滝柔道場		300円	300円	300円	
野田川体育館柔道場		200円	200円	200円	
岩滝剣道場		300円	300円	300円	
備 考： 町外住民の使用の場合は使用料を3倍とする。					

各施設の利用料金はご覧のとおりで、1回の利用で数万円かかる場合もある都市部の施設と比べると、かなり安くなっています（ただし都市部でも安く利用できる施設はあります。）。大学生が合宿で与謝野町の施設を利用する場合があります。

② 整備等のコスト（建替え・解体コスト）

【整備時期の考え方】

☆耐用年到達時に建替え

☆耐用年数経過している建物は5年以内に建替え。

☆グラウンド、テニスコートを新たに整備し直すことは想定しない。

☆建替える必要性がないと考えられる建物は耐用年数到達時に解体（耐用年数が既に到来している場合は5年以内に解体）

【コストの考え方】

○体育館：建設・・・36万円/㎡（解体費含む） 解体・・・3万円/㎡

※建設コストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました（スポーツ・レクリエーション系施設）。

○テニスコート：張替え・・・1万3千円/㎡

※耐用年数が明確ではありませんので時期をお示しできませんが、参考に張替えにかかるコストをお示します。

○その他：建設・・・36万円/㎡（解体費含む） 解体・・・3万円/㎡

※建設コストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました（スポーツ・レクリエーション系施設）。

これらの単価に現在の敷地面積、延床面積を乗じて算出したコストは以下のとおりです。

【スポーツ施設整備等コスト一覧】

（単位：千円）

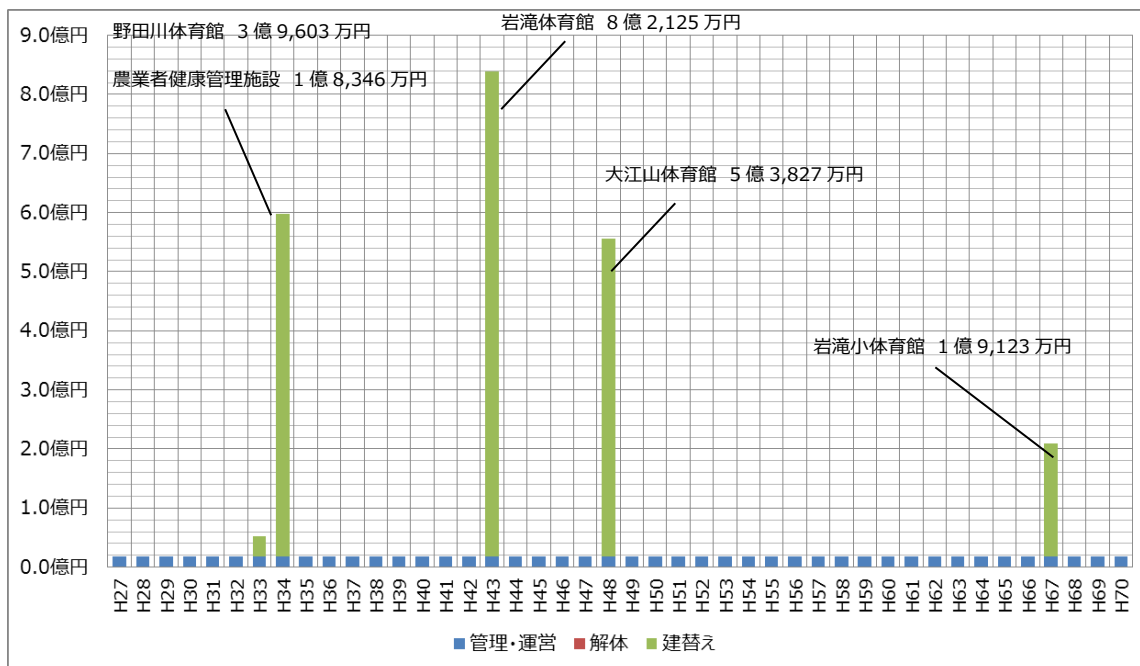
施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建替え		解体	
				実施年度	コスト (解体費含む)	実施年度	コスト
大江山体育館	S61	50年	191,780	H48	538,272	参考	44,856
岩滝体育館	S56	50年	247,000	H43	821,254	参考	68,438
岩滝小体育館	H17	50年	160,650	H67	191,232	参考	15,936
野田川体育館	S57	40年	131,100	H34	396,025	参考	33,002
農業者健康管理施設	S57	40年	50,524	H34	183,463	参考	15,289
大江山運動公園グラウンド	S58	-	102,400	-	-	参考	-
岩滝グラウンド	S55	-	34,354	-	-	参考	-
野田川グラウンド	S57	-	128,600	-	-	参考	-
算所社会体育グラウンド	S62	-	43,710	-	-	参考	-
大江山運動公園テニスコート	S61	-	35,000	参考	30,108	参考	-
城山公園テニスコート	S59	-	-	参考	41,600	参考	-
野田川テニスコート	S57	-	-	参考	37,570	参考	-
城山公園弓道場	S61	35年	8,000	H33	34,142	参考	2,845

合計 2,273,666 合計 180,366

テニスコート除く 2,164,388

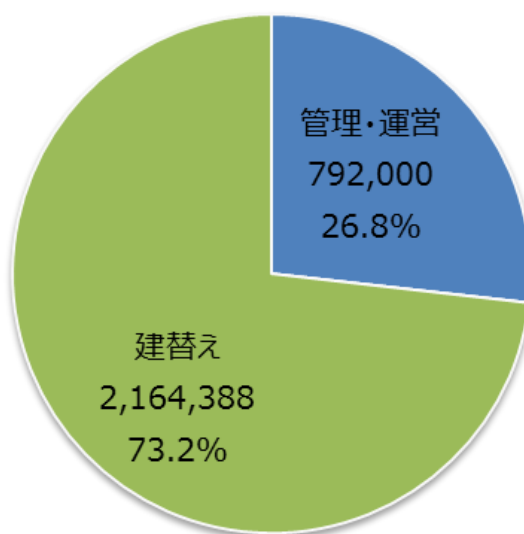
管理・運営コスト（平成 25 年度実績をベースに横置き）も含めた将来コストの推移は以下のとおりです。

【スポーツ施設将来コスト推移グラフ】



コスト総額約 29.5 億円（整備 21.6 億円、解体 0 億円、管理・運営 7.9 億円）

【スポーツ施設将来コスト内訳グラフ（単位：千円）】



その５ まとめ

１ 現状・課題

●建物状況

スポーツ施設のほとんどは昭和 50 年代から昭和 60 年代の初めに建設されたものが多く、昭和 63 年の京都国体に向けてスポーツ振興の機運の中で一斉に整備されたという印象です。したがってほとんどの施設が建設から 30 年が経過しており、実際に大江山体育館は平成 25 年度に約 1 億円をかけて大規模改修を行ったところです。体育館施設は他のグラウンドやテニスコートの屋外体育施設に比べ建設（建築）コストが高く、また耐震化という問題があります。その問題に直面しているのが岩滝体育館です。岩滝体育館は京都国体のウェイトリフティング会場として使用され、町内の 3 体育館の中でも規模が大きく、岩滝小体育館も隣接した建物です。岩滝体育館の耐震診断を行ったところ、当地方は豪雪地帯であることから、その分厳しい耐震基準に当てはめることになっており、耐震性がないという診断になっています。岩滝体育館をどう維持していくかが大きな課題と言えます。

●防災状況

大江山体育館が急傾斜地の警戒区域に指定されています。また、岩滝体育館は耐震基準を満たしていませんので、地震時の避難所に指定されていません。

●利用状況

与謝野町では体育協会傘下の各競技団体の活動が活発なので、利用はどの施設も多いです。特に岩滝地域の施設は利用が多い印象です。

●コスト状況

管理・運営コストについては他のカテゴリーと比べ一施設あたりのコストはそれほど高くない状況です。その中でも岩滝体育館のコストが高い印象ですが、体育協会への管理運営委託料が 3 百万円ほどあり、体育協会の事務運営経費も含まれていることから、それを差し引けば他の体育館と同様のコストになります。

一方、今後の整備費用ですが、トータルで約 21.6 億円かかります。そのほとんどは体育館の建替え費用で、約 21.3 億円となっています。このまま全ての体育館を残していくとなると非常に大きなコストが発生することとなります。

●現状のまとめ（今後の展望も含めて）

スポーツ施設で課題となるのが今後の体育館の在り方についてです。体育館は小学校と並んで「合併により多く存在する施設」の代表例として挙げられており、与謝野町も例外ではありません。例えば与謝野町のどの体育館を廃止にするかと考えた場合、非常に難しい問題に直面します。大江山体育館は平成 25 年度に補助金を活用して大規模改修を実施したばかりです。岩滝体育館は利用も多く、規模の面でも中心となり得る体育館ですが、耐震補強工事すると大きなコストがかかると試算されています。野田川体育館は 3 体育館のなかで最も古く、併設された中央公民館の老朽化も激しいですが、利用件数は 3 体育館の中で最も多く、

併設する中央公民館の利用件数が少ないことは真逆の状況にあります。安全性に問題が生じたときに大規模改修を行うのか、建て替えるのか、解体するかの選択が大きな課題になります。利用に関する詳細な調査（時間帯ごとの利用など）や、利用団体との協議を進めるとともに、統合で昼間の利用がなくなると予想される小学校体育館の活用など、今後のスポーツ振興を進める上では全町的な視点で検討する必要があると考えます。

8 文化施設

その1 施設の概要

文化施設は与謝野町の歴史や文化を体験する目的で整備された施設です。施設概要では個々の施設について説明します。

【文化施設一覧】

施設名	所在地	面積 (㎡)		建築年	運営形態
		敷地	延床		
古墳公園	明石2341番地	46,863.0㎡	-	H4	指定管理
物産展示館 (古墳)			206.8㎡	H4	指定管理
はにわ資料館 (古墳)			464.2㎡	H4	指定管理
加悦椿文化資料館	滝1986番地	1,517.3㎡	278.1㎡	H8	指定管理
滝のツバキ公園	滝地内	1,909.0㎡	-	H1	直営
旧尾藤家住宅	加悦1085番地 1086番地 1086番地2	1,239.7㎡	1,801.4㎡	1863年	指定管理
旧加悦町役場庁舎	加悦1060番地	1,764.0㎡	512.1㎡	S4	委託
旧加悦鉄道加悦駅舎	加悦433番地8	911.2㎡	233.7㎡	大正15年	指定管理
江山文庫	金屋1682番地	2,132.0㎡	575.0㎡	H4	直営
三河内郷土資料室	三河内1570番地	420.0㎡	369.1㎡	H12	直営
農村文化保存伝習センター	明石2357番地	3,218.0㎡	382.8㎡	S56	直営
松風庵	滝728番地1	-	24.4㎡	S62	直営
		合計	59,974.2㎡	4,847.6㎡	

【施設位置図】



■ 古墳公園

郷土の歴史的文化資料の保存及び活用を図り、町民の地域文化の理解及び向上に資するため、平成 4 年に古墳公園は整備されました。

日本海地域屈指の大型古墳の国史跡「蛭子山（えびすやま）古墳」と国史跡「作山（つくりやま）古墳」を復元整備した歴史公園です。

現在、丹後王国古墳公園保存会合同会社が指定管理者として管理・運営しています。



古墳全景



物産展示館



はにわ資料館

■ 加悦椿文化資料館/滝のツバキ公園

椿文化資料館は、現在、与謝野町の木となっている椿の文化的な資料等の収集保存及び活用により、地域文化の向上に資するため、平成 8 年に旧加悦町で整備されました。有限会社明人夢村が指定管理者として管理・運営しています。

滝の千年ツバキ公園は、日本最長寿級の大椿である京都府指定天然記念物「滝のツバキ」周辺の環境整備により作られた自然公園施設です。「滝のツバキ」は、奥深い谷のさらに奥で、樹高 9.7 メートル、枝張り径 10.0 メートル、幹周 3.26 メートルもある大椿で、公園エントランス広場手前の駐車場からは徒歩 300 メートルのところに位置しています。



加悦椿文化資料館



滝のツバキ

■ 旧尾藤家住宅

旧尾藤家住宅は近畿北部の大型農家を基本として、それに丹後の生糸ちりめん商家の要素を加え、さらに昭和初期の洋風建築が付加されているなど、和と洋が融合した建築と評価され、平成 14 年 3 月 26 日、京都府有形文化財に指定されました。同年 11 月に尾藤家より加悦町（当時）へ建物が寄付され、加悦町が平成 15 年度に保存修復工事を行い一般に公開されています。現在は、ちりめん街道を守り育てる会が指定管理者として管理・運営しています。



■ 旧加悦町役場庁舎

加悦町役場として昭和 3 年に起工、昭和 4 年に竣工され、平成 13 年度に新庁舎が建設されるまでの 70 年以上の間役目を果たしました。現在は、与謝野町観光協会が設置されており、管理委託されています。今後はちりめん街道活性化の取組のなかで、建物の利活用に向けた整備（耐震補強、建築基準法、消防法などを満たすような改修）も検討されています。



■ 旧加悦鉄道加悦駅舎

旧加悦鉄道加悦駅舎は、大正 15 年に開業した小さな私鉄「加悦鉄道」を紹介する鉄道資料室となっています。駅舎自体も大正 15 年に建てられた洋風の木造 2 階建てで、新しい町を象徴する建物として親しまれてきました。平成 8 年に加悦町有形文化財に指定され、平成 11 年から 13 年に加悦町役場（現加悦庁舎）建設のために現在の場所に移設されました。NPO 法人加悦鉄道保存会が指定管理者として、管理・運営しています。



■ 江山文庫

江山文庫は、寄贈を受けた数々の短歌・俳句資料を保存活用し、与謝蕪村、与謝野礼蔵、鉄幹・晶子ら当町ゆかりの俳人・歌人を顕彰しつつ、地域文化の振興を図ることを目的として平成 6 年 10 月に開館しました。



地域の教育文化の発展に寄与する施設として、短歌・俳句を中心とした展示活動をはじめ、与謝野町俳句大会や各種講座の開催など、さまざまな文化事業に取り組み、多くの方に親しまれる資料館です。

■ 三河内郷土資料室

郷土に残る民俗資料の保存と活用を図り、町民の教育及び文化の向上に資するため、歴史や文化にふれあう場を提供することを目的とし、郷土資料室を設置しています。



■ 農村文化保存伝習センター

与謝野町の農村文化の保存及び伝習並びに地域住民の研修、会合等の用に供するため、農村文化保存伝習センターは設置されています。現在、展示室は「はにわ資料館」にあり、大量の文化財の収蔵庫・文化財整理室として活用しています。また、学童保育にも利用しています。



■ 松風庵（茶室）

松風庵(茶室)は、日本の伝統文化である茶道を通し、町民相互の交流を深め、文化及び教養の向上等、福祉の増進を推進するとともに、伝統文化の継承に資するために昭和 62 年に設置されました。大江山運動公園内にあります。



その2 施設の物理的状況

公園や文化財として位置づけられている建物に関しては、老朽化率を算出していません。その他の施設に関しては松風庵の老朽化が目立っていますが耐用年数到達の施設はありません。

① 老朽化の状況

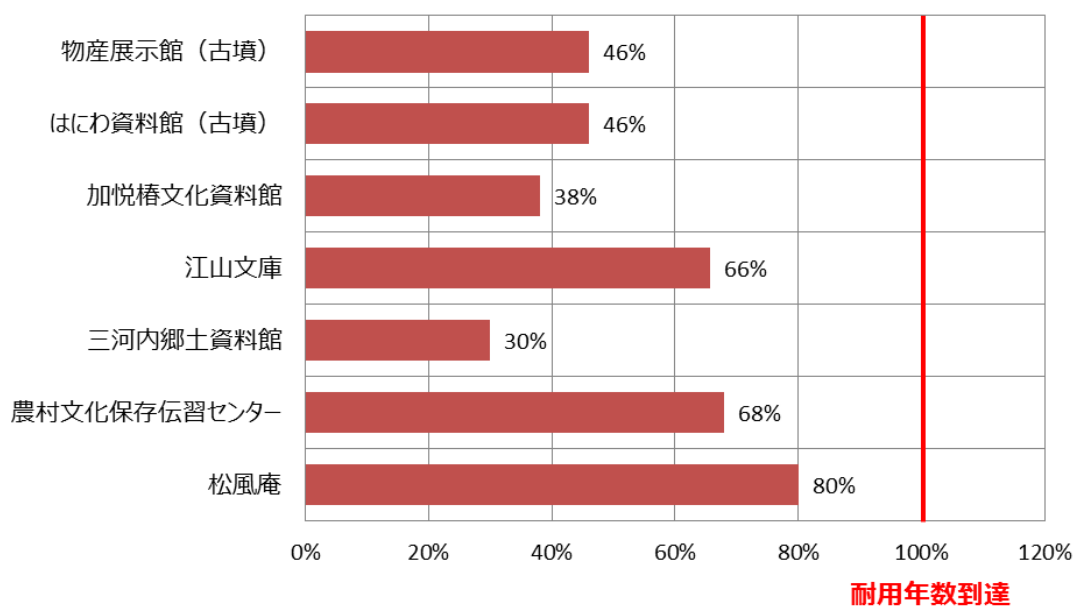
【文化施設老朽化一覧】

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建設年	耐用年数到達	老朽化率	
古墳公園	-	H4	-	-	-
物産展示館（古墳）	鉄筋コンクリート造1階建	H4	H54	46%	有
はにわ資料館（古墳）	鉄筋コンクリート造1階建	H4	H54	46%	有
加悦椿文化資料館	鉄筋コンクリート造1階建	H8	H58	38%	有
滝のツバキ公園	-	H1	-	-	-
旧尾藤家住宅	木造2階建	文久3年 (1863年)	-	-	無
旧加悦町役場庁舎	木造2階建	S4	-	-	無
旧加悦鉄道加悦駅舎	木造2階建	大正15年	-	-	有
江山文庫	木造1階建	H4	H39	66%	有
三河内郷土資料館	鉄筋コンクリート2階建	H12	H62	30%	有
農村文化保存伝習センター	鉄筋コンクリート1階建	S56	H43	68%	有
松風庵	木造1階建	S62	H34	80%	有

※老朽化率は（経過年数/耐用年数）で算出しています。100%を超える場合は耐用年数超過です。

※耐用年数は鉄筋コンクリート造は50年、鉄骨造は40年、木造は35年を想定しています。

※古墳公園、滝のツバキ公園などの公園や、旧尾藤家住宅、旧加悦町役場、旧加悦鉄道加悦駅舎は文化財に位置付けられる建物ですので老朽化率はお示していません。



② バリアフリー化状況

文化施設のバリアフリー化状況は、以下のとおりです。整備された年度によってややばらつきがありますが、人が多く訪れる施設ですので、一定の整備はされています。

【文化施設バリアフリー化状況】

学校名	バリアフリー設備						
	多目的トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	エレベーター	階段昇降機
古墳公園	○	○	○	○	○	-	-
物産展示館（古墳）	○	○	○	○	○	-	-
はにわ資料館（古墳）	○	○	○	○	○	-	-
加悦椿文化資料館	-	不要	-	○	○	-	-
滝のツバキ公園	-	-	-	○	-	-	-
旧尾藤家住宅	-	-	-	○	-	-	-
旧加悦町役場庁舎	○	○	-	○	○	-	-
旧加悦鉄道加悦駅舎	○	○	-	○	○	-	-
江山文庫	○	○	○	○	○	-	-
三河内郷土資料館	-	-	-	○	-	-	-
農村文化保存伝習センター	-	○	-	-	-	-	-
松風庵	-	-	-	-	-	-	-

③ 防災状況

文化施設は郊外にあるものもあり、滝のツバキ公園などは警戒区域内にあります。

【文化施設防災状況】

施設名	避難所指定		警戒区域の指定		
	水害	地震	浸水想定区域	土砂災害（特別）警戒区域	
				急傾斜地の崩壊	土石流
古墳公園	-	-	-	-	-
物産展示館（古墳）	-	-	-	-	-
はにわ資料館（古墳）	-	-	-	-	-
加悦椿文化資料館	-	-	-	-	特別警戒区域内
滝のツバキ公園	-	-	-	-	特別警戒区域内
旧尾藤家住宅	-	-	-	-	-
旧加悦町役場庁舎	-	-	-	-	-
旧加悦鉄道加悦駅舎	-	-	0.5m～3.0m	-	-
江山文庫	-	-	-	警戒区域内	特別警戒区域内
三河内郷土資料館	-	-	-	-	-
農村文化保存伝習センター	-	-	-	-	-
松風庵	-	-	-	-	-

その3 施設の利用状況

文化施設の利用人数は以下の表のとおりです。古墳公園や旧尾藤家住宅は年間 3,000 人を超える利用人数があります。一方で季節的なこともあります。加悦椿文化資料館はやや低調に見えます。施設によって人数把握の方法が異なっていたり、他団体の同系施設と比較が困難なことから、利用数での評価は難しいです。

【文化施設利用人数推移表】

施設名	利用人数				
	H21	H22	H23	H24	H25
古墳公園	3,576人	3,041人	2,775人	3,340人	3,048人
物産展示館（古墳）	5,265人	4,537人	4,379人	4,818人	5,387人
はにわ資料館（古墳）	3,576人	3,041人	2,775人	3,340人	3,048人
加悦椿文化資料館	912人	815人	577人	763人	830人
旧尾藤家住宅	3,689人	3,085人	4,146人	3,876人	3,566人
旧加悦町役場庁舎	—	1,094人	4,059人	4,490人	4,228人
旧加悦鉄道加悦駅舎	2,039人	1,525人	1,655人	1,605人	1,564人
江山文庫	1,806人	1,540人	1,904人	1,956人	1,943人
三河内郷土資料館	948人	826人	1,226人	959人	659人
農村文化保存伝習センター	学童保育で活用				

※農村文化保存伝習センターは、桑飼小学校区の学童保育で活用されています。

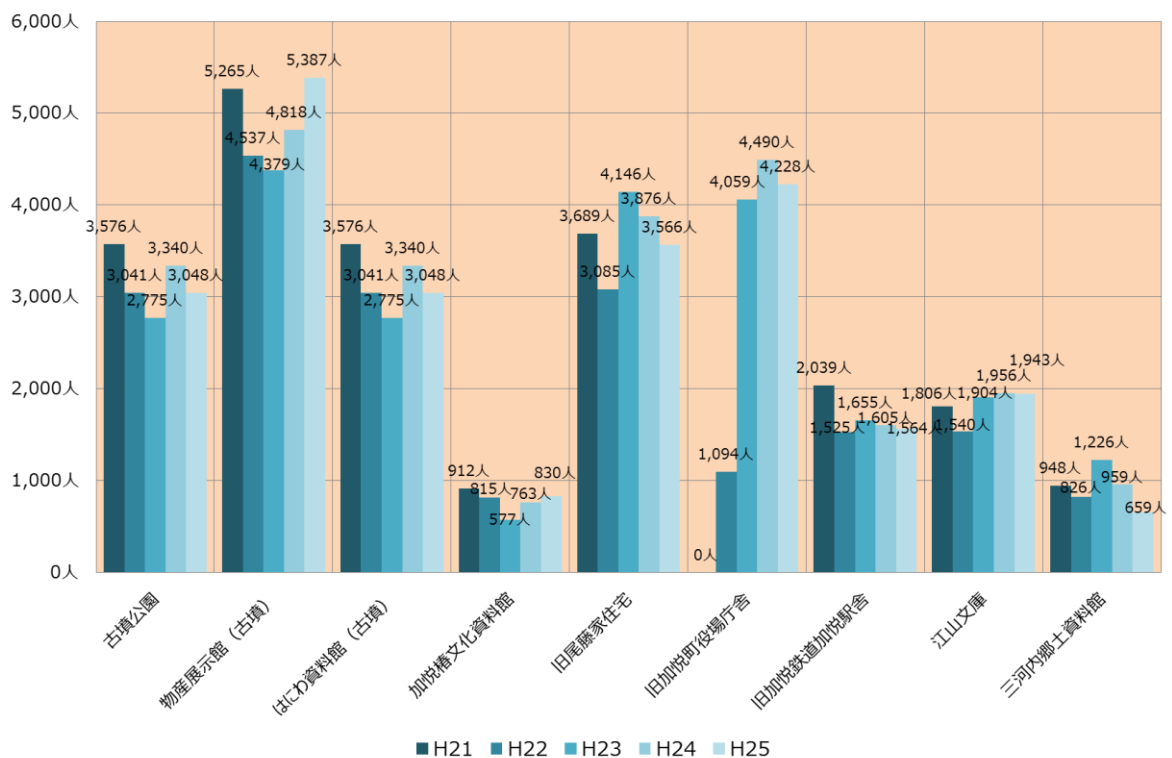
※滝のツバキ公園は利用人数の把握はしていません。

※表記はないですが、松風庵は利用実績は年間で1～2件となっています。

※旧加悦町役場庁舎は、観光協会設置以降の人数です。

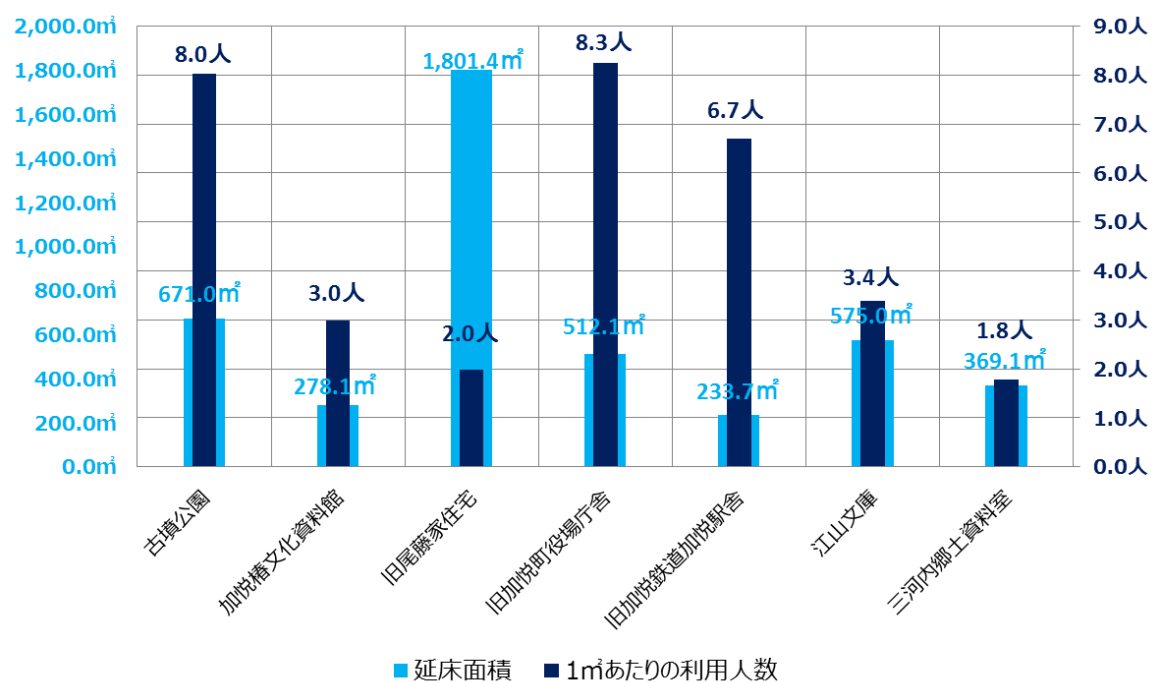
※旧加悦鉄道加悦駅舎は、平成22年の10月より加悦鉄道保存会の管理となった以降の人数です。

【文化施設利用人数推移グラフ】



建物規模と利用人数を比較してみると以下のグラフのようになります。体験レクリエーション施設とは違い、観光等を目的としているわけではないので、延床面積 1 m²あたりの利用人数はそれほど多くはありません。古墳公園の 1 m²あたりの利用人数 8.0 人は、物産展示館とはにわ資料館の延床面積合計と物産展示館の利用人数で算出していますので、他施設と比較するには妥当な数字ではないと考えます。この比較はあくまで参考数値にとどまるものです。

【文化施設 1 m²あたりの利用人数グラフ】



その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

管理・運営面での年間コストは以下のとおりです。

【文化施設管理・運営コスト一覧】

(単位：千円)

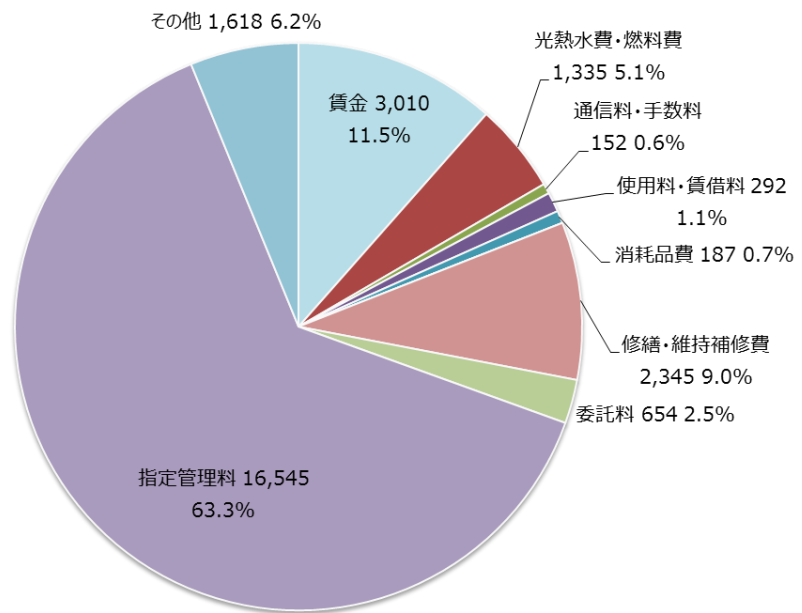
項目	古墳公園	加悦椿文化資料館	滝のツバキ公園	旧尾藤家住宅
賃金	76	0	0	0
光熱水費・燃料費	0	0	0	0
通信料・手数料	0	0	0	0
使用料・賃借料	0	0	50	213
消耗品費	0	0	0	0
備品購入費	0	0	0	0
賄・医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	1,076	0	254	0
委託料	0	0	91	0
指定管理料	8,500	2,456	0	3,945
その他	86	32	17	171
合計	9,738	2,488	412	4,329
項目	旧加悦町役場庁舎	旧加悦鉄道加悦駅舎	江山文庫	三河内郷土資料室
賃金	0	0	2,219	715
光熱水費・燃料費	334	0	1,001	0
通信料・手数料	0	0	119	33
使用料・賃借料	0	0	29	0
消耗品費	0	0	174	5
備品購入費	0	0	0	0
賄・医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	18	997	0	0
委託料	124	11	385	0
指定管理料	0	1,644	0	0
その他	82	51	1,146	15
合計	558	2,703	5,073	768
項目	農村文化保存伝習センター	松風庵	合計	
賃金	0	0	3,010	
光熱水費・燃料費	0	0	1,335	
通信料・手数料	0	0	152	
使用料・賃借料	0	0	292	
消耗品費	8	0	187	
備品購入費	0	0	0	
賄・医薬材料費	0	0	0	
修繕・維持補修費	0	0	2,345	
委託料	11	32	654	
指定管理料	0	0	16,545	
その他	18	0	1,618	
合計	37	32	26,138	

※金額は平成25年度の実績額です。

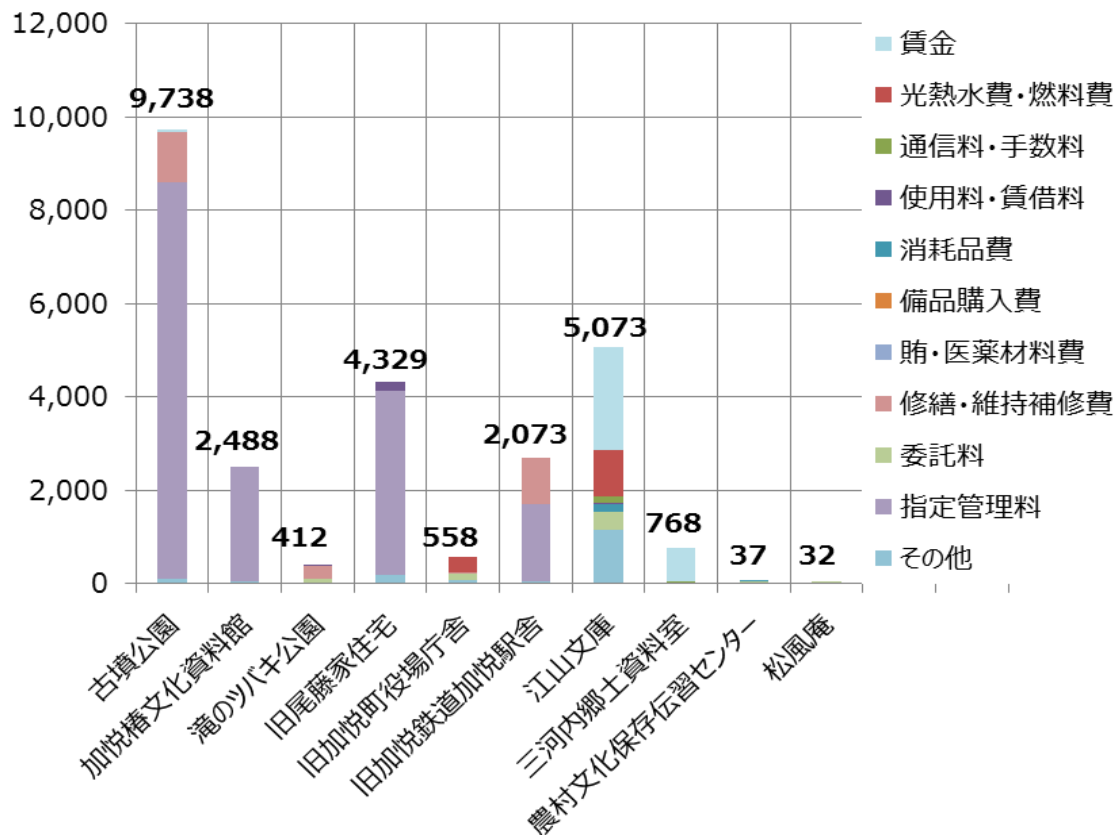
※古墳公園は平成25年度から指定管理に移行しています。

※物産展示館、はにわ資料館のコストは古墳公園に含まれています。

【文化施設管理・運営コスト内訳グラフ①（単位：千円）】



【文化施設管理・運営コスト内訳グラフ②（単位：千円）】



各施設のコスト状況を比較すると、古墳公園のコストが多くなっています。指定管理施設の収支は以下のとおりとなっています。

【文化施設指定管理者の収入・収支一覧】

(単位：千円)

【参考：利用料金等ある施設】

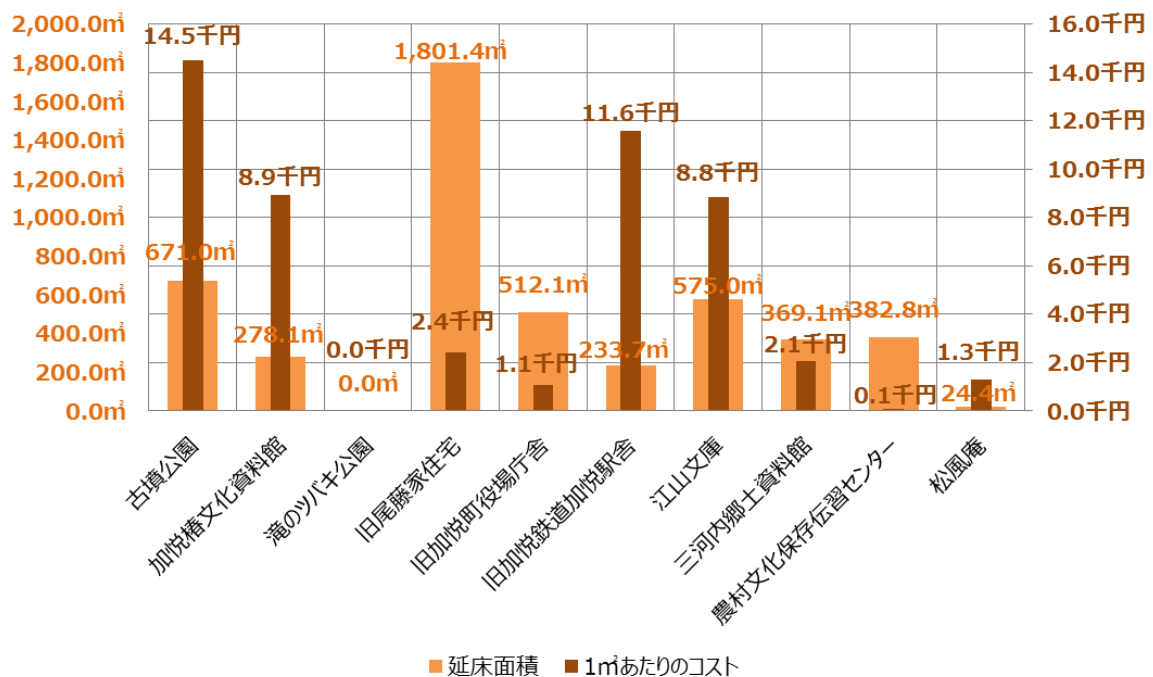
科目	古墳公園	椿文化資料館	旧尾藤家住宅	旧加悦鉄道加悦駅舎
利用料収入	428	114	574	0
販売等収入	187	11	144	0
その他	331	0	1	0
指定管理料	8,500	2,456	3,945	1,644
収入合計	9,446	2,581	4,664	1,644
支出合計	9,458	2,686	4,625	1,673
差引	-12	-105	39	-29
指定管理者	丹後王国古墳公園保存会合同会社	有限会社 明人夢村	ちりめん街道を守り育てる会	特定非営利活動法人加悦鉄道保存会
収入中の指定管理料割合	90.0%	95.2%	84.6%	100.0%

江山文庫	三河内文化資料室
174	22
0	0
0	0
0	0
174	22

※古墳公園には物産展示館、はにわ資料館も含まれています。

参考に、建物の規模とコストを比較すると以下の表のとおりとなります。1㎡あたりの管理・運営コストを算出しました。加悦椿文化資料館や旧加悦鉄道加悦駅舎では建物規模に対してコストがかかっているように見えます。古墳公園は物産展示館とはにわ資料館の延床面積の合計で比較していますので、他施設と比べ数値の妥当性が低いと考えます。

【文化施設 1㎡あたりの管理・運営コストグラフ】



② 整備等のコスト（建替え・解体コスト）

【整備時期の考え方】

☆耐用年到達時に建替え

☆耐用年数経過している建物は5年以内に建替え。

ただし、文化財に位置付けられる施設（旧尾藤家住宅、旧加悦町役場庁舎、旧加悦鉄道加悦駅舎）は大規模改修。すでに改修が施されている旧尾藤家住宅と旧加悦鉄道加悦駅舎は30年後に実施すると想定し、大きな改修が実施されていない旧加悦町役場庁舎は5年以内に改修。

☆建替える必要性がないと考えられる建物は耐用年数到達時に解体（耐用年数が既に到来している場合は5年以内に解体）。

【コストの考え方】

○旧尾藤家、旧加悦町役場庁舎、旧加悦駅加悦駅舎

大規模改修・・・25万円/㎡

※大規模改修コストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました（社会教育系施設）。

○その他の施設：建設・・・40万円/㎡（解体費含む：社会教育系施設） 解体・・・3万円/㎡

※建設コストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました。

これらの単価に現在の容量、敷地面積、延床面積を乗じて算出したコストは以下のとおりです。

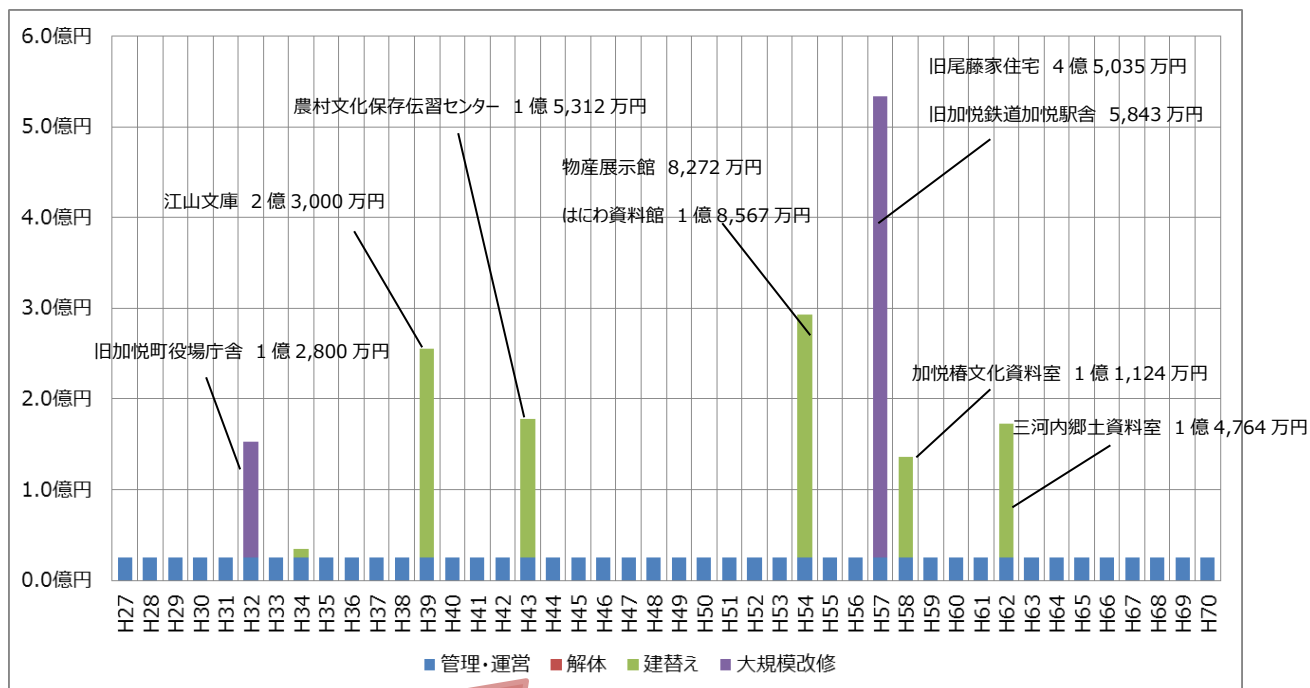
【文化施設整備等コスト一覧】

（単位：千円）

施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建て替え （網掛けは大規模改修）		解体	
				実施年度	コスト （解体費含む）	実施年度	コスト
古墳公園	H4	-	411,656	-	-	参考	-
物産展示館（古墳）	H4	50年	184,650	H54	82,720	参考	6,204
はにわ資料館（古墳）	H4	50年	176,003	H54	185,668	参考	13,925
加悦椿文化資料館	H8	50年	185,274	H58	111,240	参考	8,343
滝のツバキ公園	H1	-	7,486	-	-	参考	-
旧尾藤家住宅	文久3年 (1863年)	-	-	H57	450,350	参考	-
旧加悦町役場	S4	-	22	H32	128,025	参考	-
旧加悦鉄道加悦駅舎	大正15年	-	-	H57	58,425	参考	-
江山文庫	H4	35年	179,903	H39	230,000	参考	17,250
三河内郷土資料室	H12	50年	-	H62	147,640	参考	11,073
農村文化保存伝習センター	S56	50年	60,142	H43	153,120	参考	11,484
松風庵	S62	35年	9,800	H34	9,760	参考	732
※網掛け部分は改修工事を行う場合のコストです。				合計	1,556,948	合計	69,011

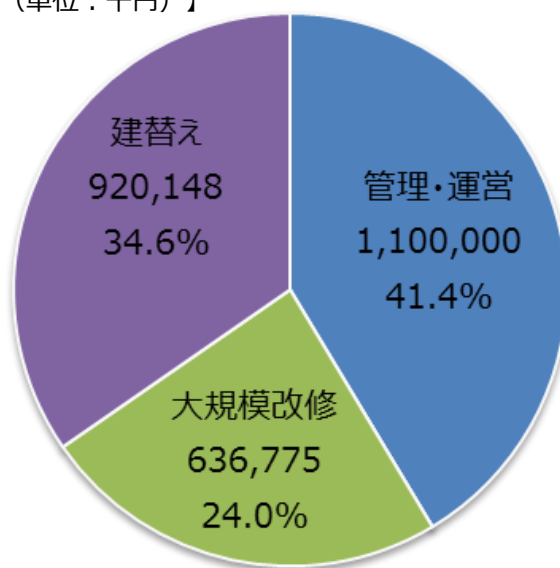
管理・運営コスト（平成 25 年度実績をベースに横置き）も含めた将来コストの推移は以下のとおりです。

【文化施設将来コスト推移表】



コスト総額約 26.6 億円（整備 15.6 億円、解体 0 億円、管理・運営 11 億円）

【文化施設将来コスト内訳グラフ（単位：千円）】



その5 まとめ

1 現状・課題

●建物状況

文化財として位置づけられる施設もあり、古い建物は100年以上の歴史がありますが、大規模改修も行い、維持できている状況です。そんな中でも旧加悦町役場は平成12年度まで役場機能を有しており、あまり手を加えられていない状況です。現在の旧加悦町役場庁舎は旧尾藤家住宅と同様に国選定の重要伝統的建造物群保存地区「ちりめん街道」のシンボルでもあり、町外から来られる観光客が安心して見学できるような改修を施す必要があります。

●防災状況

滝のツバキ公園は平成16年度の台風23号の時も大きな被害にあっており、防災面ではやや不安があります。

●利用状況

文化施設なので、学校の授業で見学するなどの利用もありますが、古墳公園やちりめん街道の施設（旧尾藤家住宅、旧加悦町役場庁舎）を除いて、一般の利用についてはそれほど多くない印象です。特に滝のツバキ公園を中心とするエリアは季節的なこともありますが、利用人数が多くない現状です。平成28年度の椿サミットが一つの契機になると考えられますが、その後の活用について検討する必要があります。

●コスト状況

管理・運営コストについては他のカテゴリーと比べ一施設あたりのコストはそれほど高くない状況です。その中でも古墳公園については他の施設と比べコストが高くなっている印象です。また、指定管理施設は4施設ありますが、その収入状況を見てみると指定管理料の割合が高くなっており、収入増の見込みが少ないことがわかります。

一方、今後の整備費用ですが、トータルで約15.6億円かかります。設置には歴史や経過があり、また、学校や体育館と違い町内唯一の施設である場合が多いですので、全てを残していく必要があるのか、他に活用の道がないのかを検討する必要があります。

●現状のまとめ（今後の展望も含めて）

ほとんどが旧加悦町時代に整備されており、それぞれ歴史や文化的背景を持って設置されています。今後についてはもう一度その設置目的を確認し現状と照らし合わせることによって、より有効な活用方法の検討や、分類分けをし直して施設を複合化したり、移譲、廃止ということも検討する必要があります。

9 図書館

その1 施設の概要

与謝野町の図書館は、旧町の中央公民館の1階玄関付近に設置されており、知遊館（岩滝）にある図書館を本館として、加悦分室（加悦地域公民館内）、野田川分室（中央公民館内）があります。

【図書館施設一覧】

施設名	所在地	面積（㎡）		建築年	運営形態
		敷地	延床		
与謝野町立図書館	岩滝2271番地	-	601.0㎡	H13	直営
図書館加悦分室	加悦451番地2	-	122.6㎡	S50	直営
図書館野田川分室	四辻142番地1	-	122.7㎡	S57	直営
合計			846.3㎡		

【施設位置図】



その2 施設の物理的状況

施設の老朽化の状況はそれぞれが配置された施設によります。

図書館本館・・・知遊館

加悦分室・・・加悦地域公民館

野田川分室・・・中央公民館

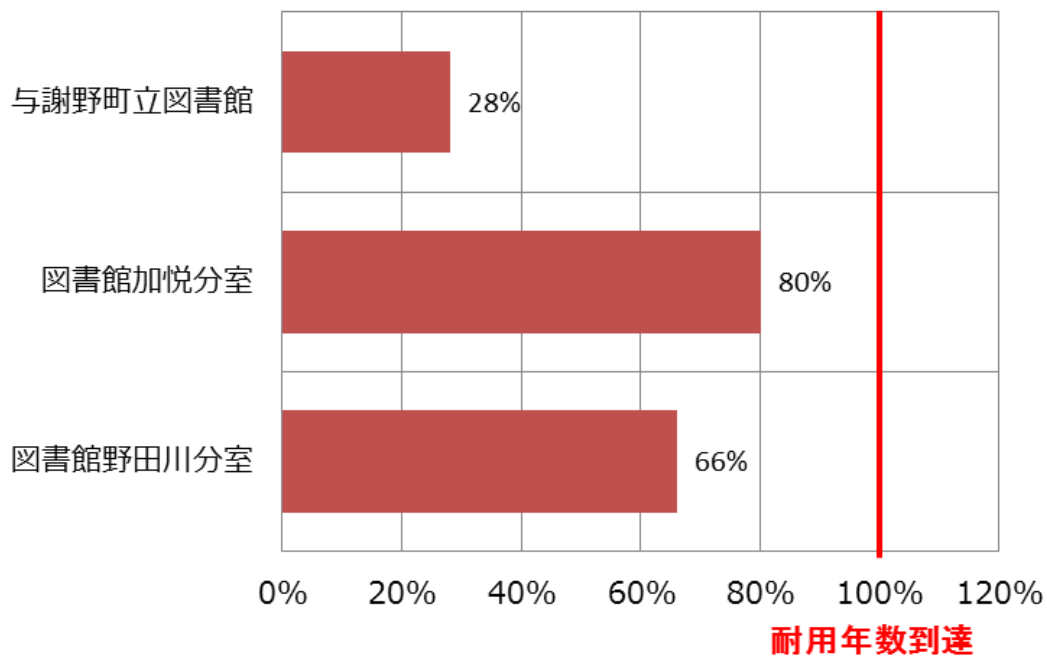
① 老朽化の状況

【図書館老朽化一覧】

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建築年	耐用年数到達	老朽化率	
与謝野町立図書館	鉄筋コンクリート造 3 階建	H13	H 63	28%	-
図書館加悦分室	鉄筋コンクリート造2階建	S50	H 37	80%	-
図書館野田川分室	鉄筋コンクリート造2階建	S57	H 44	66%	-

※老朽化率は（経過年数/耐用年数）で算出しています。100%を超える場合は耐用年数超過です。

※耐用年数は鉄筋コンクリート造は50年を想定しています。



老朽化率については、配置されている施設（中央公民館等）と同じです。

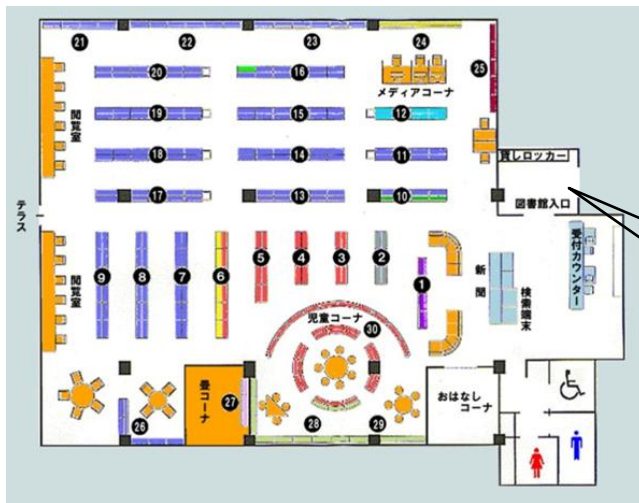
② 設備の状況

■図書館の規模（その1 配置図）

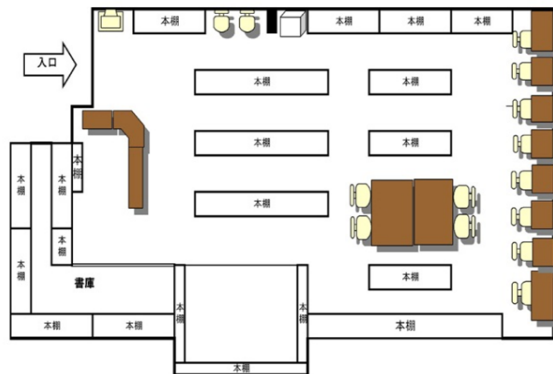
各図書館内部は以下の配置図のとおりです。

●与謝野町立図書館

低書架が多く、書架間も車いすがゆとりをもって通れるスペースがある一方、開架スペースにおける収容可能冊数は限られ、現在ほぼ飽和状態です。



601.0 m²



●図書館加悦分室

蔵書に対して全体的に書架が不足している状態でありま
す。収容スペース確保のため蔵書の一部（古い辞書辞典
類）を本館書庫へ移管して対応しています。

122.6 m²

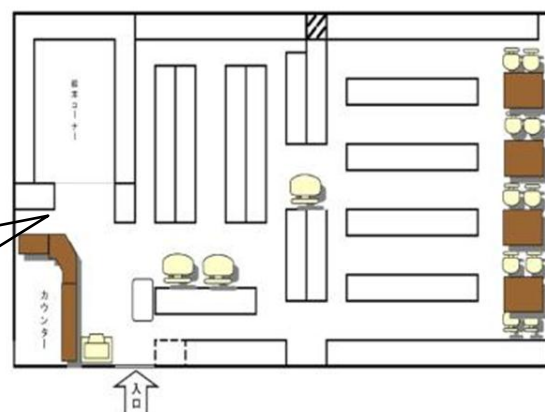


●図書館野田川分室

年々増える蔵書に対して、書庫も飽和状態で、
書架の追加購入などで対応していますが、全体的
にスペースが不足しています。



122.7 m²



※与謝野町内の図書館の本なら、どの図書館でも借りることが出来、どの図書館でも返すことができます。

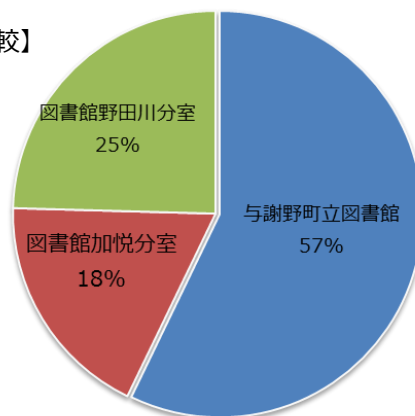
■図書館の規模（その2 蔵書数）

各図書館の蔵書数は以下のとおりです。与謝野町立図書館を本館としており、蔵書数で比較すればやはり本館が多くなっています。

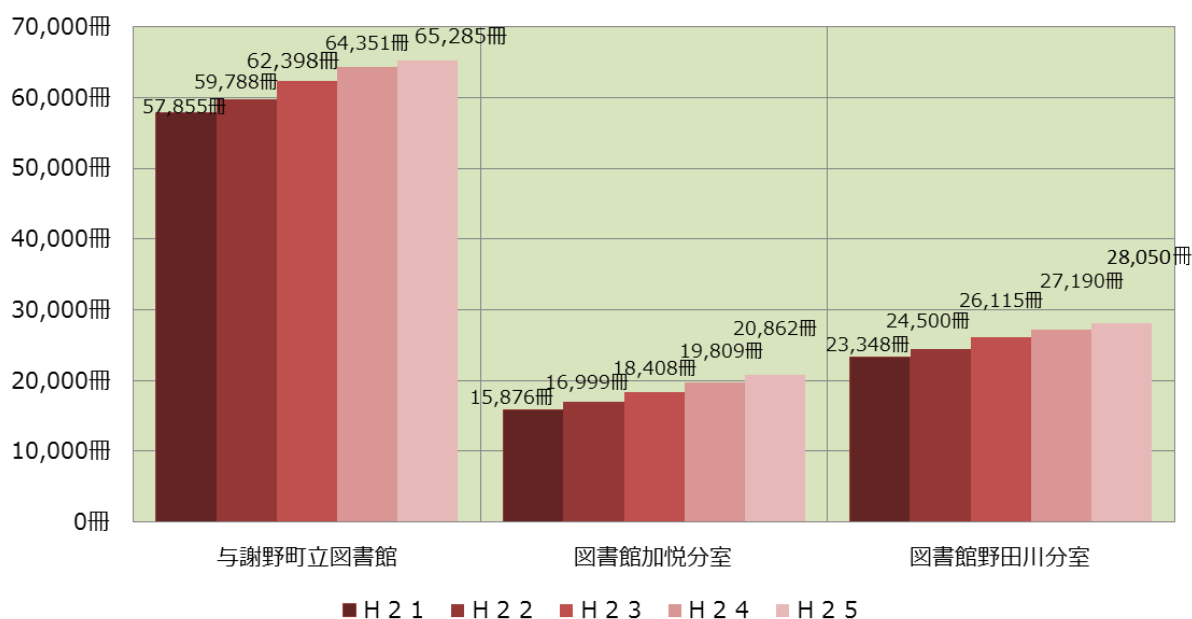
【図書館蔵書数推移表】〈視聴覚資料、雑誌を含む全資料数〉

施設名	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5
与謝野町立図書館	57,855冊	59,788冊	62,398冊	64,351冊	65,285冊
図書館加悦分室	15,876冊	16,999冊	18,408冊	19,809冊	20,862冊
図書館野田川分室	23,348冊	24,500冊	26,115冊	27,190冊	28,050冊
合計	97,079冊	101,287冊	106,921冊	111,350冊	114,197冊

【図書館蔵書数割合（H25 蔵書数で比較）】



【図書館蔵書数推移表】



③ 図書館のバリアフリー状況

図書館のバリアフリー化状況は、どの館も中央公民館、地域公民館に設置されているため、概ねバリアフリー化に対応しています。

施設名	バリアフリー化						
	身障者用	車いす用	自動ドア	手すり	点字 ブロック	車いす用	
	トイレ	スロープ				エレベーター	階段昇降機
図書館	○	○	○	-	○	○	-
図書館加悦分室	○	○	△	-	○	-	○
図書館野田川分館	○	○	△	-	-	-	-

※自動ドア「△」になっている加悦、野田川分室は建物玄関に自動ドアを設置し分館入口は引き戸になっています。

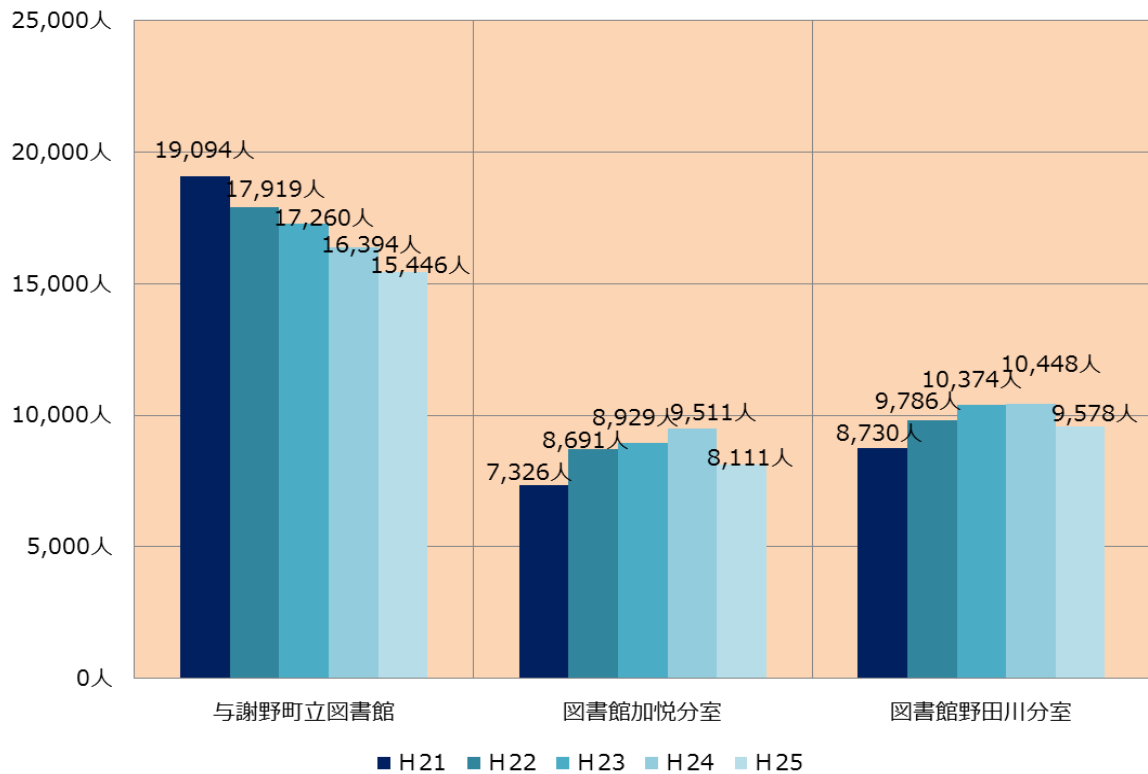
その3 施設の利用状況

図書館の利用状況の推移は以下のとおりです。利用者の利便性を勘案し平成24年7月に貸出冊数の上限を従来の5冊から10冊に引き上げました。その結果平成24年度には利用者は徴減したものの全体では2万冊以上の貸出冊数の増加につながっています。

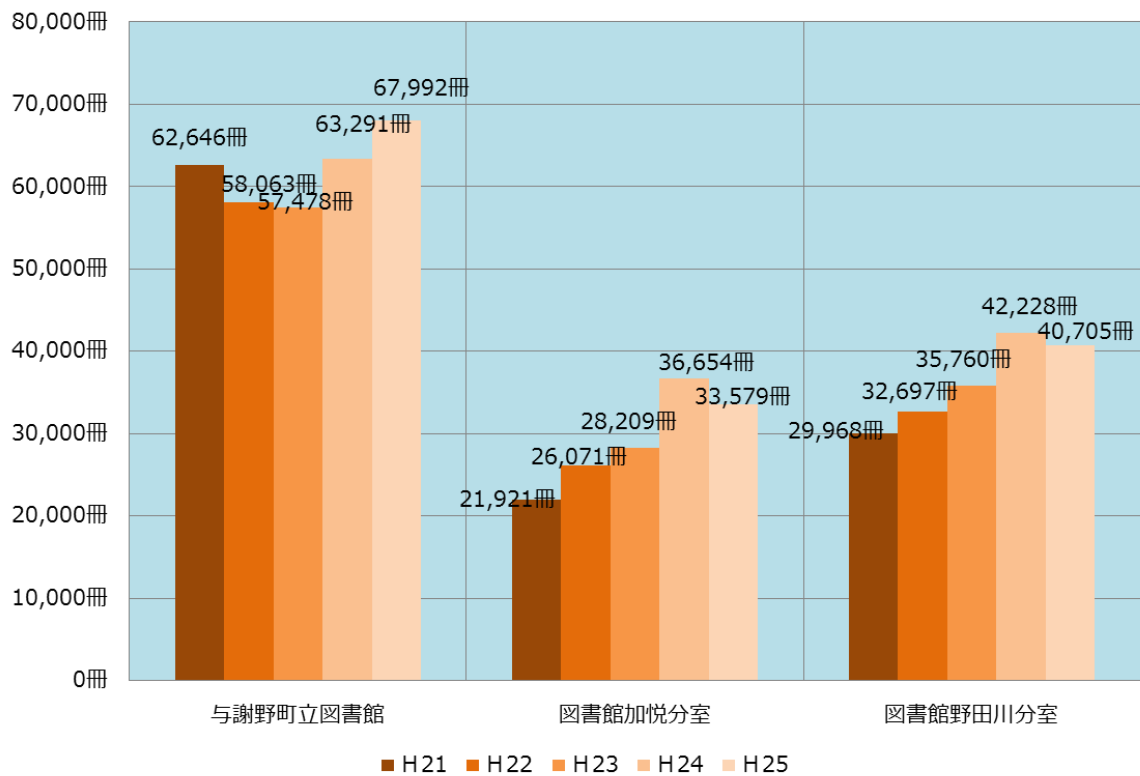
【図書館利用状況推移】

施設名	項目	H21	H22	H23	H24	H25
与謝野町立図書館	利用人数	19,094人	17,919人	17,260人	16,394人	15,446人
	貸出冊数	62,646冊	58,063冊	57,478冊	63,291冊	67,992冊
図書館加悦分室	利用人数	7,326人	8,691人	8,929人	9,511人	8,111人
	貸出冊数	21,921冊	26,071冊	28,209冊	36,654冊	33,579冊
図書館野田川分室	利用人数	8,730人	9,786人	10,374人	10,448人	9,578人
	貸出冊数	29,968冊	32,697冊	35,760冊	42,228冊	40,705冊
合計	利用人数	35,150人	36,396人	36,563人	36,353人	33,135人
	貸出冊数	114,535冊	116,831冊	121,447冊	142,173冊	142,206冊

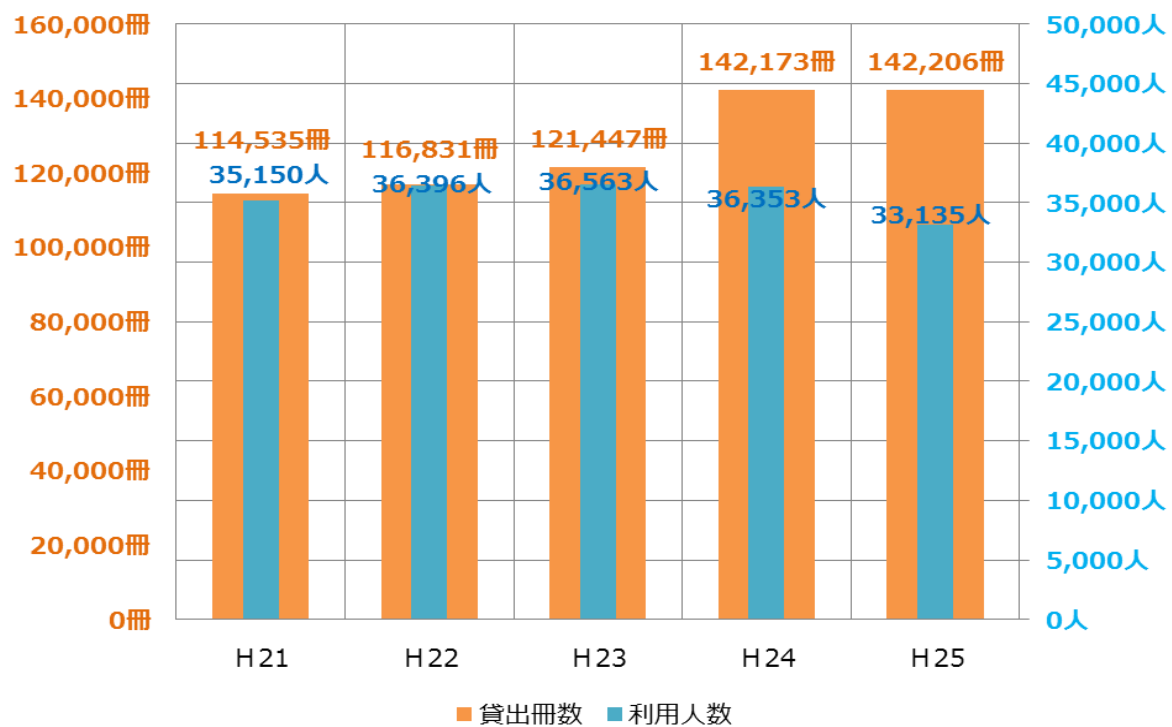
【図書館利用人数推移グラフ（図書館別）】



【図書館貸出冊数推移グラフ（図書館別）】



【図書館利用状況推移グラフ（全図書館）】



その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

図書館の管理・運営面での年間コストは以下のとおりです。

【図書館管理・運営コスト一覧】

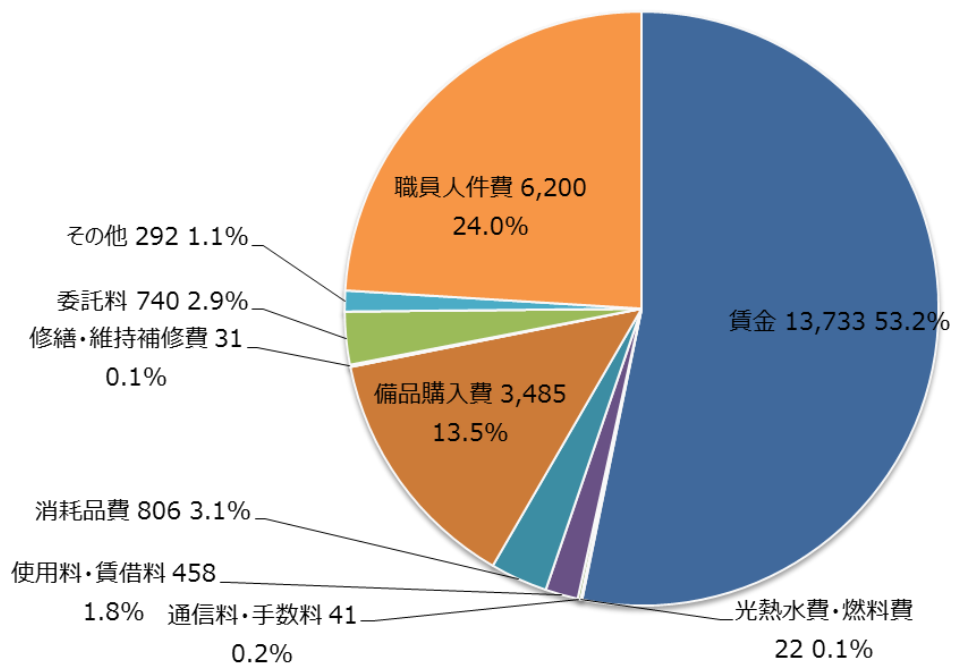
(単位：千円)

項目	与謝野町立 図書館	図書館 加悦分室	図書館 野田川分室	合計
賃金	7,699	2,916	3,118	13,733
光熱水費・燃料費	0	0	22	22
通信料・手数料	0	0	41	41
使用料・賃借料	372	0	86	458
消耗品費	630	63	113	806
備品購入費	1,717	853	915	3,485
賄・医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	0	31	0	31
委託料	740	0	0	740
指定管理料	0	0	0	0
その他	268	12	12	292
合計	11,426	3,875	4,307	19,608
参考：職員人件費	6,200	0	0	6,200

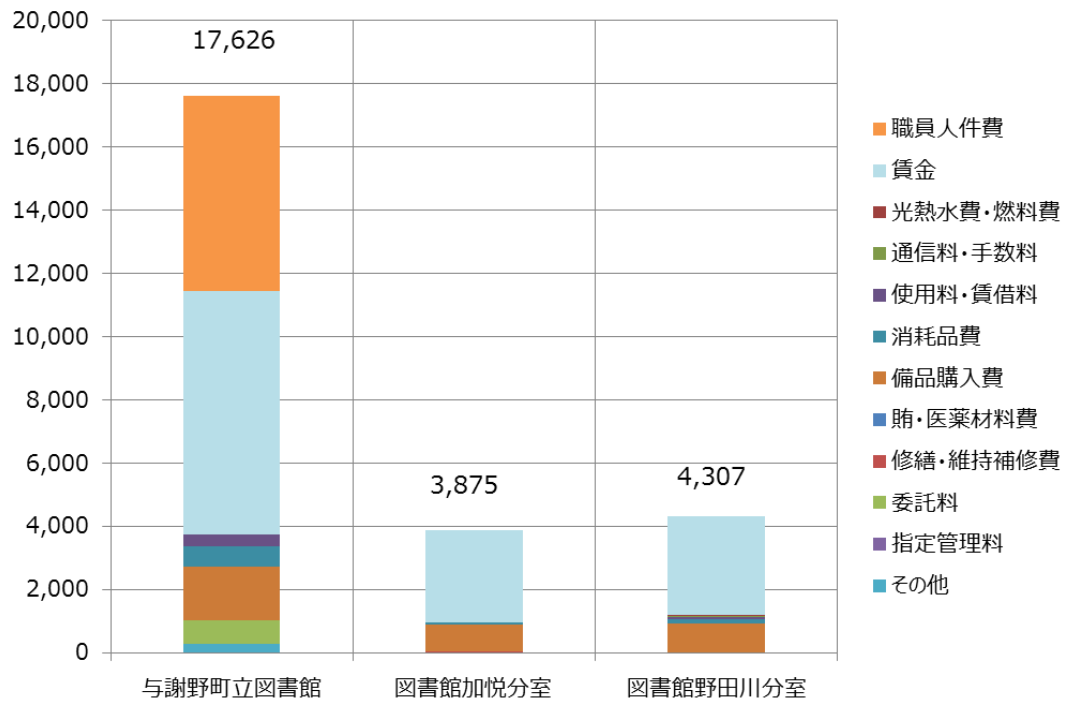
※平成25年度実績額です。

※光熱水費・通信料は公民館部分に包含されています（野田川分室を除く）

【図書館管理・運営コスト内訳グラフ①（単位：千円）】



【図書館管理・運営コスト内訳グラフ②（単位：千円）】



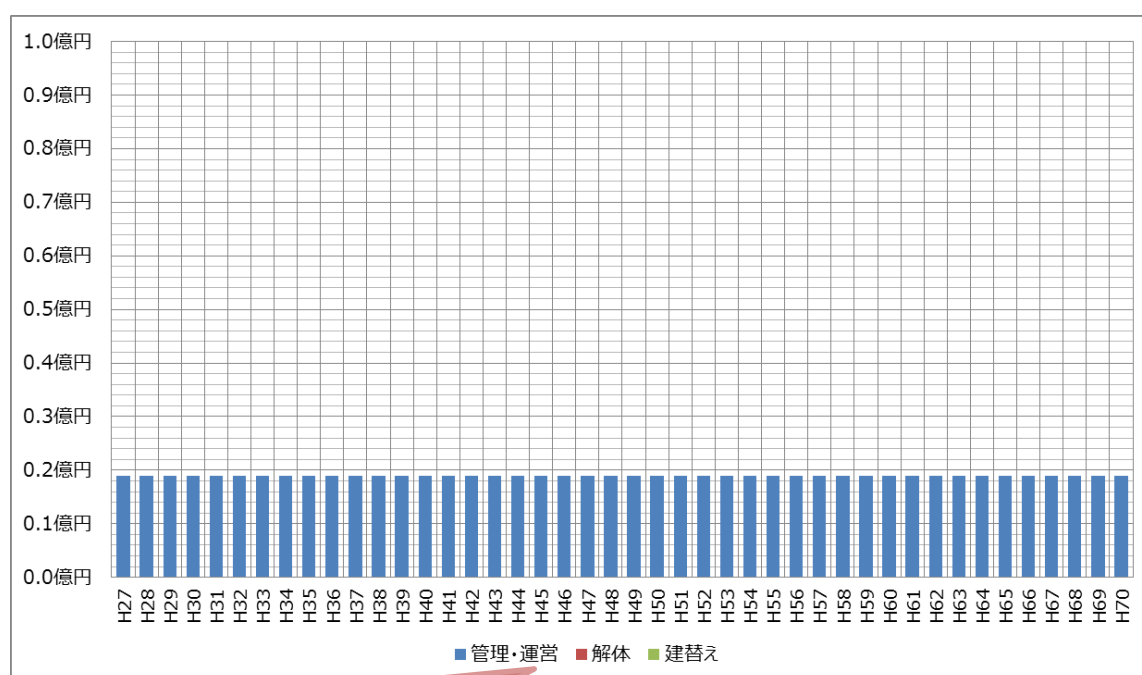
図書館の管理・運営コストで大きな割合を占めているのは、賃金です。ついで図書購入費である備品購入費となっています。光熱水費等については図書館が設置されている公民館施設に含まれています。

② 整備コスト（建替え・解体コスト）

設置された建物の建替え時に建替えることになります。別カテゴリー「大規模集会施設」の整備コストの中に含まれますので、このカテゴリーでは示しません。

管理・運営コストの推移は以下のとおりです（平成 25 年度実績をベースに横置き）。

【図書館将来コスト推移表】



コスト総額約 8.4 億円（整備 0 億円、解体 0 億円、管理・運営 8.4 億円）

その5 まとめ

1 現状・課題

●建物状況

図書館の建物状況については、設置されている中央公民館等によりますので図書館単独で言及はできません。特筆すべきことは、与謝野町立図書館は知遊館建設当時から 1 階に設置されていましたが、2 分室についてはもともと 2 階に設置されていた図書館を 1 階に移設した経過があります。利用される方々の利便性に配慮した整備を行ってきました。

●防災状況

設置されている中央公民館等の建物の状況による場所ですので、ここでは言及しません。

●利用状況

利用状況は全体で見ると平成 23 年度から 24 年度には全館で 2 万冊以上の増加、それ以降は貸出し人数が減少、貸出冊数は微増しています。

比較的新しくて面積も広く設備や蔵書が揃っている与謝野町立図書館の利用が一番多いですが、各分室についてもネットワーク化による蔵書の有効活用をはじめ、本棚の増設や 1 階への移設（加悦分室）などの環境整備を図ったことにより、貸出数は増加しています。

●コスト状況

管理・運営コストについては、賃金の割合が高くなっています。図書購入費以外に目立った支出がなく、賃金の割合が高い印象を受けますが、実際の臨時職員数は与謝野町立図書館 5 人、加悦分室 4 人、野田川分室 4 人であり、現状のままの管理・運営を行うには必要人数であると考えます。

●現状のまとめ（今後の展望も含めて）

図書館は建物だけで見た場合、どうしても設置されている中央公民館などの老朽化状況によるところ大きくなります。特に中央公民館は老朽化が激しく、近い将来、野田川地域の公民館の在り方を検討していかなければなりません。

一方で、直営のままでの管理・運営については、他の合併市町の例を見ると、規模の小さな図書館の運営を地域住民が担ったり、指定管理や民営化など民間のノウハウを取り入れて運営を行っている事例もあります。

10 体験・レクリエーション施設

その1 施設の概要

与謝野町では旧町時代から、まちの特色を体験し楽しむ施設が多く整備されてきました。それは観光施設であつたり商工産業施設であつたり様々で、合計 14 施設になります。岩滝地域は 2 施設、野田川地域は 3 施設、加悦地域は 7 施設あります。運営形態については、直営施設が 5 施設、指定管理施設が 8 施設、業務委託施設が 1 施設です。施設概要ではそれらをカテゴリーに分けて説明します。

カテゴリー 1 自然を体験する施設

まずは与謝野町の自然を体験することが出来る施設です。キャンプ場や眺望を活かした施設など、与謝野町の自然に触れ合うことのできる施設です。

【自然を体験する施設一覧】

施設名	所在地	面積 (㎡)		建設年	運営形態
		敷地	延床		
かや山の家	温江1401番地	2,708.0㎡	487.4㎡	S 53	指定管理
大内峠一字観公園	弓木3211番地	3,500.0㎡	445.0㎡	H 13	指定管理
野田川ユースセンター	三河内48番地1	9,864.0㎡	685.3㎡	H3	指定管理
加悦双峰公園	与謝292番地2	277,030.0㎡	1,220.0㎡	S57	直営
三河内山の家	三河内2348番地	290.0㎡	105.4㎡	S61	直営
池ヶ成キャンプ場	温江地内	405,646.0㎡	85.0㎡	S 53	直営
平林キャンプ場	滝地内	24,272.0㎡	238.0㎡	H 4	直営

合計 723,310.0㎡ 3,266.1㎡

※平林キャンプ場の延床面積は炊飯棟、トイレなど



■ かや山の家

豊かな大江山の自然環境を活かした交流活動の拠点施設として、昭和 53 年に設置されました。現在、かや山の家運営委員会が指定管理者として施設運営をしています。主に宿泊や青少年の合宿、各種宴会などに利用されています。



■ 大内峠一字観公園

山の自然や眺望など自然資源を活用した観光レクリエーションの拠点として位置づけ、利用者の健康と福祉の増進のため、平成 13 年に設置されました。現在、大内峠一字観公園有限事業責任組合が指定管理者として施設運営をしています。天橋立を横一文字に眺められ、パノラマコテージは繁忙期に予約が取れないほど人気です。

(施設の利用期間 4/1～11/30)



■ 野田川ユースセンター

自然の景観を生かし、青少年の心身の健全な発達に寄与するために、平成 3 年に京都府が設置し無償貸付されています。現在、合同会社コミュニティ野田川が指定管理者として施設運営をしています。野田川森林公園の緑に囲まれたモダンな宿泊・研修施設。合唱や演奏会、パーティーなどに利用されています。



■ 加悦双峰公園

大江山の自然を生かし、町民に憩いの場を提供し、心身の健全な発達に寄与するため、昭和 57 年に設置された直営施設です。バンガロー、センターハウス、憩いの家、研修棟、テントサイト、オートキャンプ場、シャワー室は稼動していますが、施設の老朽化に伴い閉鎖設備が増えてきています。冬季（12/1～3/31）は閉鎖しています。



■ 三河内山の家

町民の交流を深め、うるおいのある豊かな住みよいまちづくり及び青少年の健全育成に資するため、昭和 61 年に設置された直営施設です。主にボーイスカウト活動に利用されています。（平成 24・25 年度はボーイスカウトのみ利用）



■ 池ヶ成キャンプ場

大江山の自然に親しむ観光レクリエーション活動の場として位置づけ、利用者の健康と福祉の増進を図るために昭和 53 年に設置されました直営施設です。施設利用料は 0 円、利用にあたっては、かや山の家に備え付けてある受付簿に記入します。



■ 平林キャンプ場

大江山の自然に親しむ観光レクリエーション活動の場として位置づけ、利用者の健康と福祉の増進を図るために平成 4 年に設置された直営施設です。取付道が、毎年豪雨などで被害を受けるため通行が困難となり、平成 22 年度末をもって閉鎖されています。



カテゴリー2 食と健康を体験する施設

食と健康を体験する施設として、与謝野町で採れる食材を味わうことが出来る、「リフレかやの里」と、温泉で健康回復できる施設「クアハウス岩滝」があります。いずれも指定管理施設となっています。

【食と健康を体験する施設一覧】

施設名	所在地	面積 (㎡)		建築年	運営形態
		敷地	延床		
リフレかやの里	金屋1730番地	20,878.0㎡	1,384.5㎡	H10	指定管理
クアハウス岩滝	岩滝470番地	10,002.8㎡	2,711.4㎡	H4	指定管理
合計		30,880.8㎡	4,095.9㎡		

【施設位置図】



■リフレかやの里

地元農産物を活用して、中長期的に滞在しながら健康を回復する施設として、また都市住民との交流の促進や町の農業振興を図ることを目的として設置されました。現在は、社会福祉法人よさのうみ福祉会が指定管理者として管理・運営を行なっています。地元地域と連携して様々な取り組みを行っており、コミュニティーの要としての機能も発揮しています。



■クアハウス岩滝

天の橋立岩滝温泉を利用して町民の健康増進と回復及び町の活性化を図るために、平成4年に設置。現在、ドルフィン株式会社が指定管理者として施設運営をしています。裸浴はもちろん、水着を着てみんなで入れるバーデゾーン、ウォータースライダーがある広いプール、トレーニングルームやスタジオ、お食事処があり、町民の憩いの場として利用されています。建築から20年以上経過し、施設の老朽化も目立ってきています。



カテゴリー3 産業・ものづくりを体験する施設

産業・ものづくりを体験する施設として、地域の特産品のPRや販売を行う施設、加悦生産販売施設（道の駅シルクのまちかや）や、地場産業である織物業の伝承と体験ができる施設など5つの施設があります。

【産業・ものづくりを体験する施設一覧】

施設名	所在地	面積（㎡）		建設年	運営形態
		敷地	延床		
道の駅	滝98番地	1,391.0㎡	411.0㎡	H5	指定管理
道の駅屋外トイレ	滝881番地	-	15.0㎡	H6	指定管理
ちんざん	滝1991番地	1,586.8㎡	179.8㎡	H9	指定管理
織物技能訓練センター	四辻515番地1	2,247.0㎡	532.9㎡	S36	委託
染色センター	算所421番地1	1,624.6㎡	829.3㎡	S57	直営
木工加工施設	滝728番地1	5,814.0㎡	121.0㎡	S60	指定管理

合計 12,663.4㎡ 2,089.0㎡

※道の駅屋外トイレの敷地面積はトイレの設置されている駐車場のおおよその面積になります。

【施設位置図】



■ 道の駅（加悦生産物販売施設）

与謝野町等で生産される生産物等の販売を通じて消費者との交流を図るとともに、生産者の所得向上と地域振興に資するため、平成 4 年に設置されました。平成 6 年から道の駅とし併用開始し、現在、タンゴフロンティア株式会社が指定管理者として施設運営をしています。シルク製品や工芸品、地酒など地元の製品を取り扱っています。交通事情の変化等から年々利用者が減少している状況です。※本白書では道の駅と表記します。



■ ちんざん（生産物特産加工施設）

当施設は農水産物食品加工等の技術研修を行うとともに、地域資源を活用した加工食品等の提供及び販売を通して消費者との交流を図り、生産者の所得向上と地域振興を目的として設置されました。現在は「有限会社 明人夢村」が指定管理者として管理・運営を行っています。

※本白書ではちんざんと表記します。



■ 織物技能訓練センター

織物業の振興を図るため、製織及び織機調整技能の訓練及び染色技術習得の施設として、昭和 36 年に設置されました。現在、与謝野町商工会に委託し運営管理を行っています。織物技術等に関する相談や商品開発を実施するとともに、近年では後継者の人材育成の研修会も実施しています。



■ 染色センター

染色に関する専門技術的な研究及び受託製作、染色体験も実施している施設です。染色技術の指導や織物業の振興を図るため、昭和 57 年に設置された直営施設です。敷地内には、染色センター棟・全齢人工飼料試験室・技能訓練棟があり、現在は染色センター棟及び全齢人工飼料試験室を使用。染色体験は体験観光として利用され、浴衣や風呂敷製作講座などを実施しています。



■ 木工加工施設

山村地域の資源を有効に利用し、新しい特産物の開発及び施策を行い若者定住対策に資することを目的として設置されました。現在、特定非営利活動法人あまのはしだて座が指定管理者として管理・運営を行なっています。



その2 施設の物理的状況

① 老朽化の状況

施設はそれぞれ昭和 53 年～平成 13 年の間に整備されたもので、中には耐用年数を超過しているものもあります。

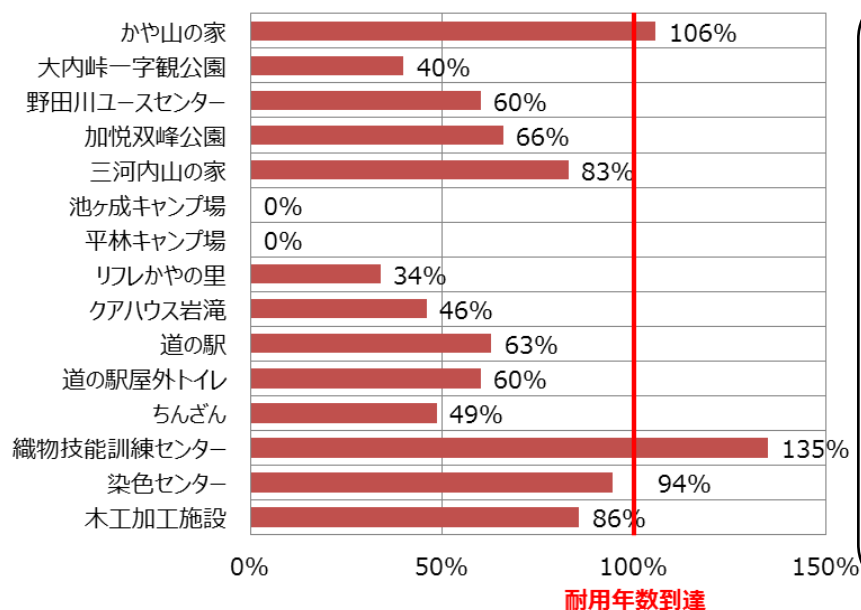
【体験・レクリエーション施設老朽化一覧】

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建設年	耐用年数到達	老朽化率	
かや山の家	木造 1 階建	S 53	H 25	106%	不明
大内峠一字観公園	木造 1 階建	H 13	H 48	40%	有
野田川ユースセンター	鉄骨造 1 階建	H 3	H 43	60%	有
加悦双峰公園	鉄筋コンクリート造 1 階建	S57	H 44	66%	有
三河内山の家	木造 1 階建	S 61	H 33	83%	有
池ヶ成キャンプ場	-	S53	-	-	-
平林キャンプ場	-	H 4	-	-	-
リフレかやの里	鉄筋コンクリート造 地上 1 階地下 1 階建	H 10	H 60	34%	有
クアハウス岩滝	鉄筋コンクリート造 3 階建	H 4	H 54	46%	有
道の駅	木造 1 階建	H 5	H 40	63%	有
道の駅屋外トイレ	木造 1 階建	H 6	H 41	60%	有
ちんざん	木造 1 階建	H 10	H 45	49%	有
織物技能訓練センター	鉄骨造 1 階建	S36	H 13	135%	不明
染色センター	木造 2 階建	S57	H 29	94%	不明
木工加工施設	木造 2 階建	S60	H 32	86%	有

※耐用年数は木造35年、鉄骨造40年、鉄筋コンクリート造50年を想定しています。

※老朽化率は（経過年数/耐用年数）で算出しています。100%を超えるものは耐用年数超過です。

※複数の施設から成り立っている場合は主要な施設の構造を採用しています。



かや山の家と織物技能訓練センターが耐用年数を超過しています。次いで染色センターが老朽化率 94%（ただし、平成 25 年度に大規模改修実施）となっています。キャンプ場は耐用年数等計上していません。

② 設備

各施設、それぞれの用途に合わせた設備状況となっています。施設によって構成は様々ですので統一的な比較はせず、施設設備を列挙しています。

施設名	設備状況・施設の構成	備考
かや山の家	宿泊室、宴会場、研修室、厨房、食堂、風呂	
大内峠一字観公園	管理棟、コテージ、テントサイト、炊事棟、シャワー棟、トイレ棟、展望デッキ	
野田川ユースセンター	宿泊施設・音楽ホール	
加悦双峰公園	バンガロー、センターハウス、憩いの家、研修棟、焼肉ハウス、テントサイト、オートキャンプ場、シャワー室 (休止) モノレーター、展望浴場、ローラースケート場、スーパースライダー	
三河内山の家	集会室兼宿泊室	
池ヶ成キャンプ場	キャンプ施設	
平林キャンプ場	給水施設・炊事施設・便所・シャワー施設・林間広場(テントサイト含む)・取り付け道路	
リフレかやの里	本館（レストラン、浴場、ホテル）	
クアハウス岩滝	本棟、プール棟、駐車場トイレ、温泉スタンド、ポンプ室	
道の駅	生産物販売施設本館	
ちんざん	共同学習室、調理室、農産加工室、事務室	
織物技能訓練センター	織物技能訓練センター：事務所、教室、実習室（力織機）、展示室（ギャラリー）、手機室 染色棟：作業室	
染色センター	染色センター棟：事務所、粹場（染色体験室）、実験室（洗い場）、加工室 技能訓練棟：事務所、倉庫、機場 全齢人工飼料試験室：各飼育部屋	
木工加工施設	木工加工場、休憩室	

※トイレや倉庫等は、施設の構成にはいれていません。



リフレかやの里レストラン



大内峠一字観公園コテージ

③ 防災に関する状況

全 14 施設の内の半数にあたる 7 施設が、指定警戒区域内に位置しています。

施設名	避難所指定		警戒区域の指定		
	水害	地震	浸水想定区域	土砂災害（特別）警戒区域	
				急傾斜地の崩壊	土石流
かや山の家	○	－	－	警戒区域	－
大内峠一字観公園	－	－	－	－	－
野田川ユースセンター	○	○	－	－	－
加悦双峰公園	－	－	－	－	－
三河内山の家	－	－	－	－	－
池ヶ成キャンプ場	－	－	－	－	－
平林キャンプ場	－	－	－	－	特別警戒区域
リフレかやの里	福祉避難所	福祉避難所	－	警戒区域	－
クアハウス岩滝	－	－	－	特別警戒区域	警戒区域
道の駅	－	－	－	－	－
ちんざん	－	－	－	－	特別警戒区域
織物技能訓練センター	－	－	0.5～3m未満	－	－
染色センター	－	－	0.5m未満	－	－
木工加工施設	－	－	－	－	－

その 3 施設の利用状況

それぞれの施設ごとに利用用途が異なります。まずは、利用者の視点で利用用途を分けてみます。

【体験・レクリエーション施設利用用途仕訳表】

施設名	利用用途（体験できること）					備考
	泊まる	食べる	遊ぶ	買う	学ぶ	
かや山の家	○	○	－	－	－	
大内峠一字観公園	○	－	○	－	－	
野田川ユースセンター	○	○	－	－	－	
加悦双峰公園	○	－	○	－	－	
三河内山の家	○	－	－	－	－	
池ヶ成キャンプ場	○	－	○	－	－	
平林キャンプ場	○	－	○	－	－	H22末で閉鎖
リフレかやの里	○	○	－	○	－	
クアハウス岩滝	－	○	○	○	－	
道の駅	－	○	－	○	－	
ちんざん	－	○	－	○	－	
織物技能訓練センター	－	－	－	－	○	
染色センター	－	－	－	○	○	
木工加工施設	－	－	－	－	○	

泊まるは「宿泊」できる施設です。食べるは「食事」ができる施設です。遊ぶは「遊具など」が設置してある施設です。買うは「買物」ができる施設です。学ぶは「専門的な技術を習得すること」ができる施設です。

単一的な利用用途だけでなく、複合的に体験ができる施設多いです。特にリフレかやの里はご覧の利用用途に加え入浴もできるなど、様々な目的にご活用いただける施設です。

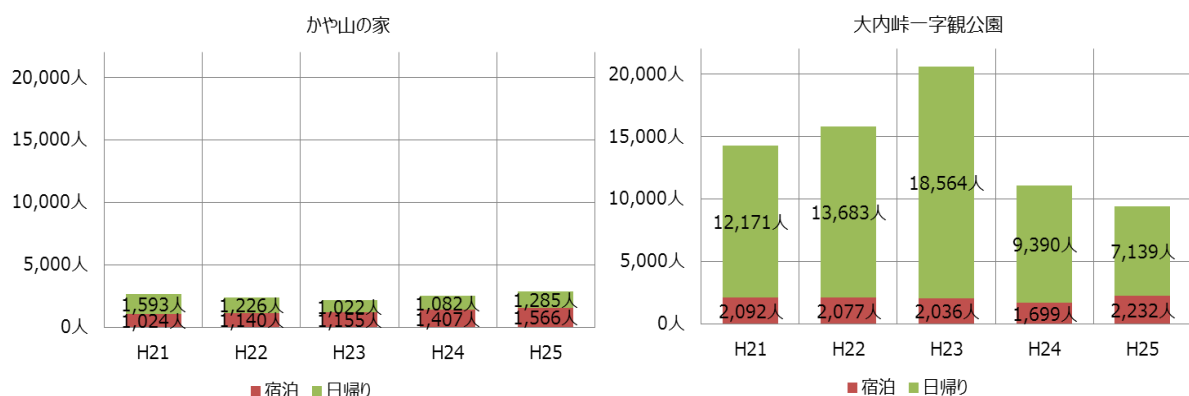
■利用件数

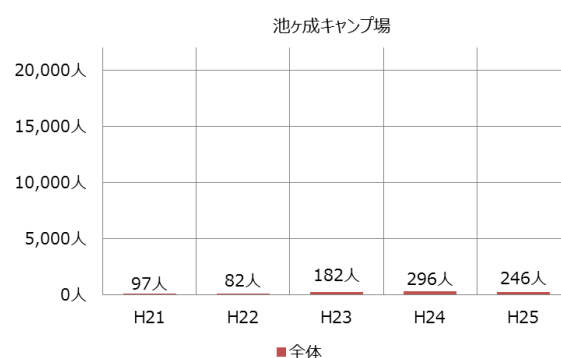
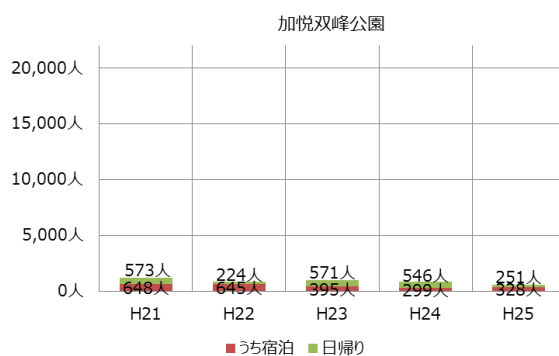
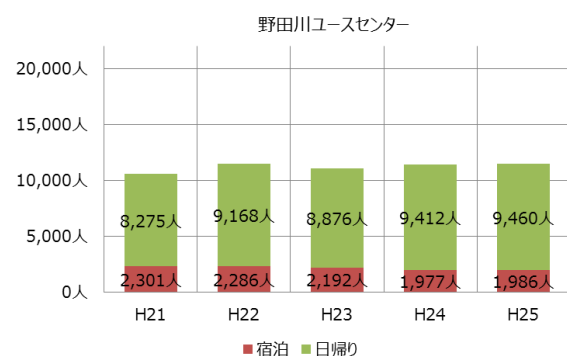
施設ごとの利用件数を見てみると以下のとおりとなります。まずは、自然を体験する施設です。

【自然を体験する施設の利用推移表】

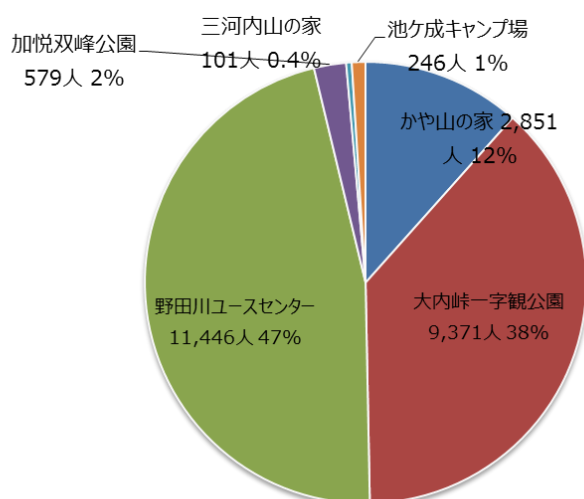
施設名	運営形態	利用人数					
		内訳	H21	H22	H23	H24	H25
かや山の家	指定管理	全体	2,617人	2,366人	2,177人	2,489人	2,851人
		宿泊	1,024人	1,140人	1,155人	1,407人	1,566人
		日帰り	1,593人	1,226人	1,022人	1,082人	1,285人
大内峠一字観公園	指定管理	全体	14,263人	15,760人	20,600人	11,089人	9,371人
		宿泊	2,092人	2,077人	2,036人	1,699人	2,232人
		日帰り	12,171人	13,683人	18,564人	9,390人	7,139人
野田川ユースセンター	指定管理	全体	10,576人	11,454人	11,068人	11,389人	11,446人
		宿泊	2,301人	2,286人	2,192人	1,977人	1,986人
		日帰り	8,275人	9,168人	8,876人	9,412人	9,460人
加悦双峰公園	直営	全体	1,221人	869人	966人	845人	579人
		宿泊	648人	645人	395人	299人	328人
		日帰り	573人	224人	571人	546人	251人
三河内山の家	直営	全体	73人	382人	266人	148人	101人
		※利用件数のみ把握					
池ヶ成キャンプ場	直営	全体	97人	82人	182人	296人	246人
		※利用件数のみ把握					
平林キャンプ場	直営	※閉鎖中のため計上しない					

【各施設の利用件数推移グラフ（20,000 人を上限に比較）】

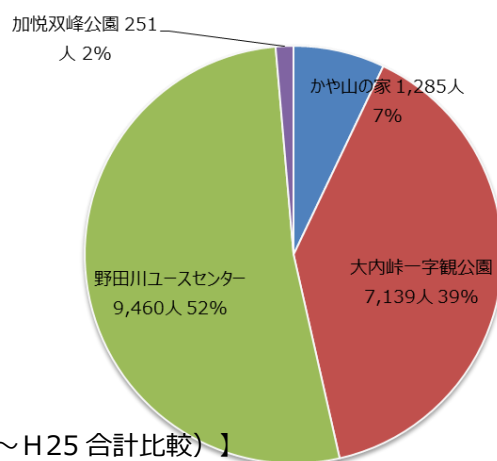




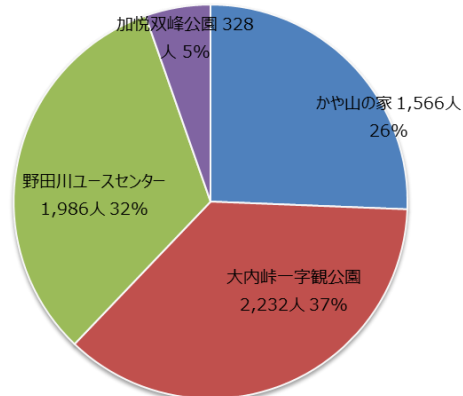
【各施設の利用件数割合（H25 合計比較）】



【各施設の利用件数割合・日帰り利用（H25 合計比較）】



【各施設の利用件数割合・宿泊利用（H21～H25 合計比較）】

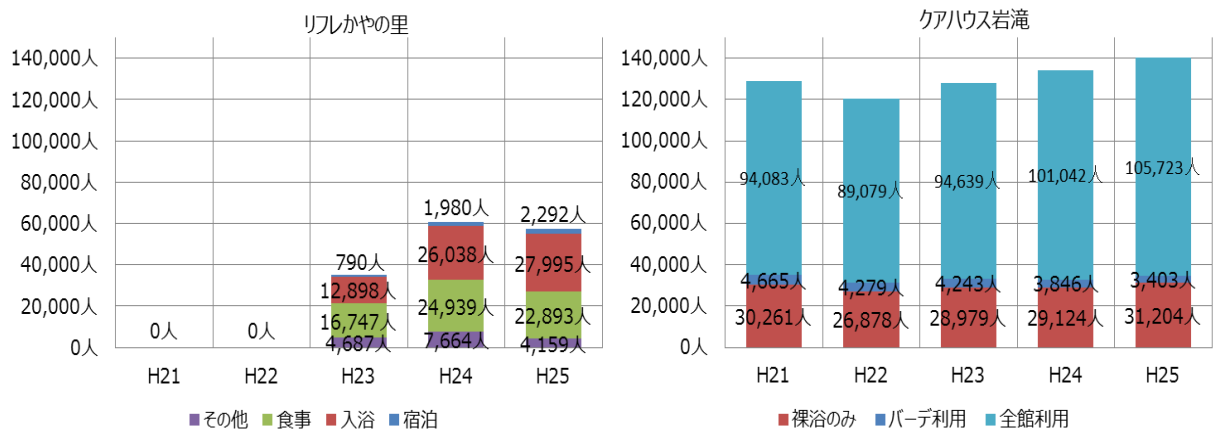


次に食と健康を体験する施設です。以下の表のとおりです。

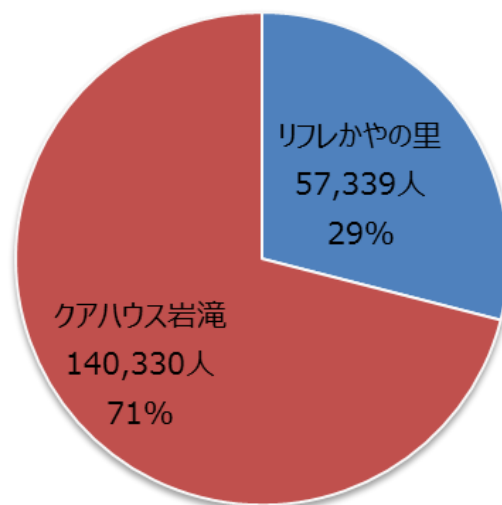
【食と健康を体験する施設の利用推移表】

施設名	運営形態	利用件数（人）					
		内訳	H21	H22	H23	H24	H25
リフレかやの里	指定管理	全体	－	－	35,122人	60,621人	57,339人
		宿泊	－	－	790人	1,980人	2,292人
		入浴	－	－	12,898人	26,038人	27,995人
		食事	－	－	16,747人	24,939人	22,893人
		その他	－	－	4,687人	7,664人	4,159人
クアハウス岩滝	指定管理	全体	129,009人	120,236人	127,861人	134,012人	140,330人
		全館利用	94,083人	89,079人	94,639人	101,042人	105,723人
		バーデ利用	4,665人	4,279人	4,243人	3,846人	3,403人
		裸浴のみ	30,261人	26,878人	28,979人	29,124人	31,204人

【各施設の利用件数推移グラフ（140,000 人を上限に比較）】



【各施設の利用件数割合（H25 合計比較）】



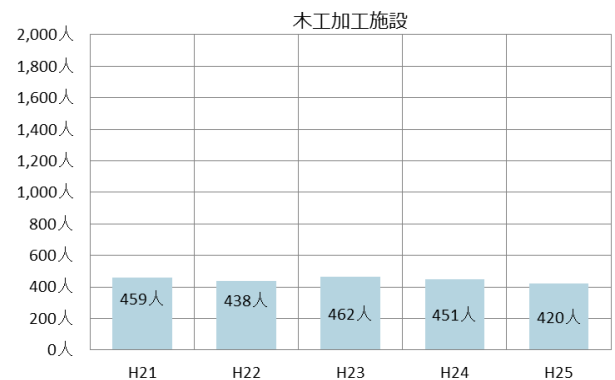
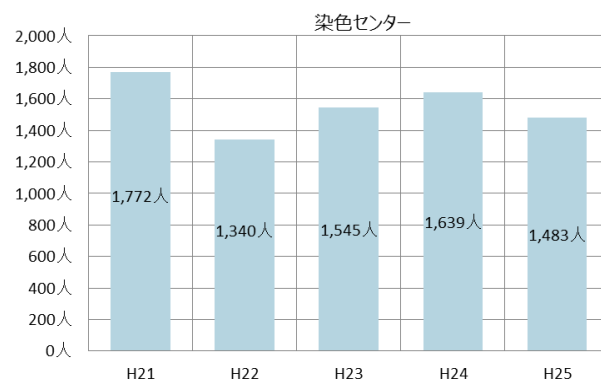
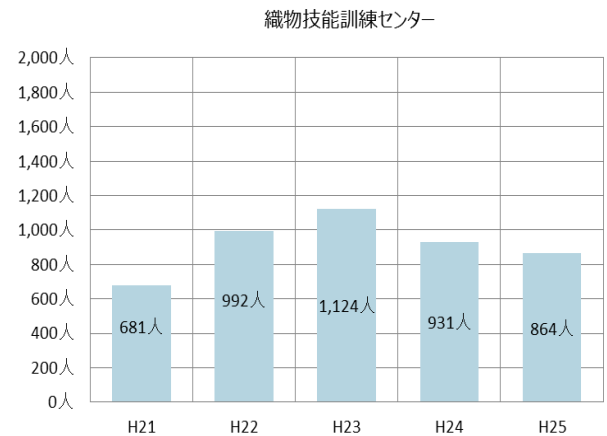
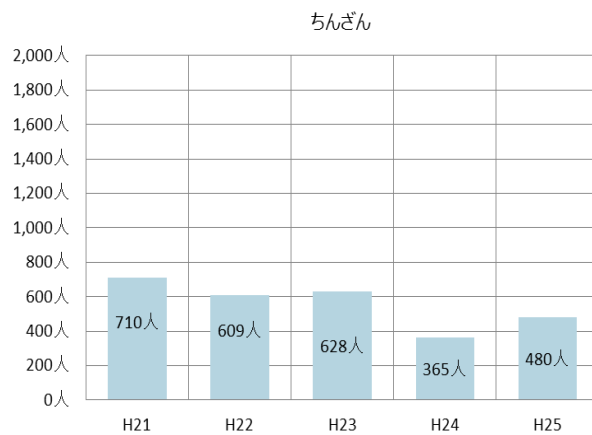
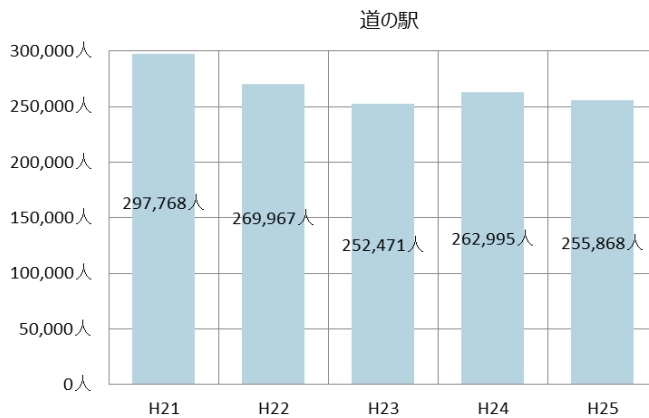
最後に産業・ものづくりを体験する施設です。以下の表のとおりです

【産業・ものづくりを体験する施設の利用推移表】

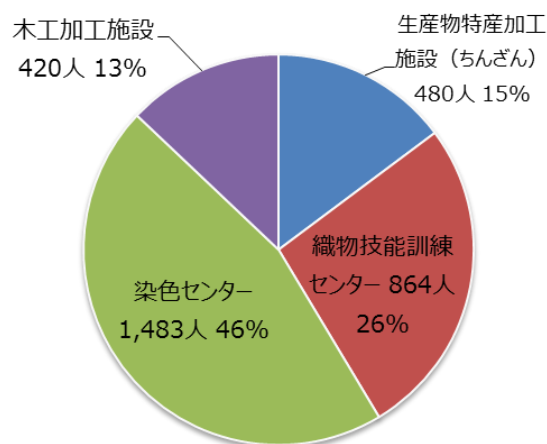
施設名	運営形態	利用件数（人）				
		H21	H22	H23	H24	H25
道の駅	指定管理	297,768人	269,867人	252,471人	262,995人	255,861人
ちんざん	指定管理	710人	609人	628人	365人	480人
織物技能訓練センター	委託	681人	992人	1,124人	931人	864人
染色センター	直営	1,772人	1,340人	1,545人	1,639人	1,483人
木工施設	指定管理	459人	438人	462人	451人	420人

※道の駅の利用人数はレジ通過者等、指定管理者の報告によるものです。

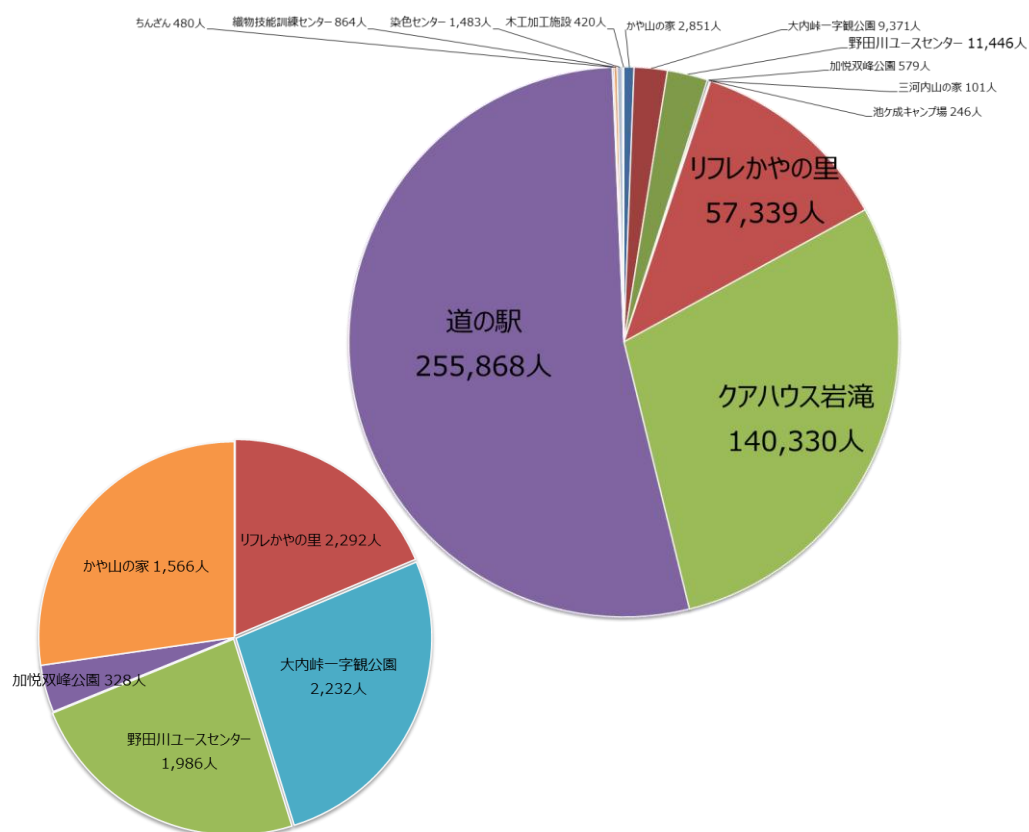
【各施設の利用件数推移グラフ】 ※道の駅以外は2,000人を上限に比較



【各施設の利用件数割合（H25 合計比較：道の駅除く）】



【全施設の利用件数割合（H25 合計比較）】



【参考：宿泊利用件数割合（H25 合計比較）】

体験・レクリエーション施設は利用用途が違うので単純比較するのは妥当ではありませんが、全体の利用人数で見ると、道の駅、クアハウス、リフレかやの里の利用が他施設と比べて圧倒的に多くなっています。

その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

管理・運営面での年間コストは以下のとおりです。

体験・レクリエーション施設については、指定管理施設が7施設あり、指定管理者は指定管理料により、管理運営を行い、町は施設の修繕などを行っています。平林キャンプ場は平成22年度をもって閉鎖していますが、賃借料が毎年230千円かかっています。

【体験・レクリエーション施設管理・運営コスト一覧】

(単位：千円)

項目	かや山の家	大内峠一字観公園	野田川ユースセンター	加悦双峰公園
賃金	0	0	0	2,641
光熱水費・燃料費	0	0	0	659
通信料・手数料	0	37	100	372
使用料・賃借料	0	449	0	24
消耗品費	290	42	0	208
備品購入費	0	512	498	0
賄・医薬材料費	0	0	0	11
修繕・維持補修費	5	725	1,738	200
委託料	0	120	599	293
指定管理料	4,100	3,379	4,005	0
その他	85	1,021	111	73
合計	4,480	6,285	7,051	4,481
項目	三河内山の家	池ヶ成キャンプ場	平林キャンプ場	リフレかやの里
賃金	0	132	0	0
光熱水費・燃料費	0	0	0	0
通信料・手数料	0	0	0	0
使用料・賃借料	0	20	231	0
消耗品費	0	1	0	0
備品購入費	0	0	0	0
賄・医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	0	28	0	0
委託料	0	167	0	0
指定管理料	0	0	0	11,407
その他	21	53	0	202
合計	21	401	231	11,609

(単位：千円)

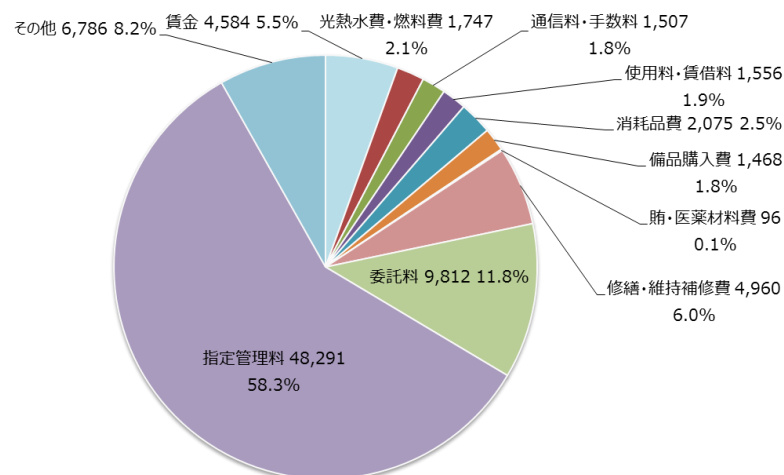
項目	クアハウス岩滝	道の駅	ちんざん	織物技能訓練センター
賃金	0	0	0	0
光熱水費・燃料費	0	0	0	333
通信料・手数料	0	25	0	33
使用料・賃借料	677	125	0	7
消耗品費	136	111	0	1
備品購入費	282	0	0	0
賄・医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	293	0	0	300
委託料	420	3,669	0	2,754
指定管理料	25,400	0	0	0
その他	4,699	227	43	11
合計	31,907	4,157	43	3,439

項目	染色センター	木工加工施設	合計
賃金	1,811	0	4,584
光熱水費・燃料費	672	83	1,747
通信料・手数料	50	890	1,507
使用料・賃借料	13	10	1,556
消耗品費	1,181	105	2,075
備品購入費	0	176	1,468
賄・医薬材料費	85	0	96
修繕・維持補修費	1,671	0	4,960
委託料	1,790	0	9,812
指定管理料	0	0	48,291
その他	181	59	6,786
合計	7,454	1,323	82,882

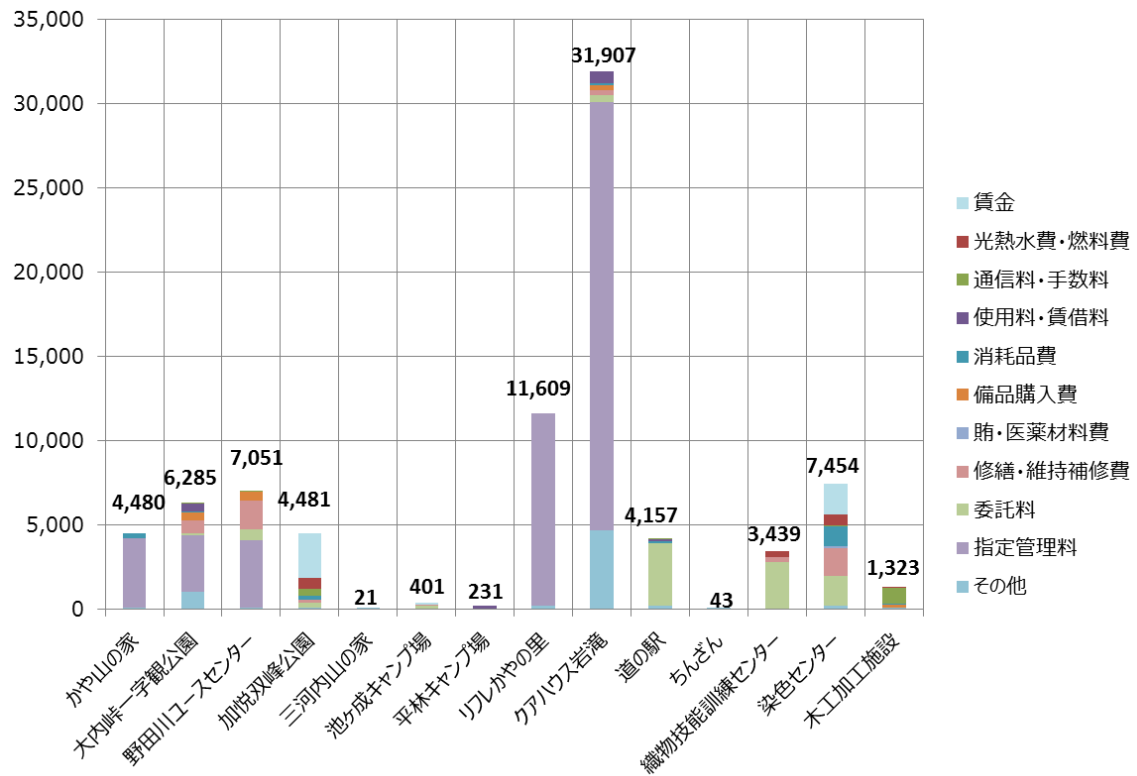
※金額は平成25年度の実績額です。

※野田川ユースセンターには森林公園のコストも含まれています。

【体験・レクリエーション施設管理・運営コスト内訳グラフ① (単位：千円)】



【体験・レクリエーション施設管理・運営コスト内訳グラフ② （単位：千円）】



各施設のコスト状況を比較すると、利用人数の多いクアハウス岩滝やリフレかやの里のコストが高くなっています。体験レクリエーション施設は指定管理を実施している施設が多く、収支は以下のとおりとなっています。

【体験・レクリエーション施設指定管理者の収入・収支一覧】

科目	かや山の家	大内峠 一字観公園	野田川 ユースセンター	リフレかやの里	クアハウス岩滝	道の駅	ちんざん
利用料収入	4,854	5,777	25,965	76,962	59,889	0	0
販売等収入	8,151	54		2,801	13,723	56,992	5,535
その他	66	630	219	33,315	8,525	3,111	101
指定管理料	4,184	3,379	5,024	11,407	25,400	0	0
収入合計	17,255	9,840	31,208	124,485	107,537	60,103	5,636
支出合計	17,273	9,554	31,976	133,923	104,204	65,209	6,451
差引	-18	286	-768	-9,438	3,333	-5,106	-815
指定管理者	かや山の家運 営委員会	大内峠一字観 公園有限責任 事業組合	合同会社コ ミュニティ野田 川	社会福祉法 人よさのうみ 福祉会	ドルフィン株式 会社	タンゴフロンティ ア株式会社	有限会社明 人夢村
収入中の指定 管理料割合	24.2%	34.3%	16.1%	9.2%	23.6%	0.0%	0.0%

※ユースセンターは森林公園と一緒に指定管理していますので、森林公園のコストも含まれています。

② 整備等のコスト（建替え・解体コスト）

【整備時期の考え方】

☆耐用年到達時に建替え

☆耐用年数経過している建物は5年以内に建替え。

☆建替える必要性がないと考えられる建物は耐用年数到達時に解体（耐用年数が既に到来している場合は5年以内に解体）

【コストの考え方】

建替えコストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました。

○建替えコスト・・・36万円/㎡（解体費含む：スポーツ・レクリエーション施設）

○解体コスト・・・3万円/㎡

○クアハウス岩滝・・・長寿命化計画策定中

基本設計業務を現在行っており、改修項目の洗い出しをしている。ただし、本長寿命化計画はただ単に元通りに改修するのではなく、今後の方向性を定め、施設のランニングコスト削減や収益性の向上などの仕組みを取り入れるべく、検討を重ねているところです。

⇒白書では建物**のみの**建替えコストを明示します。

これらの単価に現在の延床面積を乗じて算出したコストは以下のとおりです。

【体験・レクリエーション施設整備コスト等一覧】

(単位：千円)

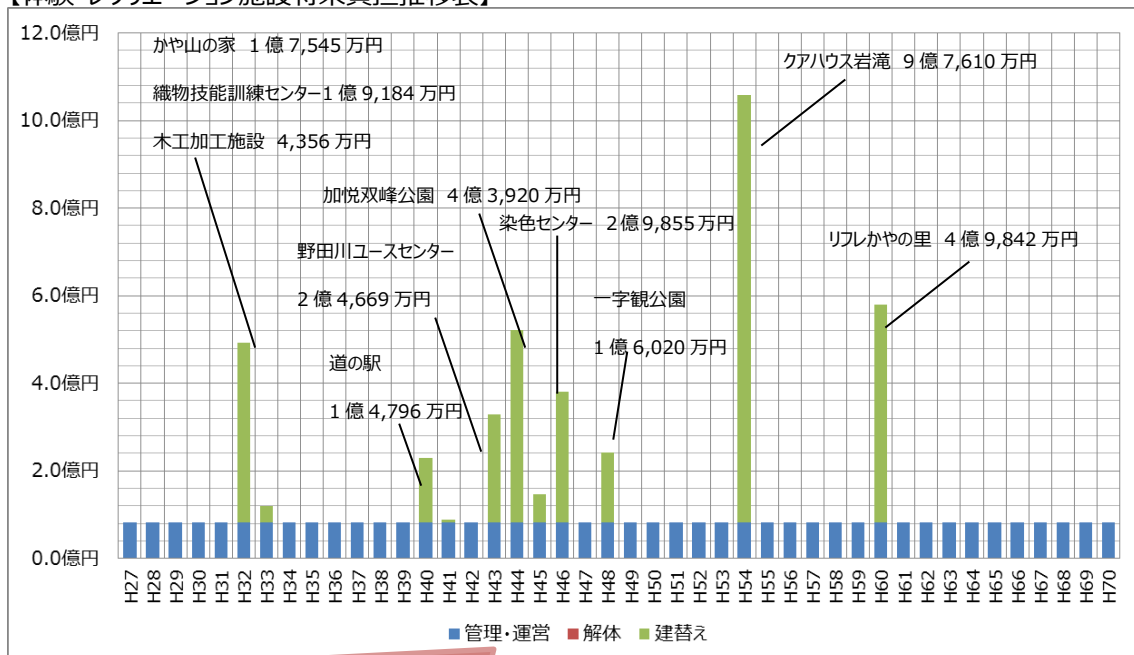
施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建て替え		解体	
				実施年度	コスト (解体費含む)	実施年度	コスト
かや山の家	S 53	35年	20,259	H 32	175,464	参考	14,622
大内峠一字観公園	H 13	35年	118,069	H 48	160,200	参考	13,350
野田川ユースセンター	H 3	40年	-	H 43	246,694	参考	20,558
加悦双峰公園	S57	50年	41,649	H 44	439,200	参考	36,600
三河内山の家	S 61	35年	7,620	H 33	37,944	参考	3,162
池ヶ成キャンプ場	S53	-	933	-	-	参考	-
平林キャンプ場	H 4	-	9,991	-	-	参考	-
リフレかやの里	H 10	50年	929,700	H 60	498,420	参考	41,535
クアハウス岩滝	H 4	50年	2,668,000	H 54	976,104	参考	81,342
道の駅	H 5	35年	154,706	H 40	147,960	参考	12,330
道の駅屋外トイレ	H 6	35年	-	H 41	5,400	参考	450
ちんざん	H 10	35年	33,609	H 45	64,728	参考	5,394
織物技能訓練センター	S36	40年	14,500	H 32	191,844	参考	15,987
染色センター	S57	35年	67,634	H 46	298,548	参考	24,879
木工加工施設	S60	35年	7,380	H 32	43,560	参考	3,630
合計					3,286,066	合計	273,839

※キャンプ場は作り直しません。

※染色センターは平成26年度に大規模改修を施しましたので20年後に建替え想定です。

管理・運営コスト（平成 25 年度実績をベースに横置き）も含めた将来コスト推移は以下のとおりです。

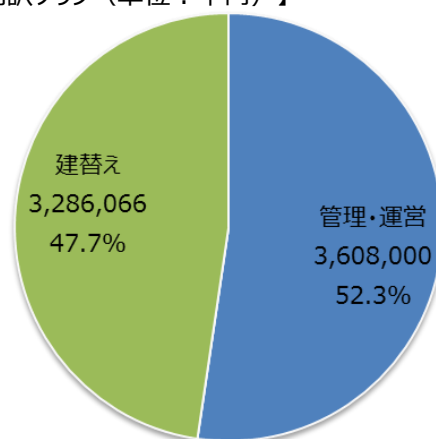
【体験・レクリエーション施設将来負担推移表】



コスト総額約 68.9 億円（整備 32.9 億円、解体 0 億円、管理・運営 36 億円）

体験・レクリエーション施設は建物部分よりも設備の整備コストが多大になると考えられます。例えばクアハウス岩滝は当初で 27 億円程度のコストがかかっていますが、今回の試算では 9.8 億円程度に止まるなど、乖離が生じていると考えます。全ての施設を建替えるとなると 32.9 億円もの費用がかかることになり、実際に必要なかどうか検討が必要になります。

【体験・レクリエーション施設将来コスト内訳グラフ（単位：千円）】



その5 まとめ

1. 現状と課題

●利用状況

自然を体験する施設については、大内峠一字観公園の利用が多いことがわかります。これは 12 月～3 月の間が閉鎖になっていることを考慮すれば、大変人気のある施設であると言えます。一方で、双峰公園は利用者数が低調であり、閉鎖されている設備も多く、開園当時の賑わいが今はない状況です。

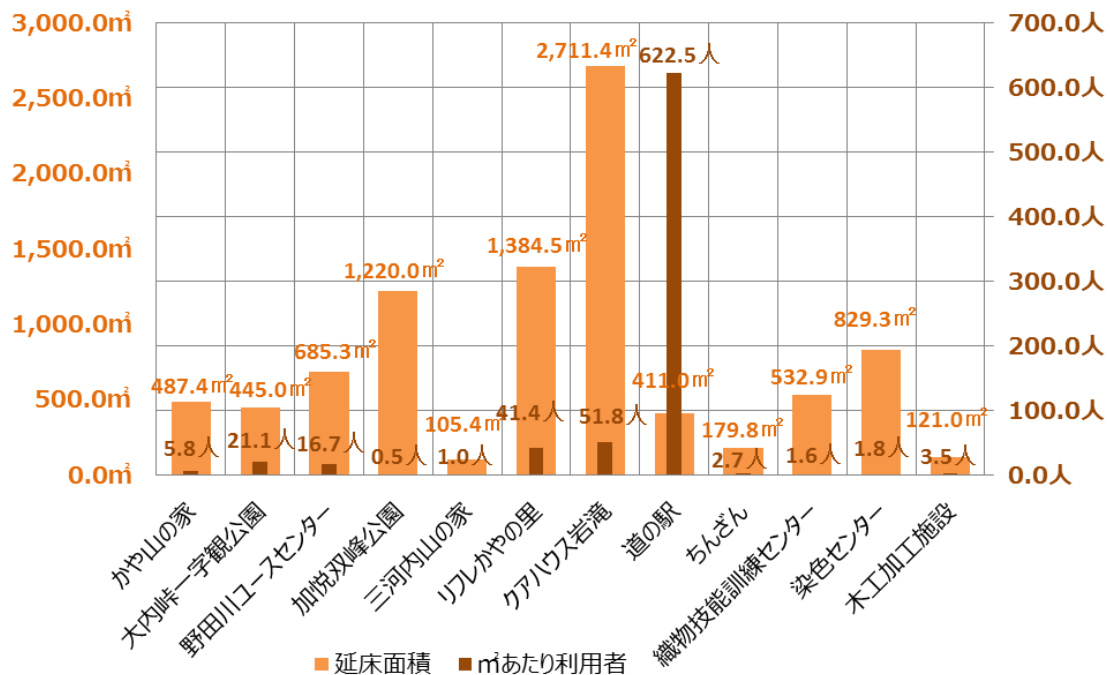
また、指定管理施設については、直営時代になかなか手がかけられなかった部分である営業部分に、指定管理者の努力が反映されており、指定管理者制度の導入が功を奏しているといえます。

食と健康を体験する施設については、利用人数はリフレかやの里、クアハウス岩滝ともに多くの方にご利用いただいています。自然を体験する施設同様、指定管理者の営業努力が結果に反映されており、指定管理者制度の導入が功を奏しているといえます。

産業・ものづくりを体験する施設については、利用者数は横ばいであり、一定の利用があると言えます。ただし、道の駅の利用数をどう評価するかは検討が必要です。

参考に建物規模である延床面積と利用者数の関係を以下のグラフで示してみました。延床面積と 1 m²あたりの利用者数との関係です。

【体験・レクリエーション施設延床面積 1 m²あたりの利用者数】



道の駅は運営形態が販売中心で一人当たりの滞在時間もそれほど長くないので利用者が多く見えます。リフレかやの里、クアハウスは大内峠一字観公園も利用者が多い現状を反映しています。

●建物状況

施設はそれぞれ昭和 53 年～平成 13 年の間に整備されたもので、耐用年数を超過しているものが 14 施設中 2 施設あります。クアハウス岩滝は長寿命化計画の策定に着手するなど、その他の施設も含めて建替えずに長く利用できるような検討が必要になります。

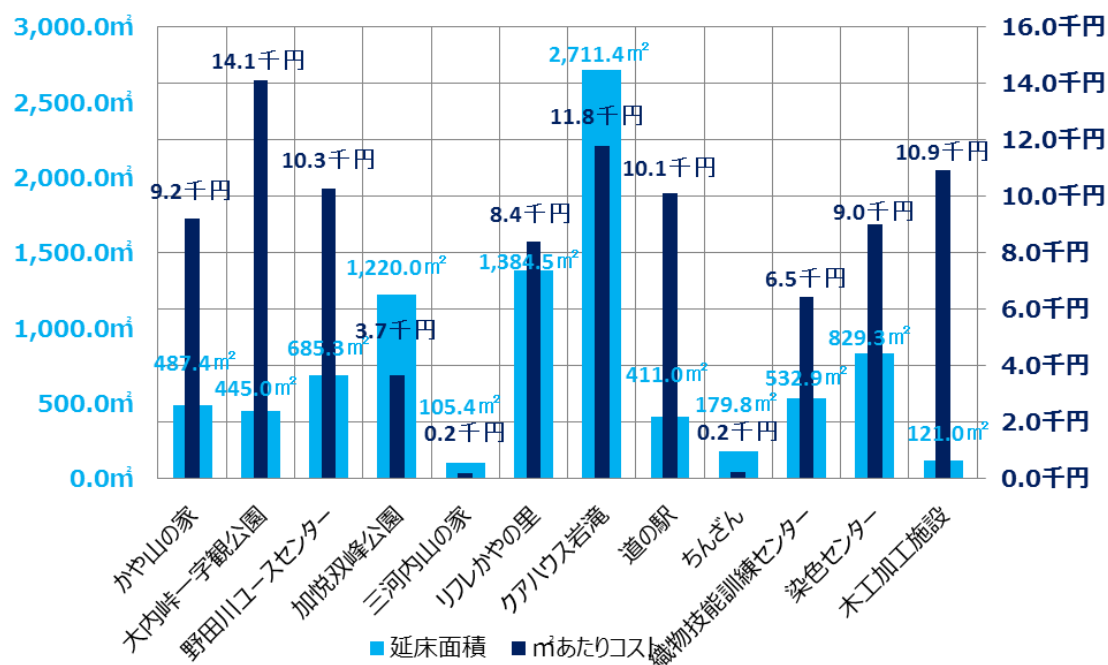
●防災状況

避難所指定になっている施設については、水害時が 3 ヶ所、地震時が 2 ヶ所あります。災害警戒区域の指定については、浸水想定区域に位置する施設が 2 ヶ所、土砂災害（特別）警戒区域に位置する施設が 5 ヶ所あります。特に生産物特産加工施設と平林キャンプ場は、土石流の特別警戒区域に位置しています。

●コスト状況

管理・運営コストについては、7 つの施設が指定管理をしており、5 つの施設で指定管理料を支払っています。やはりクアハウス岩滝の管理運営コストが高くなっています。施設の規模とコストの関係をしてみると、延床面積と 1 m²あたりのコストの関係を以下のグラフに示してみました。

【体験・レクリエーション施設延床面積 1㎡あたりのコスト（単位：千円）】



大内峠一字観公園は延床面積で算出していますので、あまり妥当な数字ではないと考え、度外視しますと、特に木工加工施設が建物規模に対して管理運営コストがかかっているように見えます。指定管理施設では、かや山の家や野田川ユースセンター、道の駅などが建物規模に対してコストがかかっている印象です。

2.現状と今後の考察

本白書では体験・レクリエーション施設について用途目的で分類しました。これは、同様の目的のものを多数有する必要があるのか、稼働率や利用者などを比較することで与謝野町の施設にどのようなことを求められているのか、を検討するために有効だと考えたからです。

●自然を体験する施設

与謝野町の特徴とも言える豊かな自然を楽しめるというだけで、施設の価値はかなり高いと言えます。その代表的なものが大内峠一字観公園です。ここは比較的宿泊施設も新しく、なにより天橋立を横一文字に臨む眺望が人気の施設です。

一方、自然を体験することが目的であるにも関わらず、最初の設備の規模が比較的大きく、一時の賑わいだけでなく設備閉鎖されている加悦双峰公園を考えると、キャンプ場としての施設にはそこまでのものは要求されていないことが考えられます。

●食と健康を体験する施設

このリフレかやの里とクアハウス岩滝の二つの施設に関しては、施設が充実していることから、今後もある程度の利用者があると考えられます。

リフレカやの里に関しては、近辺に文化施設もあるので、他の施設との関連サービス、イベントの開催など地域活性化の拠点施設としてその役割が多いに期待されます。

クアハウス岩滝に関しては、当初の利用料設定が曖昧な部分があり、今後修繕などコストをかけることで、利用料が高くなったときに利用者が変化に対応できるのか、また利益を追求できる程の集客力があるかが課題となります。

●産業、ものづくりを体験する施設

この分類の施設は用途が多様なので、今後活用にあたっては個々での検討が必要になります。

道の駅という施設は各地にあり、地元の特産品を売っていることが知られているので外部から来た人にとっては立ち寄りやすいですが、交通事情との兼ね合いが悪いのは施設の特徴から考えると重要な課題です。

織物技能訓練センター、染色センターは、施設自体は古いですが、与謝野町の特色でもある繊維に関連した施設ということで、連携や統合といったことが考えられます。

重要伝統建築物群保存地区である「ちりめん街道」合わせて織物の魅力見学コースを提供するなど、観光面での活用も考えられます。

●まとめ

全体的に各施設の用途に特色があり、一様に比較検討することはあまり妥当ではないという印象です。結果的には施設単体についてさらなる検討が必要であると考えます。

加えて、特色ある利用用途は建物本体よりも、設備・機械のほうが重要になってきます。今回の白書ではあくまで建物部分しか言及していませんので、建物に加えて設備・機械の今後の稼働についても調査する必要があります。

いずれにしろ、体験・レクリエーション施設にカテゴリーされた施設は、例えば学校施設等とは違い、行政が提供しなければならないサービスとは言い切れない部分があります。直営施設の管理運営形態を見直すことは当然として、現在指定管理施設についても、指定管理料の見直し、民営化への移行など、公共施設マネジメントを進める上で検討しなければならないと考えます。

その6 参考事項

●クアハウス岩滝長寿命化計画

クアハウス岩滝は建築から 20 年以上経過し、その間一部の修繕・更新等を行ってきましたが、施設全体（建築物・設備・温泉関連・外構等）については、経年劣化や機能低下が顕著となっています。また社会情勢の変化から近年ますます健康づくりに対する関心も高まり、健康増進施設として機能向上が求められています。このことから、平成 26 年 10 月から長寿命化に向けた改修工事の基本設計業務を委託し、打ち合わせを重ねているところです。

本改修工事は単に施設を元に戻すのではなく、施設の今後の方向性を定め、ランニングコストの削減や収益性の向上などの仕組みを取り入れる必要があります。

進捗状況としては、改修工事部分の洗い出しをし、経営コンサルティング会社との共同調査によるリニューアル提案、コスト削減のための提案などが出揃い、検討をしているところです。

●道の駅エリア活性化計画（仮称）

「道の駅シルクのまち かや」は、平成 7 年 4 月に府内 3 番目の道の駅としてオープン以来、丹後地域への玄関口としてたくさんの人々を出迎えてきました。昨今、開業 20 年を迎えましたが、道路状況の変化等により売上・入込客ともに降下の一途を辿っています。

そんな中「道の駅シルクのまち かや」は、地域活性化の拠点として意欲的な取り組みが期待されるとして、国土交通省近畿地方整備局から、重点「道の駅」候補として選定をいただきました。（平成 27 年 1 月選定）

この選定を契機に、地域活性化の拠点とするため、道の駅エリア再構築検討会を立上げ、地域住民や農業生産法人、周辺施設が参画し、道の駅を拠点に、周辺エリア一帯を「滞在交流エリア」として再構築することを目指します。

平成 27 年 9 月までに検討会を重ね、実現性のある次の展開を見据えた「道の駅エリア活性化計画（仮称）」を策定し、再構築に向けた取り組みを進めます。

1 1 生産加工施設

その1 施設の概要

ここで取り上げる生産加工施設は、与謝野町の特産物を生産・加工する施設です。合計で 6 施設あります。6 施設すべてが加悦地域に設置されています。運営形態については、有機物供給施設を除く 5 施設が指定管理施設です。

【生産加工施設一覧】

施設名	所在地	面積 (㎡)		建設年	運営形態
		敷地	延床		
農産加工施設	金屋1730番地	-	213.5㎡	H23	指定管理
有機物供給施設	加悦奥1045番地1	2,639.0㎡	525.4㎡	H13	直営
冷凍米飯加工施設	香河地内	2,934.0㎡	1,064.7㎡	H11	指定管理
大豆・米乾燥調製施設	与謝2098番地	1,338.0㎡	379.1㎡	H15	指定管理
地域農産物等活用型交流施設	金屋地内	6,257.0㎡	195.4㎡	H10	指定管理
ツバキ育苗温室	滝3561番地	1,127.0㎡	168.0㎡	H15	指定管理

合計 14,295.0㎡ 2,546.1㎡

※農産加工施設の敷地面積はリフレかやの里に含まれています。

【施設位置図】



■ 農産加工施設

農産加工施設は「与謝野町食と健康の拠点施設（リフレかやの里）」の敷地内にあり、同施設の指定管理者である、社会福祉法人よさのうみ福祉会が管理・運営を行っています。地元農産物を使った加工品（ジュース、ゼリー、ジャム等）の製造及び、他業者からの受託製造を行う施設です。地元の農産物を農家の収入増にも大きく貢献している。



■ 有機物供給施設

有機物供給施設は、与謝野町が推進する環境保全型農業のシンボルである「京の豆っこ肥料」を生産する施設です。年間約 300 t の肥料を生産しています、稼働から 10 年以上が経過し、建物、設備の老朽化が目立ち始めています。現在、肥料の需要増に供給が追い付かない状況であり、施設の増強を検討しています。



■ 冷凍米飯加工施設

冷凍米飯加工施設は与謝野町で生産された米に付加価値を付けて販売することを目的として建設されました。(株)加悦ファーマーズライスが指定管理者として管理・運営を行っています。農家から直接米を購入するなど町内農家の収入増や地元雇用にも大きな役割を果たしています。また、商品の販路も拡大しており、それに伴う設備投資も行っています。



■ 大豆・米乾燥調製施設

有機質肥料「京の豆っこ肥料」を核とした農産物の生産を推進し、自然循環農業を確立することにより、町の農業の活性化を図ることを目的として平成 15 年に建設された施設で、農家が収穫した農産物等を乾燥調製したり、食味の測定を行うことが出来る等、町が整備した設備を農家が利用できる施設です。現在指定管理者として(株)与謝ファームが管理運営を行っています。



■ 地域農産物等活用型交流施設

町内で生産する農産物を活用した特産品の開発、販路拡大と都市農村交流の拡大を目的として建設され、社会福祉法人よさのうみ福祉会を指定管理者として管理・運営を行っています。現在は、リフレかやの里内のレストランや町内各所で提供・販売するパン、ケーキ等を製造しています。



■ ツバキ育苗温室

与謝野町の財産である「滝の千年ツバキ」を活用して地域の活性化を図るため、販売用のツバキを育てる温室として整備されました。「京都千年ツバキの里育苗グループ」が指定管理者として管理運営しています。



その2 施設の物理的状況

① 老朽化の状況

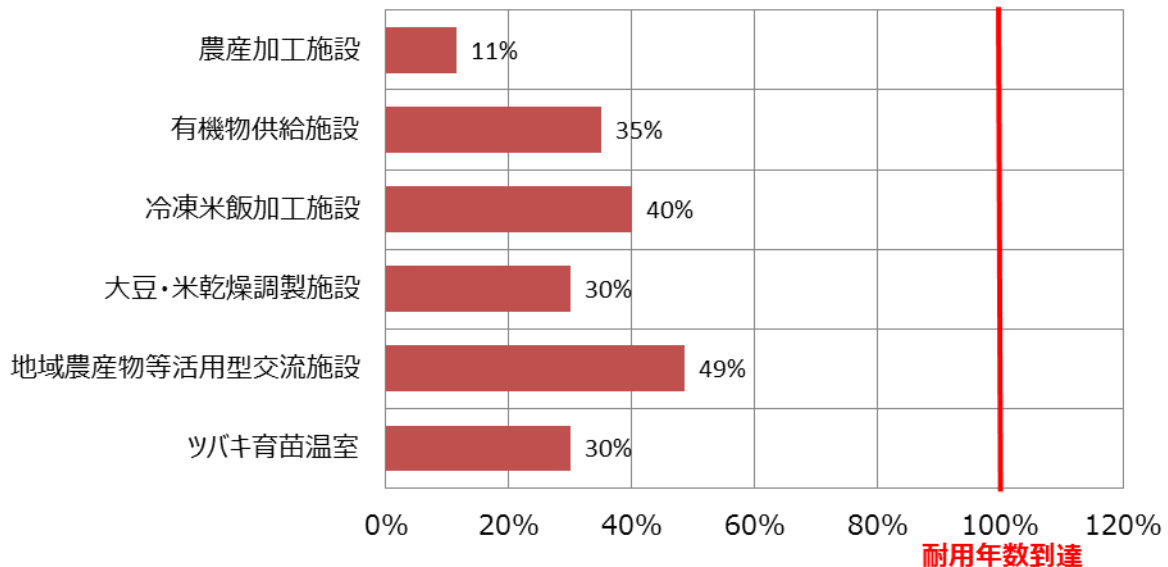
生産加工施設は全体的に 20 年以内に整備されており、老朽化率でも全ての施設が 50%未満です。

【生産加工施設老朽化一覧】

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建設年	耐用年数到達	老朽化率	
農産加工施設	木造1階建	H23	H48	11%	有
有機物供給施設	鉄骨造1階建	H13	H53	35%	不明
冷凍米飯加工施設	鉄骨造1階建	H11	H51	40%	有
大豆・米乾燥調製施設	鉄骨造2階	H15	H55	30%	有
地域農産物等活用型交流施設	木造1階建	H10	H45	49%	有
ツバキ育苗温室	鉄骨造1階建	H15	H55	30%	有

※耐用年数は木造35年、鉄骨造40年を想定しています。

※老朽化率は（経過年数/耐用年数）で算出しています。100%を超えると耐用年数超過です。



生産加工施設の建物だけ見れば、他のカテゴリーに比べ老朽化度合いは低いです。ただし生産加工施設は機械設備が主役であり、建物は入れ物という意味合いが強いため、施設の稼働を考えた時に機械設備の老朽化率を念頭に置く必要があります。

② 設備

各施設、それぞれの用途に合わせた設備状況となっています。

【生産加工施設設備一覧】

施設名	設備状況	
	施設の構成	特記事項
農産加工施設	清涼飲料加工室、休憩室、惣菜加工室、瓶詰加工室、洗浄室、圧搾室、予備室、更衣室、休憩室	保健所の許可有
有機物供給施設	工場 1 棟、倉庫 3 棟、事務所 1 棟、重油タンク他	
冷凍米飯加工施設	工場、屋外倉庫、駐車場他	保健所の許可有
大豆・米乾燥調製施設	精米所、低温貯蔵庫、乾燥調製所	
地域農産物等活用交流施設	パン・ケーキ工房、ホール等	保健所の許可有
ツバキ育苗温室	ガラス温室	

※トイレは施設の構成に含めていません。

③ 防災に関する状況

全施設が避難所指定されておらず、いずれも土砂災害の（特別）警戒区域に位置付けられています。

【生産加工施設防災状況一覧】

施設名	避難所指定		警戒区域の指定		
	水害	地震	浸水想定区域	土砂災害（特別）警戒区域	
				急傾斜地の崩壊	土石流
農産加工施設	－	－	－	－	警戒区域
有機物供給施設	－	－	－	－	特別警戒区域
冷凍米飯加工施設	－	－	－	特別警戒区域	－
大豆・米乾燥調製施設	－	－	－	特別警戒区域	特別警戒区域
地域農産物等活用交流施設	－	－	－	－	特別警戒区域
ツバキ育苗温室	－	－	－	－	特別警戒区域

その3 施設の利用状況

生産加工施設は一般の利用はなく、指定管理者等が生産加工を行っているのみです。ここでは利用内容を説明します。

●農産加工施設は、指定管理者である社会福祉法人よさのうみ福祉会がリフレかやの里と一緒に管理されており、ジュースやジャムなど地元農家からの委託加工も積極的に受け入れ、地元農家と連携し地域の特産品づくりを目指しています。利用人数についてはリフレかやの里と合算しています。また、障害者就労支援の雇用の場としても活用しており、幅広い分野で活用されています。

●有機物供給施設の利用者は主に町内の農業者を対象としており、例年冬場から5月の連休明けまでは肥料の春撒きに備えて在庫量を確保する必要があるため販売を制限しています。町内の農業者が利用できるよう一般向けに販売する量も上限を設けて制限している。町内の農業者と一般の方併せて例年300名前後が肥料を購入します。

●冷凍米飯加工施設は、(株)加悦ファーマーズライスが指定管理者として管理運営しており、一般の利用はない。第2次の加工・第3次の販売を手掛け、地元で生産されたお米に付加価値を付けることで収益を伸ばしている施設です。主に京阪神の高速道路SAで販売し、年々販売額を伸ばしています。

●大豆・米乾燥調製施設は(株)与謝ファームが管理運営しており、主に与謝地区の農業者が利用しています。利用状況としては農繁期の利用が多くなっています。

●地域農産物等活用型交流施設は、与謝野町で生産される農林産物を活用した商品を開発し、その加工体験を通じて都市住民との交流を図るとともに、町の農業振興を図ることを目的とする施設として活用しています。また、障害者福祉事業としてパン等が作れるよう、自立を助ける施設としても活用しています。こちらも社会福祉法人よさのうみ福祉会が管理しており、一般の利用はありません。

●ツバキ育苗温室は主に従業員が利用されており、延べ人数で年間約100名の利用となっています。

その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

管理・運営面での年間コストは以下のとおりで、年間約 2,700 万円が町の財政から支出されています。農産加工室のコストについてはリフレかやの里と合算されているため、この項目ではお示ししていません。指定管理施設である冷凍米飯加工施設、大豆・米乾燥調製施設の指定管理料は 0（ゼロ）です。大規模な修繕が必要な時は町が修繕を行っています。

【生産加工施設管理・運営コスト一覧】

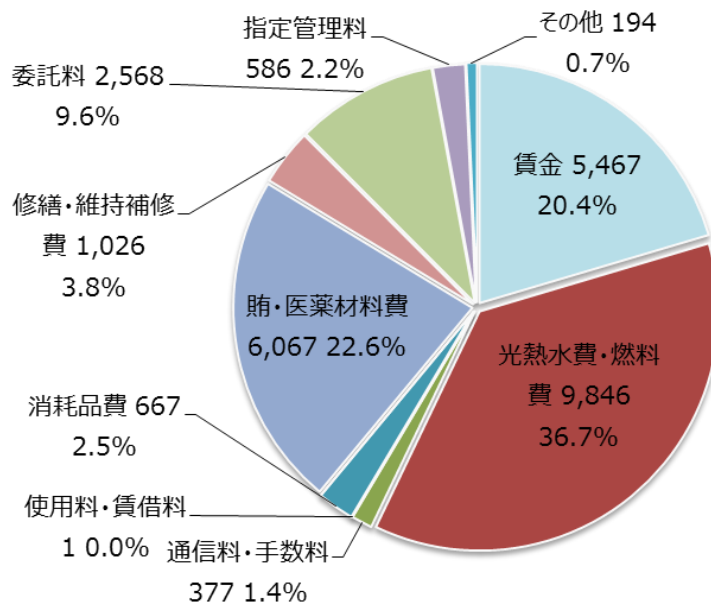
（単位：千円）

項目	農産加工施設	有機物供給施設	冷凍米飯加工施設	大豆・米乾燥調製施設
賃金	-	5,467	0	0
光熱水費・燃料費	-	9,846	0	0
通信料・手数料	-	377	0	0
使用料・賃借料	-	1	0	0
消耗品費	-	667	0	0
備品購入費	-	0	0	0
賄・医薬材料費	-	6,067	0	0
修繕・維持補修費	-	208	818	0
委託料	-	2,568	0	0
指定管理料	-	0	0	0
その他	-	35	62	13
合計	-	25,236	880	13

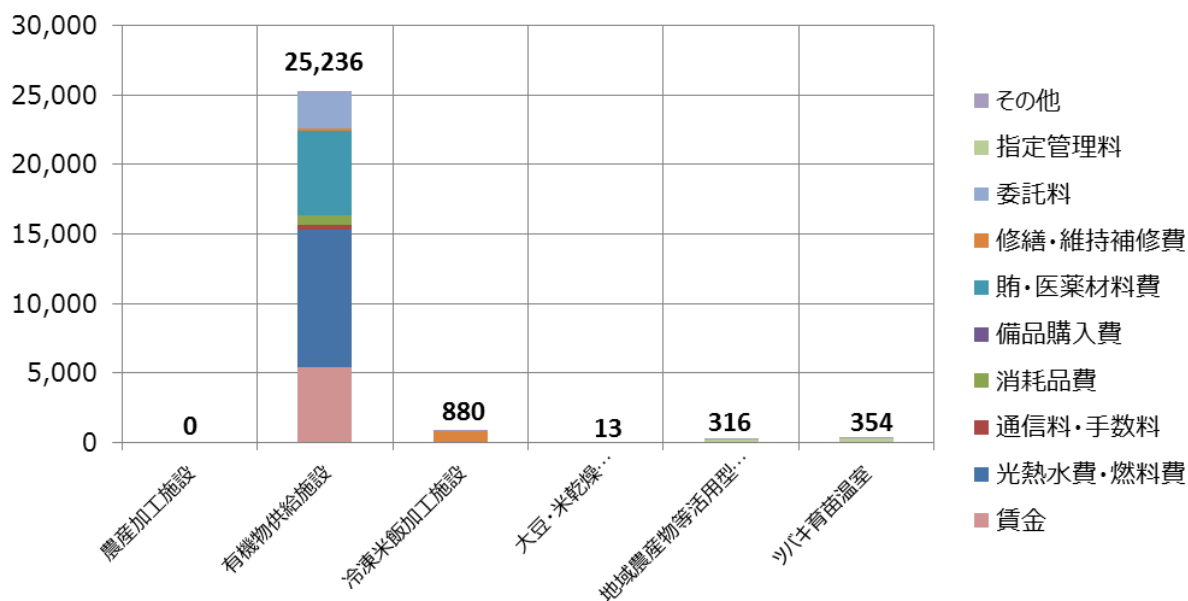
項目	地域農産物等活用型交流施設	ツバキ育苗温室	合計
賃金	0	0	5,467
光熱水費・燃料費	0	0	9,846
通信料・手数料	0	0	377
使用料・賃借料	0	0	1
消耗品費	0	0	667
備品購入費	0	0	0
賄・医薬材料費	0	0	6,067
修繕・維持補修費	0	0	1,026
委託料	0	0	2,568
指定管理料	240	346	586
その他	76	8	194
合計	316	354	26,799

※金額は平成25年度の実績額です。

【生産加工施設管理・運営コスト内訳グラフ①（単位：千円）】



【生産加工施設管理・運営コスト内訳グラフ②（単位：千円）】



各施設のコスト状況を比較すると、直営の有機物供給施設のコストが多くなっています。冷凍米飯加工施設は指定管理料がなく、管理運営コストの面では抑制されていると言えます。

【生産加工施設指定管理者の収入・収支一覧】

(単位：千円)

【参考】

科目	冷凍米飯加工施設	大豆・米乾燥調製施設	地域農産物等活用型交流施設	ツバキ育苗温室	有機物供給施設
利用料収入	0	8,251	0	0	0
販売等収入	366,880	13,443	7,980	56	15,933
その他	2,086	1,075	12,379	70	0
指定管理料	0	0	240	346	0
収入合計	368,966	22,769	20,599	472	15,933
支出合計	368,720	23,502	20,583	219	25,236
差引	246	-733	16	253	-9,303
指定管理者	株式会社加悦ファーマーズ	株式会社与謝ファーム	社会福祉法人よさのみ福祉会	京都千年椿の里育苗グループ	
収入中の指定管理料割合	0.0%	0.0%	1.2%	73.3%	

※農産加工施設のコストはリフレカの里に含まれているためお示ししていません。

② 整備等のコスト（建替え・解体コスト）

【整備時期の考え方】

☆耐用年到達時に建替え

☆耐用年数経過している建物は5年以内に建替え。

☆建替える必要がないと考えられる建物は耐用年数到達時に解体（耐用年数が既に到来している場合は5年以内に解体）

【コストの考え方】

建替えコストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました。

○建替えコスト・・・36万円/㎡（解体費含む：供給処理施設）

○解体コスト・・・3万円/㎡

これらの単価に現在の延床面積を乗じて算出したコストは以下のとおりです。

【生産加工施設整備等コスト一覧】

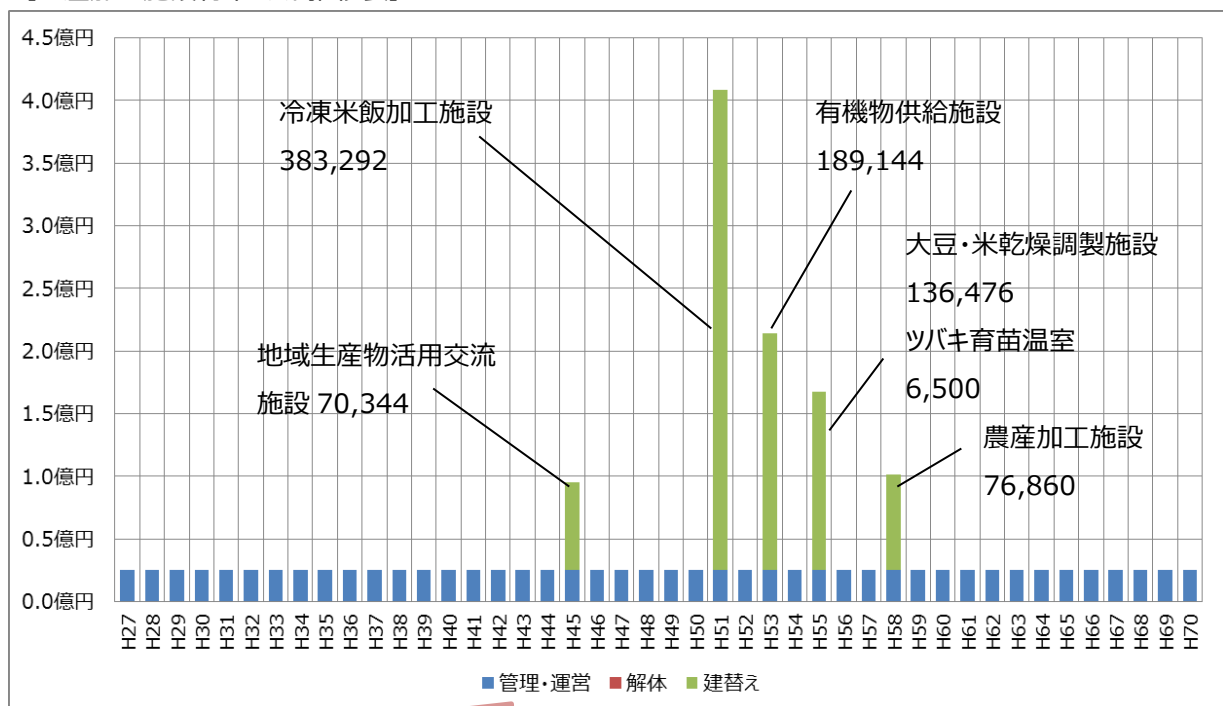
単位：千円

施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建替え		解体	
				実施年度	コスト (解体費含む)	実施年度	コスト
農産加工施設	H23	35年	54,433	H58	76,860	参考	6,405
有機物供給施設	H13	40年	207,080	H53	189,144	参考	15,762
冷凍米飯加工施設	H11	40年	438,038	H51	383,292	参考	31,941
大豆・米乾燥調製施設	H15	40年	64,018	H55	136,476	参考	11,373
地域農産物等活用型交流施設	H10	35年	70,000	H45	70,344	参考	5,862
ツバキ育苗温室	H15	40年	6,500	H55	6,500	参考	5,040
合計					862,616	合計	76,383

※ツバキ育苗温室は鉄骨造ですが、当初建設費と同額の建替えコストとしています。

管理・運営コスト（平成 25 年度実績をベースに横置き）も含めた将来コスト推計は以下のとおりです。

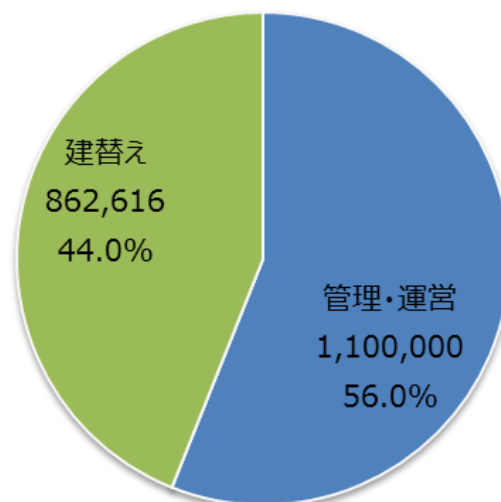
【生産加工施設将来コスト推移表】



コスト総額約 19.6 億円（整備 8.6 億円、解体 0 億円、管理・運営 11 億円）

生産加工施設の将来整備コストについては、建物だけ見ると平成 45 年度まで建替える必要はありません。ただし、生産加工施設は機械設備が主役であり、建物はあくまで入れ物という意味合いが強くなります。実際に建替えコストには機械設備の単価まで含まれていないので、当初建設費よりも低い金額になっている場合があります。機械設備の稼働状況をも考慮した分析が必要となります。

【生産加工施設将来コスト内訳グラフ（単位：千円）】



その5 まとめ

1 現状・課題

●建物状況

施設全体でみると近年に建てられた施設ばかりですが、機械設備を見ると、特に有機物供給施設は施設内の設備の老朽化が激しく、肥料の安定した供給に向けて設備等の更新や修理などの必要があると考えられます。

●防災状況

すべての施設が土砂災害の警戒区域に指定されています。

●コスト状況

管理・運営コストについては、直営である有機物供給施設のコストがほとんどなので、他の指定管理施設のコスト状況が見えにくくなっています。例えば冷凍米飯加工施設は指定管理料 0 で町の財政支出が少ないように見えます。実際に指定管理者の収支で見ても販路拡大などにより経営状況が安定していて優良な施設と言えます。一方で、本白書では見えにくくなっていますが、初期投資後の投資経費がかかっているケースがあります。販路拡大や町の事業推進に伴う生産力の向上のための投資がなされており、管理・運営コストとは別に、冷凍米飯加工施設や有機物供給施設ではどちらも 1 億円を超える設備投資を行っています。特にこの 2 施設は生産力の拡大を視野に入れているので、今後も設備投資を行っていくことが想定されます。与謝野町の公共施設マネジメント全体を考える上で今後の在り方を検討していく必要があります。

●現状のまとめ

生産加工施設は旧加悦町で整備され、その全てが辺地債という有利な地方債が活用できる辺地地域に位置しており、当初建設後の設備整備などが辺地債を活用して実施できるという利点があります。有機物供

給施設以外は指定管理施設となっていて、指定管理料が 0 という施設もあるなどこのカテゴリーにおいては町に財政支出は抑えられているように見えます。しかし、設備整備については町が請け負うことであり、各施設の事業展開によって多額の投資費用がかかる傾向にあります。安定した収入の見込める事業展開を行っている施設もあるので、指定管理からもう一步踏み出した管理・運営方法を検討していく必要があります。

2 今後の展望

現状・課題でも触れましたが、冷凍米飯加工施設と有機物供給施設に関しては、販路拡大や需要過多のため、現在の施設では生産力に制限があり、さらなる設備拡充を求められている現状があります。今後の設備投資に関しては、与謝野町全体の公共施設のあり方を考えた上で、方向づける必要もあると考えます。

また、あまり触れていませんが、ツバキ育苗温室については平成 28 年 4 月に与謝野町で開催される全国椿サミット終了後の施設の方向性について検討する必要があります。

いずれにせよ、どの施設も指定管理という状況をさらに一歩進める展開を模索する必要があると考えます。その上で、さらなる設備投資の必要性を論じることになると考えます。

1 2 庁 舎

その1 施設の概要

与謝野町の庁舎は平成 18 年 3 月の合併以来、旧町にあったそれぞれの庁舎をそのまま活用しています。合併時に旧岩滝町役場を与謝野町役場（本庁舎）と、旧加悦町役場、旧野田川町役場にも機能を分散して、それぞれ与謝野町加悦庁舎、与謝野町野田川庁舎とする分庁舎方式を採用しています。なお、与謝野町役場は合併時に大規模改修を行っています。他の 2 庁舎についても最低限必要な改修を行っています。

平成 23 年度にこれら 3 庁舎の統合について全町的な議論を行いました。最終的に「庁舎統合検討委員会」で慎重審議し、「将来的には総合庁舎が望ましいが、引き続き議論をしていくこと」、「野田川庁舎本館については耐用年数が到来しており、早急に閉鎖の方向で対応することが望ましい。」との答申をしました。

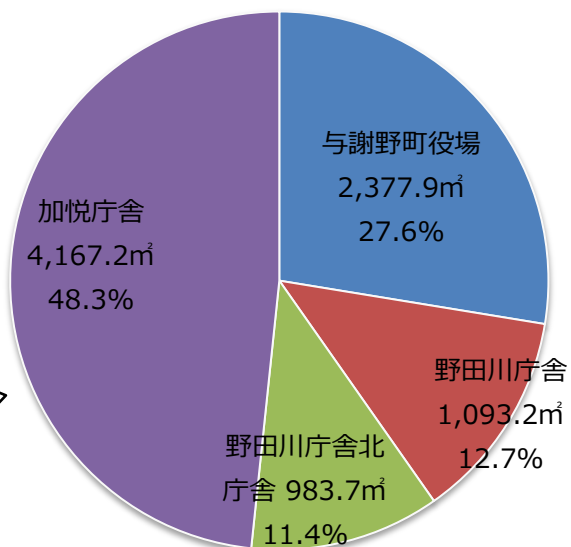
平成 27 年度には機構改革を実施することになっており、昭和 37 年建設の野田川庁舎については先述の答申に従って廃止することになっています（解体時期未定）。

【庁舎施設一覧】

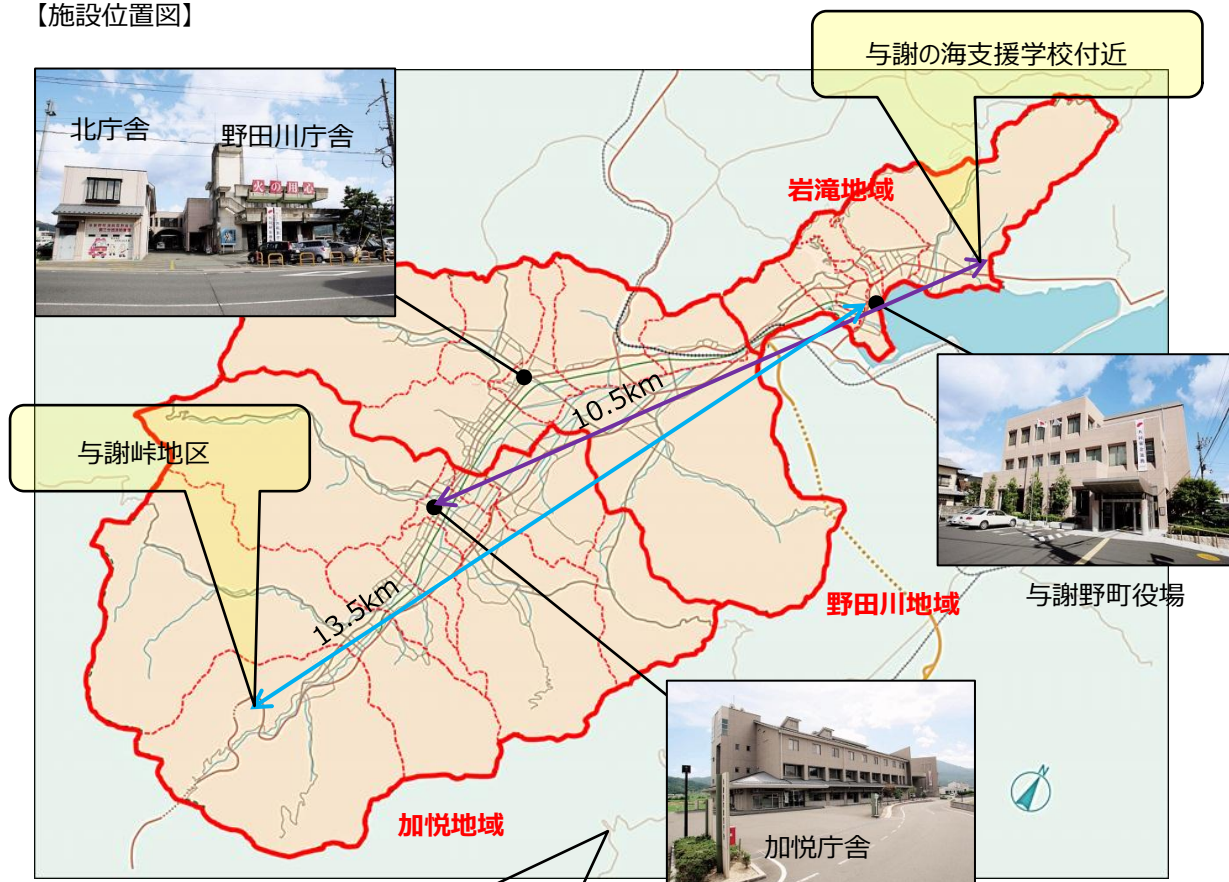
施設名	所在地	面積（㎡）		建築年	運営形態
		敷地	延床		
与謝野町役場	岩滝1798番地1	2,028.4㎡	2,377.9㎡	S 57	直営
与謝野町加悦庁舎	加悦433番地	13,025.3㎡	4,167.2㎡	H 14	直営
与謝野町野田川庁舎	四辻65番地	3,538.5㎡	1,093.2㎡	S 37	直営
与謝野町野田川庁舎北庁舎			983.7㎡	H 11	直営
合計		18,592.2㎡	8,622.0㎡		

【庁舎別延床面積比較グラフ】

各庁舎を延べ床面積で比較すると、右のグラフのようになります。平成 14 年に建設された加悦庁舎の延床面積が約半分の 48%を占めており、続いて与謝野町役場（本庁舎）の 28%、野田川庁舎は本館と北庁舎合わせて 24%となっています。



【施設位置図】



各庁舎の配置については、それぞれ旧町の人口が集中している地域に建てられています。単純に直線距離で見た場合、岩滝にある与謝野町役場～野田川庁舎間は約 6.4 km、野田川庁舎～加悦庁舎間は約 2.8 kmとなっています。与謝野町役場～加悦庁舎間は約 8.7 kmで、車で移動すれば約 15 分の距離に3つの庁舎が配置されています。

一方で庁舎から最も遠い地域を見てみると、与謝野町役場から最も遠いと思われる与謝区峠地区中心地までの直線距離は約 13.5km です。一方で加悦庁舎から一番遠いと思われる男山区与謝の海支援学校付近までは約 10.5km となっています。直線距離での計測を考慮しますと与謝野町のどの場所からでも最も遠い庁舎まで 15 kmほどとなり車を利用すると概ね 20 分強かかる見込みになります。

その2 施設の物理的状況

次の各庁舎の老朽化の度合いや設備面での状況を見ていきます。

① 老朽化の状況

加悦庁舎、野田川庁舎北庁舎は平成 10 年以降の新しい建物です。一方、与謝野町役場と野田川庁舎は築 30 年以上が経過しています。特に野田川庁舎は耐用年数 50 年を超過している古い建物で、引き続き安全に利用するのが困難であり、平成 27 年度の機構改革に伴い廃止が決定しています。

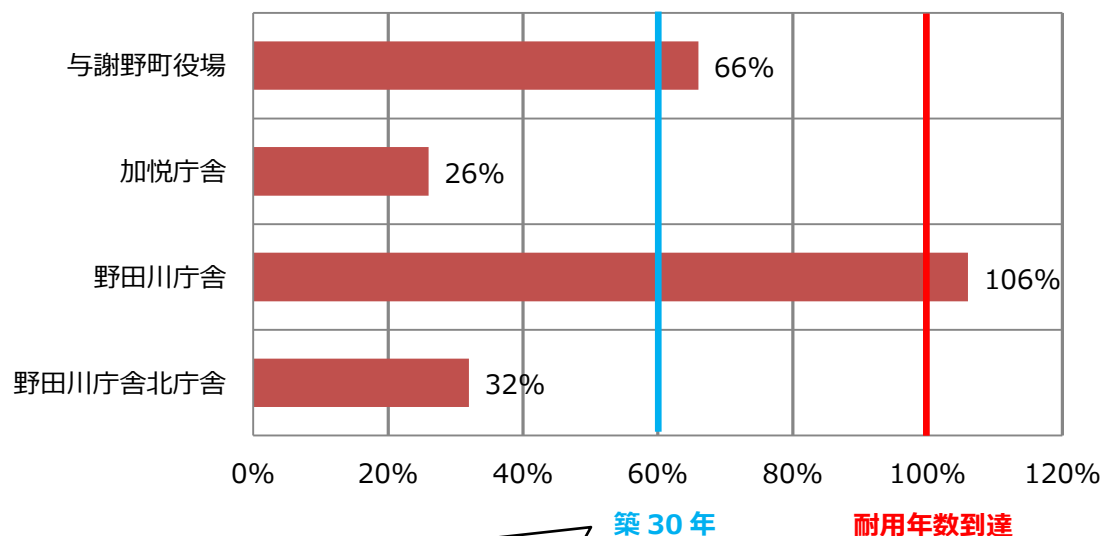
与謝野町役場は合併直前の平成 17 年度に大規模改修を実施し、空調の改修やエレベーターの設置を行い、利便性や安全性の向上が図られています。

【庁舎老朽化一覧】

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建築年	耐用年数到達	老朽化率	
与謝野町役場	鉄筋コンクリート造 3階建	S 57	H 44	66%	有
与謝野町加悦庁舎	鉄筋コンクリート造 4階建	H 14	H 64	26%	有
与謝野町野田川庁舎	鉄筋コンクリート造 4階建	S 37	H 24	106%	無
与謝野町野田川庁舎北庁舎	鉄筋コンクリート造 2階建	H 11	H 61	32%	有

※鉄筋コンクリート造の耐用年数は50年で想定しています。

※老朽化率は（経過年数/耐用年数）で算出しています。100%以上は耐用年数超過となります。



カテゴリー内の建物の構造が全て同じ場合、表記します。

② 設備の状況

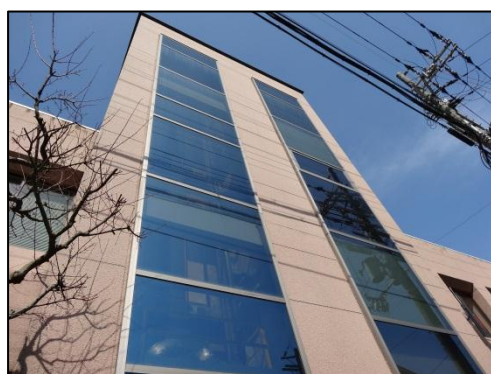
各庁舎の設備については以下の一覧表のとおりです。

会議室については、町民のみなさんにお使いいただく機会は少ないですが、役場内外の会議や打ち合わせが行えるように相当数の会議室があります。与謝野町役場ではこのほかに隣接する保健センターも会議室を備えていますし、加悦庁舎でも併設された元気館に会議室があります。

また、加悦庁舎や野田川庁舎北庁舎、平成 17 年度に大規模改修を行った与謝野町役場はエレベーターや障害者トイレなど、バリアフリーに配慮した設備が設置されているなど利便性が高く、庁舎に来られる町民のみなさんにも使い勝手のよい設備になっています。

【庁舎設備状況一覧】

施設名	会議室	バリアフリー状況					
		身障者用 トイレ	玄関 スロープ	自動ドア	手すり	点字 ブロック	エレベーター
与謝野町役場	9	○	○	○	○	○	○
与謝野町野田川庁舎	6	-	○	○	-	-	-
与謝野町野田川庁舎北庁舎	2	○	○	○	○	○	○
与謝野町加悦庁舎	10	○	○	○	○	○	○



平成 18 年の合併時にエレベーターを増築した
与謝野町役場



平成 18 年の合併時に自動ドアに改修した
野田川庁舎玄関

③ 会議室の状況

設備状況から会議室の状況の詳細に見てみましょう。

【与謝野町役場会議室一覧】

フロア	名称	面積	設備	用途
1 階	応接室	31.7㎡	応接椅子・机	来客時に使用。
1 階	相談室	14.6㎡	机2、椅子6	打ち合わせ、来客時に使用。
1 階	相談室	7.3㎡	机1、椅子4	打ち合わせ、来客時に使用。
2 階	相談室	15.2㎡	机5、椅子8	打ち合わせ、来客時に使用。
3 階	会議室 1	33.9㎡	机 3、椅子20	会議に使用。
3 階	会議室 2	47.6㎡	机 8、椅子16	会議に使用。
3 階	会議室 3	22.8㎡	-	宮津与謝環境組合使用。
3 階	小会議室	22.4㎡	机 3、椅子 9	打ち合わせ、会議に使用。
3 階	大会議室	157.0㎡	机18、椅子38	旧議場。入札会等に使用。

与謝野町役場には大小 9 つの会議室があります。主に会議で使用されるのは 3 階にあります会議室 2 です。旧議場は現在も入札会や一部事務組合議会等で使用しています。

与謝野町役場ではこのほかに、隣接する保健センターの 2 階にも会議室があり、20～30 人規模の会議はそちらを使うことが多いです。



会議室 1



第 2 会議室



大会議室

与謝野町役場に隣接する岩滝保健センターの 2 階も会議室として使用しています。参考に紹介します。

【参考：岩滝保健センター会議室一覧】

フロア	名称	面積	設備	用途
2 階	会議室 1	47.3㎡	机20、椅子40	会議に使用。
2 階	会議室 2	50.4㎡		
2 階	小会議室	25.5㎡	机4、椅子10	会議に使用。
2 階	多目的室	35.3㎡	机7、椅子20	会議に使用。



第 1、2 会議室



小会議室



多目的室

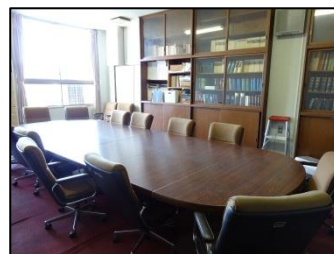
【野田川庁舎会議室一覧】

フロア	名称	面積	設備	用途
1 階	旧町長室	28.8㎡	-	打ち合わせ、来客時に使用。
1 階	相談室	9.3㎡	机1、椅子3	打ち合わせ、来客時に使用。
1 階	相談室	9.3㎡	机1、椅子3	打ち合わせ、来客時に使用。
2 階	第1会議室	35.0㎡	机15、椅子25	会議に使用。
2 階	第2会議室	39.0㎡		
2 階	旧議員控室	31.5㎡	机1、椅子3椅子16	打ち合わせ、会議に使用。

野田川庁舎は7つの会議室があります。主に使用される会議室は2階の第1、2会議室です。老朽化が進み、あまり使用されなくなった会議室もあります。また、旧議場は現在倉庫として使用しています。



第1、2会議室

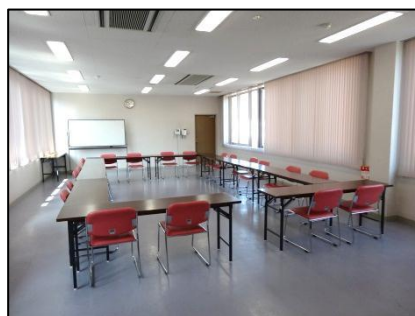


旧議員控室

【野田川庁舎北庁舎会議室一覧】

フロア	名称	面積	設備	用途
1 階	ミーティングルーム	16.0㎡	机3、椅子12	打ち合わせに使用。
2 階	研修室	78.0㎡	机20、椅子30	打ち合わせ、来客時に使用。

北庁舎には2つの会議室があり、特に2階の研修室が多く使用されます。研修室では20～30名の会議も開催することができます。



研修室

【加悦庁舎会議室一覧】

フロア	名称	面積	設備	用途
1 階	旧町長室	26.0㎡	-	打ち合わせ、来客時に使用。
1 階	旧応接室	26.0㎡	-	打ち合わせ、来客時に使用。
1 階	会議室1	26.0㎡	机4、椅子12	会議に使用。
2 階	会議室2	38.5㎡	机8、椅子21	会議に使用。
2 階	教育相談室	12.5㎡	机1、椅子7	打ち合わせ、会議に使用。
3 階	委員会室 1	27.5㎡	机12、椅子24	議会で使用
3 階	委員会室 2	27.5㎡		議会で使用
3 階	図書室	27.5㎡	机4、椅子13	議会で使用
3 階	会議室	27.5㎡	座机6	議会で使用（和室）
3 階	議員控室	56.4㎡	机4、椅子19	議会で使用

加悦庁舎には 10 の会議室があります。3 階の会議室は主に議会で使用されています。



第 1 会議室



第 2 会議室

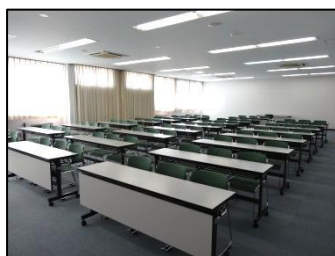


委員会室 1、2

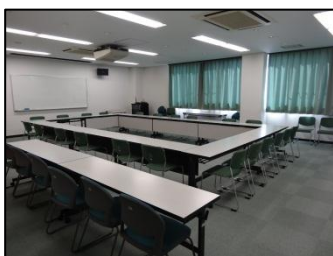
加悦庁舎に隣接する保健センター・元気館の 2 階も会議室として使用しています。参考に紹介します。

【参考：元気館会議室】

フロア	名称	面積	設備	用途
2階	農事研修室	167.5㎡	机26、椅子80	会議に使用。
2階	視聴覚室	76.8㎡	机14、椅子41	会議に使用。
2階	資料室	48.0㎡	机2、椅子16	会議に使用。
2階	農事相談室	60.0㎡	机8、椅子16	会議に使用。



農事研修室



視聴覚室



農事相談室

④ 防災に関する状況

庁舎の防災に関する状況ですが、庁舎は基本的に災害警戒・対策本部が設置されるため、避難所指定はされていません。警戒区域の指定としては加悦庁舎のみが浸水想定区域内に位置しています。

施設名	避難所指定		警戒区域の指定		
	水害	地震	浸水想定区域	土砂災害（特別）警戒区域	
				急傾斜地の崩壊	土石流
与謝野町役場	－	－	－	－	－
与謝野町加悦庁舎	－	－	0.5m～3m	－	－
与謝野町野田川庁舎	－	－	－	－	－

※与謝野町役場に隣接する岩滝保健センター（水害・地震）、加悦庁舎に隣接する元気館（地震）は、避難所に指定されています。

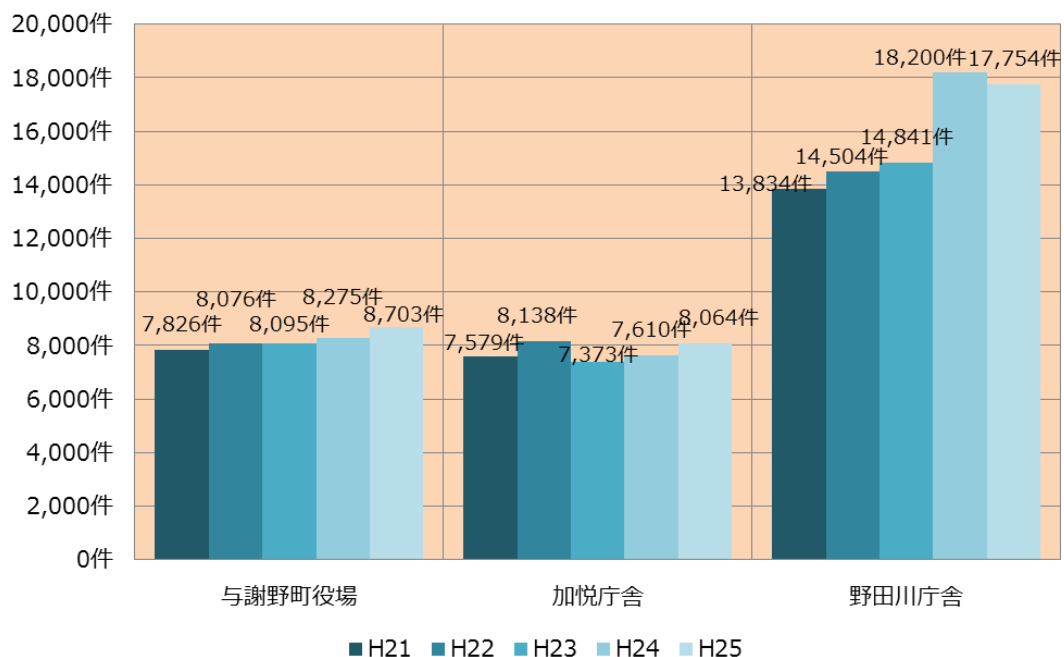
その3 施設の利用状況

① 窓口業務受付件数

施設名	窓口業務受付件数				
	H21	H22	H23	H24	H25
与謝野町役場	7,826件	8,076件	8,095件	8,275件	8,703件
与謝野町加悦庁舎	7,579件	8,138件	7,373件	7,610件	8,064件
与謝野町野田川庁舎	13,834件	14,504件	14,841件	18,200件	17,754件
合計	29,239件	30,718件	30,309件	34,085件	34,521件

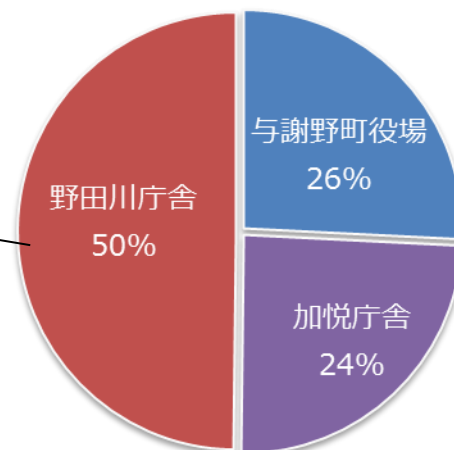
※窓口業務は住民異動、戸籍関係です。

【庁舎別窓口利用件数推移グラフ】



【庁舎別窓口利用件数割合グラフ】

過去5年間の各庁舎の合計窓口利用件数で算出したグラフです。



全体的に野田川庁舎の利用割合が多いことがわかります。この結果が単純に人口割合なのかはこのデータだけでは判断が難しいと考えます。利用頻度を測るには、庁舎別の来庁される方々のお住まいの地域を調べるなど、他の方法を検討する必要があると考えます。

一方、実際に庁舎を使用している行政側から利用状況を見てみましょう。

② 機構・配置人員（平成26年度）

【平成26年度庁舎別・課別職員配置人数】※正職員のみ、他団体派遣や出先勤務の職員は除く

庁舎	配置人員					
	課長級	主幹級	課長補佐	係長	課員	合計
与謝野町役場（6課:1課平均9.2人）	6人	4人	5人	11人	29人	55人
総務課	1人	2人	1人	2人	7人	13人
企画財政課	1人	1人	0人	3人	6人	11人
建設課	1人	1人	3人	3人	7人	15人
商工観光課	1人	0人	0人	2人	6人	9人
岩滝地域振興課	1人	0人	0人	1人	2人	4人
会計室	1人	0人	1人	0人	1人	3人
与謝野町役場加悦庁舎（7課:1課平均11.3人）	7人	3人	9人	13人	47人	79人
加悦地域振興課	1人	0人	1人	0人	6人	8人
福祉課	1人	0人	3人	4人	15人	23人
保健課	1人	0人	1人	5人	10人	17人
農林課	1人	0人	1人	2人	7人	11人
議会事務局	1人	1人	0人	0人	1人	3人
教育総務課	1人	0人	2人	0人	1人	4人
教育推進課	1人	2人	1人	2人	7人	13人
与謝野町役場野田川庁舎（5課:1課平均7.8人）	5人	3人	5人	5人	21人	39人
野田川地域振興課	1人	0人	0人	1人	3人	5人
税務課	1人	0人	2人	2人	4人	9人
水道課	1人	1人	1人	0人	7人	10人
下水道課	1人	1人	2人	1人	2人	7人
住民環境課	1人	1人	0人	1人	5人	8人
合計（18課:1課平均9.6人）	18人	10人	19人	29人	97人	173人

※その他、他団体への派遣職員4名、診療所配置2名、染色センター配置1名

【平成26年度庁舎別職員一人当たりスペース】

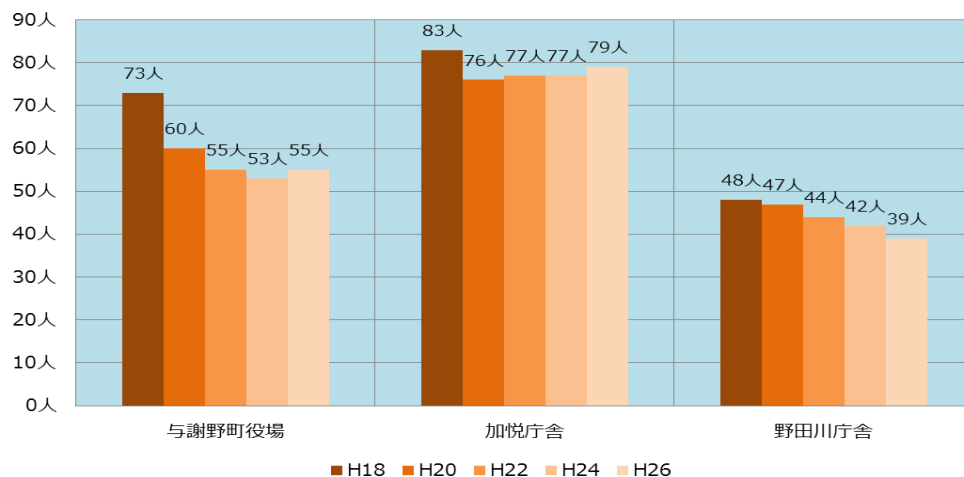
庁舎	職員数（再掲）	事務スペース面積	職員一人当たりスペース
与謝野町役場（6課）	55人	483.5㎡	8.8㎡
与謝野町役場加悦庁舎（7課）	79人	608.8㎡	7.7㎡
与謝野町役場野田川庁舎+北庁舎（5課）	39人	434.0㎡	11.1㎡

※事務スペース面積は図面から算出した参考数値です。

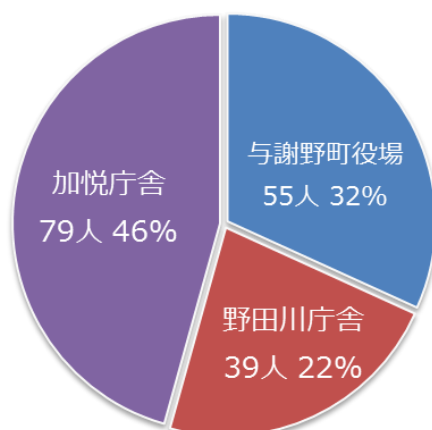
【庁舎勤務職員推移】

	H18	H20	H22	H24	H26
与謝野町役場	73人	60人	55人	53人	55人
与謝野町役場加悦庁舎	83人	76人	77人	77人	79人
与謝野町役場野田川庁舎+北庁舎	48人	47人	44人	42人	39人
合計	204人	183人	176人	172人	173人

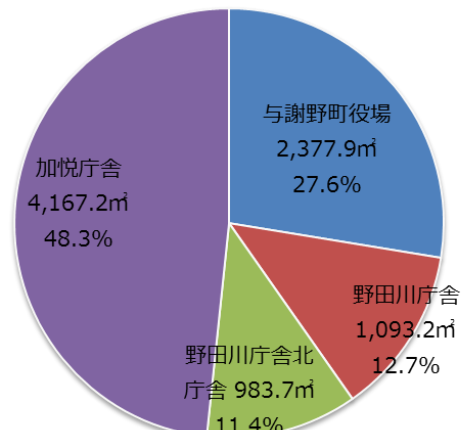
【庁舎勤務職員推移グラフ】



【庁舎別職員配置グラフ】



【比較参考：庁舎別延床面積比較グラフ】



概ね一致します

各庁舎の配置人員についてですが、単純に庁舎の規模によるところがあります。当然、加悦庁舎には一番多く課が配置され、その中に福祉課や教育委員会などの他課に比べて多く職員が配置されている課もありますので、配置職員数では他の庁舎に比べ多くなっています。

【参考：合併時の各課の配置方針】

基本的に旧町が先進的・積極的に実施した事業による場合（建設課、商工観光課、農林課など）や、全町的に見た場合の庁舎の位置や地域による場合（税務課、水道課など）、単純に庁舎の規模による場合で配置が決められた経過があります。なお、平成27年度に実施される機構改革については「その6 参考事項」で説明しています。

■与謝野町役場

建設課・・・岩滝地域が唯一の都市計画区域であり都市計画について先進的に取り組んでいたため。

商工観光課・・・岩滝地域が温泉や海を活用した観光事業に取り組んでいるため。

■加悦庁舎

福祉課・保健課・・・最も新しい庁舎でバリアフリーに適しているため。

農林課・・・加悦地域が耕地面積、農家人口、森林面積が最も多いため。

■野田川庁舎

税務課・・・町の中心で徴収業務などに適しているため。

水道課・・・野田川町が導入していた水道設備の中央監視システムを新町でも活用するため。

その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

現在の庁舎に係る管理・運営面での年間コストは以下のとおりです（行政運営コストである職員人件費は除いています）。

【庁舎管理・運営コスト一覧】

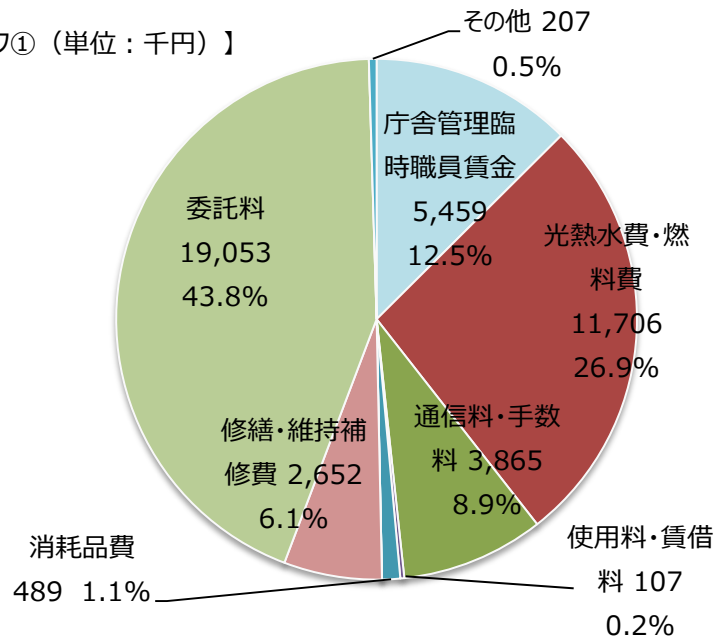
（単位：千円）

項目	与謝野町役場	加悦庁舎	野田川庁舎	合計
庁舎管理臨時職員賃金	3,372	1,187	900	5,459
光熱水費・燃料費	5,347	3,765	2,594	11,706
通信料・手数料	1,383	1,787	695	3,865
使用料・賃借料	37	42	28	107
消耗品費	162	189	138	489
備品購入費	0	0	0	0
賄・医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	849	763	1,040	2,652
委託料	6,110	7,045	5,898	19,053
指定管理料	0	0	0	0
その他	93	42	72	207
合計	17,353	14,820	11,365	43,538

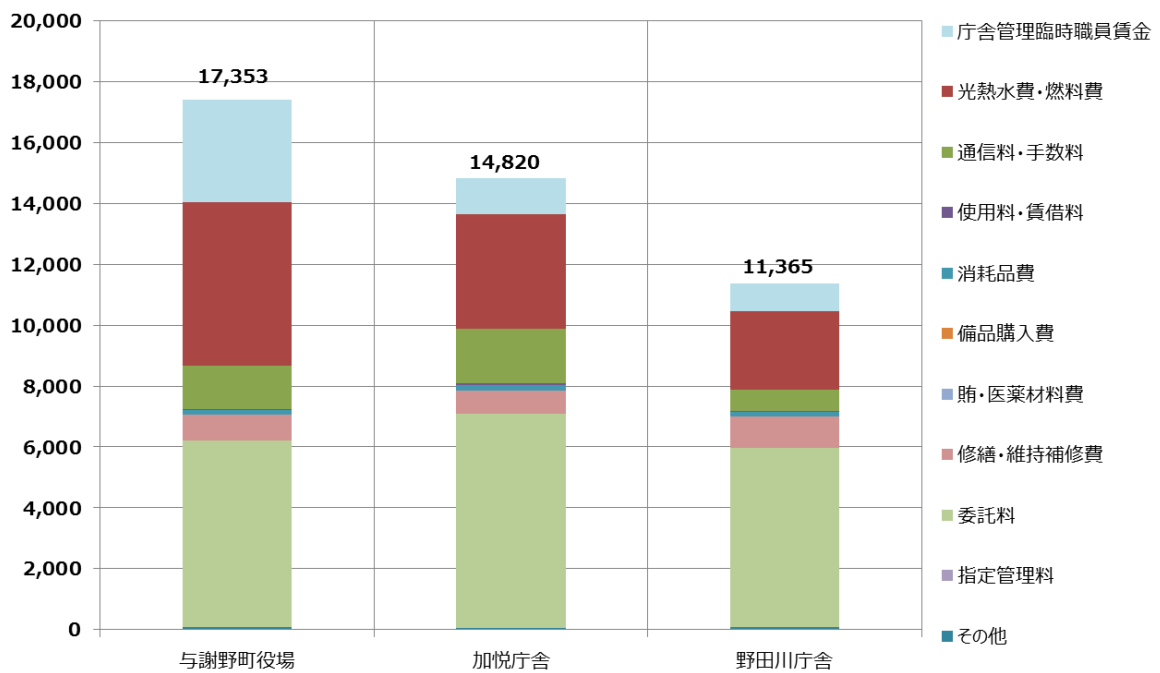
※金額は平成25年度の実績額です。

※野田川庁舎には北庁舎も含まれます。

【庁舎管理・運営コスト内訳グラフ①（単位：千円）】



【庁舎管理・運営コスト内訳グラフ②（単位：千円）】



各庁舎に係る経費は合計で約 4,300 万円の年間コストがかかっています。主に委託料と光熱水費が大きく委託料はエレベーター点検委託料や警備委託などの費用が大きくなっています。

② 整備コスト（建替え・解体コスト）

【整備時期の考え方】

☆耐用年数到達年に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆耐用年数経過している建物は5年以内に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆建替える必要がないと考えられる建物は耐用年数到達時に解体（耐用年数を既に経過している場合は5年以内に解体）

【コストの考え方】

建替えコストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました。

○建替えコスト・・・40万円/㎡（解体費用も含む：行政系施設）

○解体コスト・・・3万円/㎡

これらの単価に現在の延床面積を乗じて算出したコストは以下のとおりです。

【庁舎整備等コスト一覧】

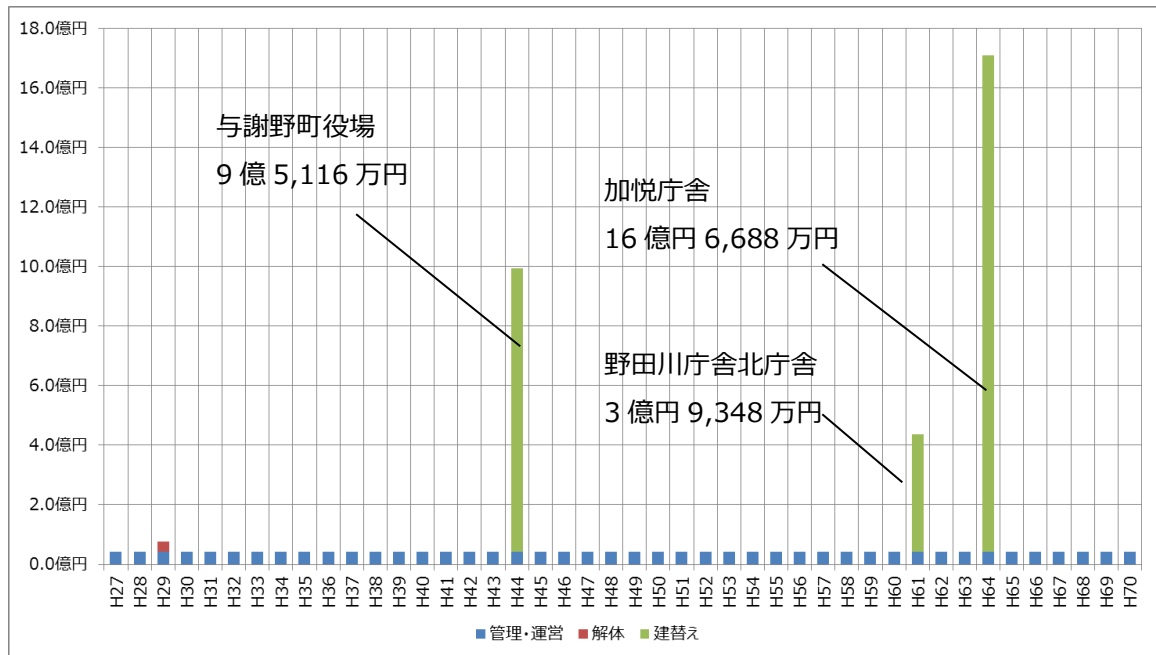
（単位：千円）

施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建替え		解体	
				実施年度	コスト (解体費含む)	実施年度	コスト
与謝野町役場	S57	50年	432,000	H44	951,160	参考	71,336
与謝野町加悦庁舎	H14	50年	1,228,343	H64	1,666,880	参考	125,016
与謝野町野田川庁舎	S37	50年	78,799	-	-	H29	32,796
与謝野町野田川庁舎北庁舎	H11	50年	207,146	H61	393,480	参考	29,511
合計				3,011,520	合計	258,659	

※野田川庁舎は解体のみのコスト。その他の解体コストは参考です。

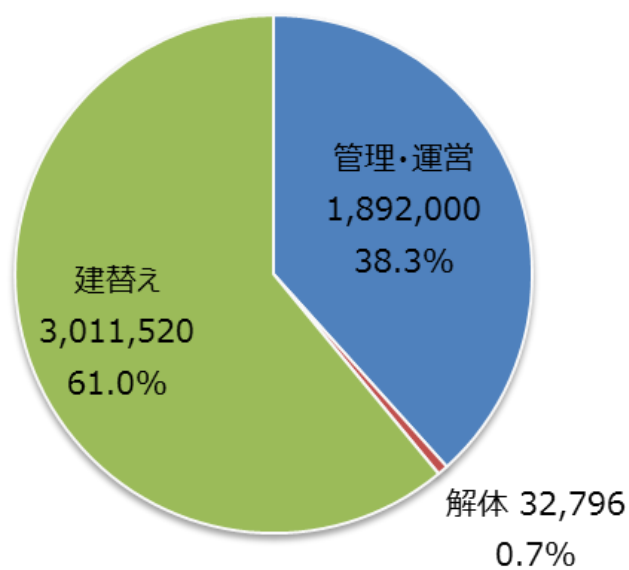
このまま3庁舎を維持した場合、野田川庁舎は5年以内（今回は平成29年度と想定）に解体、コストは約3,280万円と試算しています。他の庁舎の建替え費用は合計約30.1億円です。管理・運営コスト（平成25年度実績をベースに横置き）も含めた将来コストの推移は以下のとおりです。

【庁舎将来コスト推移表】



コスト総額約 49.3 億円（整備 30.1 億円、解体 0.3 億円、管理・運営 18.9 億円）

【庁舎将来コスト内訳グラフ（単位：千円）】



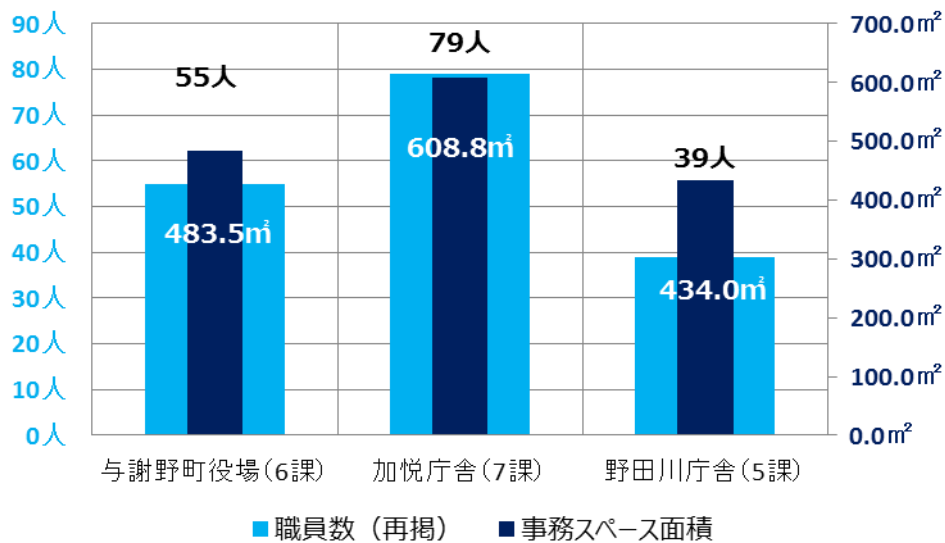
その5 まとめ

1 現状・課題

●利用状況

庁舎の利用状況は何をもって比較すべきか意見が分かれるところだと考えます。本白書においては職員数に重点をおいて見てきました。職員配置と事務スペースを比較すると以下のグラフのようになります。

【庁舎職員数・事務スペース比較】



これを見ると、当然のことですが職員配置は事務スペースによるところが大きいと言えます。機構改革が行われれば、この傾向はさらに顕著になると考えられます。

職員の配置で見ると当たり前の結果しか見えてきません。真に利用状況を測るためには、やはりその庁舎に来られる町民の方がどの地域から来られているのかを、ある程度の期間調べる必要があると考えます。あらためて庁舎統合の議論が次の段階へ入る時に必要なデータになると考えます。

●老朽化状況

目立つのは野田川庁舎本館の老朽化ですが、平成 27 年度実施の機構改革により閉鎖が決まっています。次いで与謝野町役場ですが耐用年数到達まで 17 年の期間があります。

●防災状況

加悦庁舎は想定浸水区域に指定されています。平成 16 年度の台風 23 号の時に 1 階床が浸水したことが記憶に新しいです。その他の庁舎は災害想定区域に指定されていません。

●コスト状況

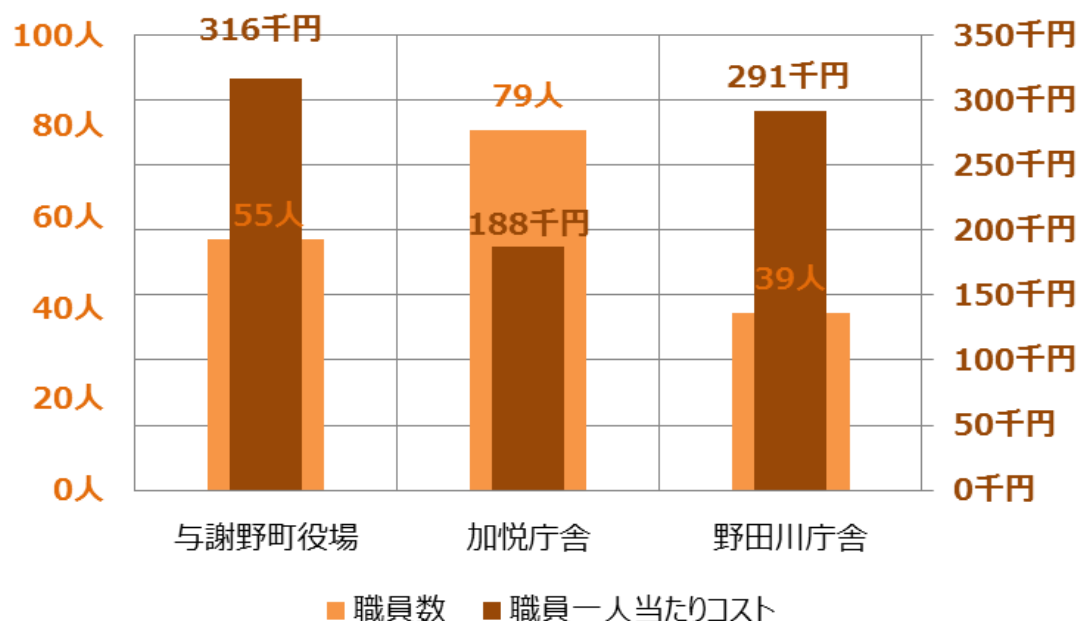
まずは、管理・運営にかかるコストについてです。庁舎の管理・運営にかかるコストを職員一人当たり、延床

面積 1 m²あたりで算出しています。

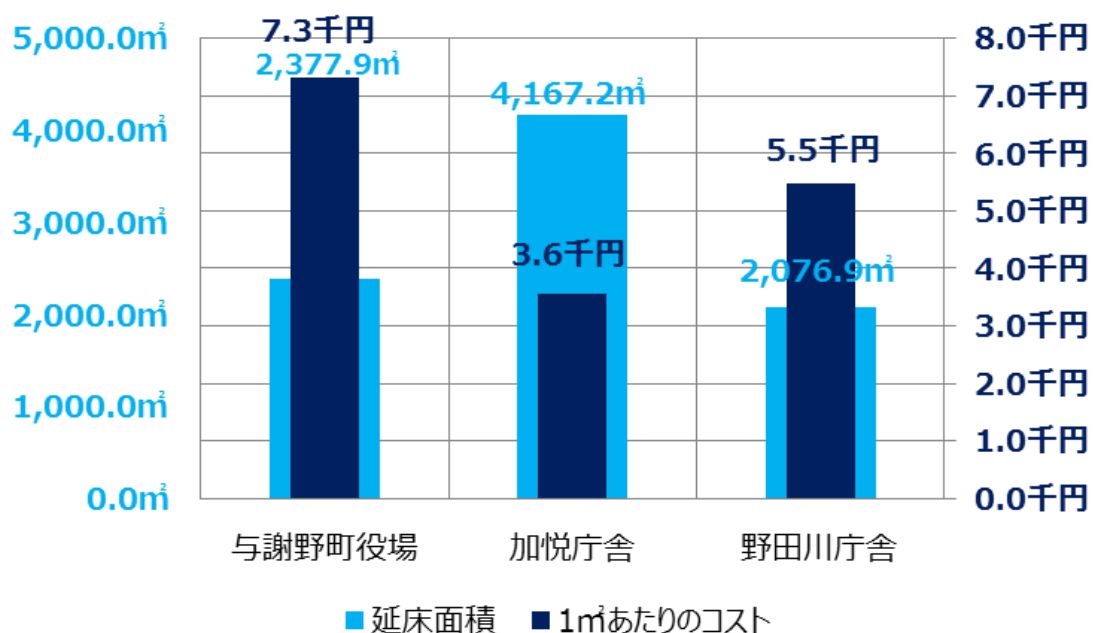
【庁舎コスト状況比較】

施設名	管理コスト	職員数	職員一人当たりコスト	延床面積	1m ² あたりのコスト
与謝野町役場	17,353千円	55人	316千円	2,377.9m ²	7.3千円
与謝野町加悦庁舎	14,820千円	79人	188千円	4,167.2m ²	3.6千円
与謝野町野田川庁舎	11,365千円	39人	291千円	2,076.9m ²	5.5千円
合計	43,538千円	173人	252千円	8,622.0m ²	5.0千円

【庁舎職員一人当たりの管理・運営コスト比較】



【延床面積 1 m²当たりの管理・運営コスト比較】



次に整備については、このままの庁舎を維持することは考えにくいですが、このまま維持していったとして全ての庁舎を建て替えると約 30.1 億円の経費がかかります。加悦庁舎規模の庁舎を建設する場合でも約 16.7 億円がかかります。新庁舎を新たに建設することになると土地を取得する場合がありますので、更なる負担がかかる可能性があります。

●現状のまとめ

このまま庁舎を維持していくとなると建設費が 30.1 億円かかるということですが、それが論外であることは共通認識であると考えます。庁舎統合検討委員会の「将来的に総合庁舎にすることが望ましい。」との答申に従えば、その期限の目安となるのは現状の各庁舎の耐用年数到達年が考えられます。野田川庁舎を除けば、与謝野町役場の耐用年数到達となる平成 44 年が目安となると考えられます（平成 17 年度に大規模改修を実施していますので耐用年数が延伸している可能性もあります）。これはあくまでも物理的な目安なので財政面や社会情勢も鑑み、早期に方向性を決める必要があります。あと 17 年という期間が長いのか短いのか、平成 23 年の庁舎統合の議論を無駄にすることなく、有効な議論ができる体制を整える必要があります。

2 今後の展望

●今後の庁舎の整備のために

「将来的に総合庁舎にすることが望ましい。」とされた庁舎統合検討委員会の答申に従い、庁舎統合について引き続き議論されることになっています。一方で庁舎を統合するためには、いかなる方式を取ろうとも、相当額の工事費がかかることが予想されます。例えば、合併前に大規模改修を行った与謝野町役場では、空調、電気設備の整備を行い、エレベーター整備があったものの、約 2 億 5 0 0 0 万円の工事費がかかっています。現状で庁舎整備のために活用できる財源は以下のとおりです。

1 国庫補助金

基本的に庁舎の整備には国庫補助金などの支援はありません。

2 地方債（自治体の借金）

合併した自治体が活用できる合併特例債は有利な地方債と言われている、借り入れた金額の 7 0 % がのちに地方交付税として返ってくる仕組みです。ただし、活用期間が合併後 15 年間となっており、それを過ぎると地方交付税が返ってくるような有利な地方債を活用できません。

3 基金（自治体の貯金）

国庫補助金や有利な地方債を活用して庁舎整備を行うことは難しい状況の中で、多くの自治体では将来の庁舎整備のために自治体の貯金である「基金」を毎年積立てて庁舎建設の資金としています。平成 14 年に庁舎を建設した旧加悦町の場合も昭和 55 年から基金を積立てて庁舎建設の資金に充てました。与謝野町でも平成 2 7 年 4 月に「与謝野町庁舎建設基金」を創設。繰越金の 10%を毎年度積立てることとし、来るべき庁舎整備に備えることとしています。

その6 参考事項

① 機構改革

庁舎統合検討委員会の答申の中でも触れられていましたが、野田川庁舎本館については引き続き利用することが安全性の面で困難であり、早期の閉鎖が求められています。そのため、野田川庁舎本館を閉鎖に伴う課の再配置、現在のまちづくりに必要な防災・減災、子育て支援に特化した課の配置を行うために合併後初となる機構改革を行います。実施時期は平成 28 年 1 月 1 日です。

(内容)

・野田川庁舎本館閉鎖に伴う課の再配置

税務課を加悦庁舎に配置。住民環境課を野田川庁舎北庁舎に配置。

・各地域振興課の廃止

合併時から設置し、主に各庁舎の窓口業務を担ってきた地域振興課を廃止。代わって各庁舎の窓口業務を担う「住民環境課住民係」を設置します。

・現在のまちづくり必要な課の設置

新たに「防災安全課」（与謝野町役場）、「子育て応援課」（加悦庁舎）を設置。加悦地域振興課に設置されている CATV 係を独立させ、CATV センターを設置します。

・課の再編

教育委員会に設置されていた「教育推進課」、「教育総務課」について、それぞれの業務が重複したり、設置目的が分かりにくい面もあり、それぞれ目的を明確にした「学校教育課」、「社会教育課」に再編する。

次ページ：機構改革案図



機構改革案

○新設する課等

防災安全課
子育て応援課
CATVセンター

○廃止する課

岩滝地域振興課
野田川地域振興課
加悦地域振興課

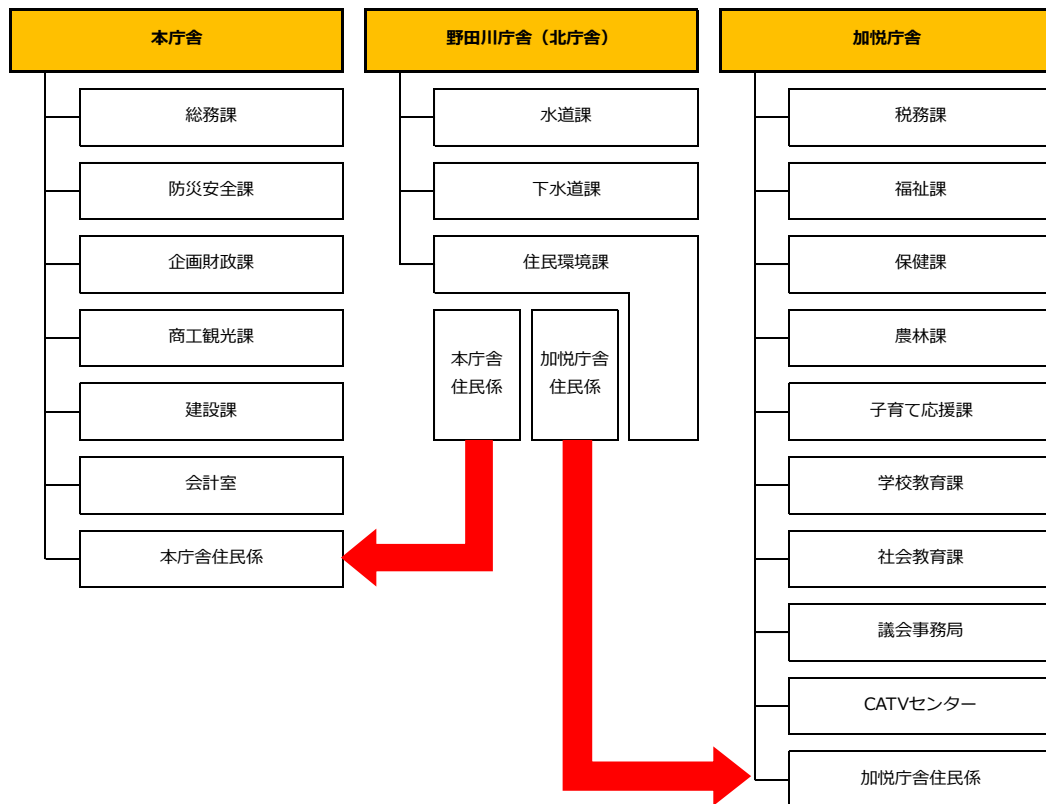
○課の新設・廃止に伴う事務の移動

事務	現行		機構改革案	配置
消防防災、防犯、交通安全に関すること	総務課		防災安全課	本庁舎
CATVに関すること	加悦地域振興課		CATVセンター	加悦庁舎
子育て支援に関すること	福祉課		子育て応援課	加悦庁舎
	教育委員会			
	保健課			
	保健課			
岩滝地域の窓口対応業務	岩滝地域振興課		本庁舎住民係（住民環境課付）	本庁舎
野田川地域の窓口対応業務	野田川地域振興課		住民環境課	野田川庁舎
加悦地域の窓口対応業務	加悦地域振興課		加悦庁舎住民係（住民環境課付）	加悦庁舎
学校教育に関すること	教育総務課		学校教育課	加悦庁舎
社会教育に関すること	教育推進課		社会教育課	加悦庁舎

○配置場所の移動

課名	現行		機構改革案
税務課	野田川庁舎		加悦庁舎
住民環境課	野田川庁舎		野田川庁舎（北庁舎）

○機構改革後の配置イメージ



1 3 消防防災施設

その1 施設の概要

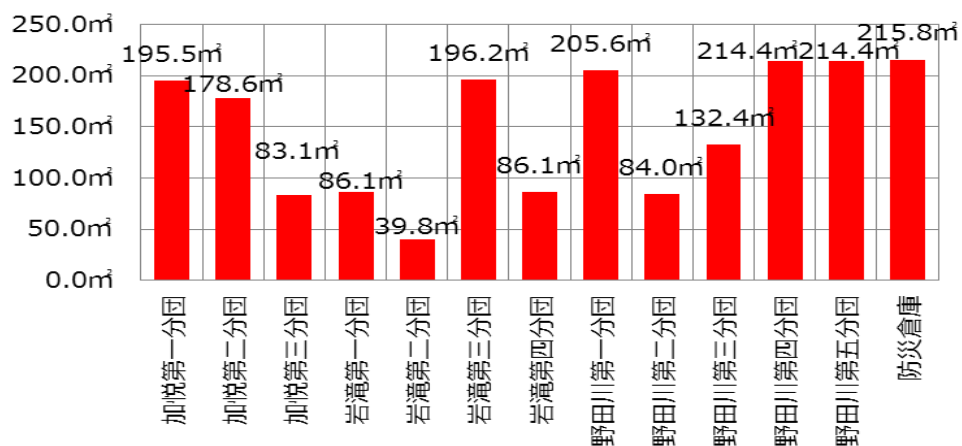
消防防災施設は、主に消防署とは別に設置されています非常備消防組織である「与謝野町消防団」が活動拠点としている消防団車庫（詰所）と、町の防災備蓄を目的に設置された防災倉庫です。消防団車庫は合併前の旧町時代から消防団の分団数に変更がありませんので、そのまま使用しています。加悦地域には3つの分団がありますので3つ、岩滝地域には4つの分団がありますので4つ、野田川地域には5つの分団がありますので5つ設置されていて、合計12です。

一方、防災倉庫は町の防災備品や災害時の備蓄食料などの倉庫で、与謝野町役場に隣接して建てられています。このカテゴリーで主に説明しますのは消防車庫になります。

【消防防災施設一覧】

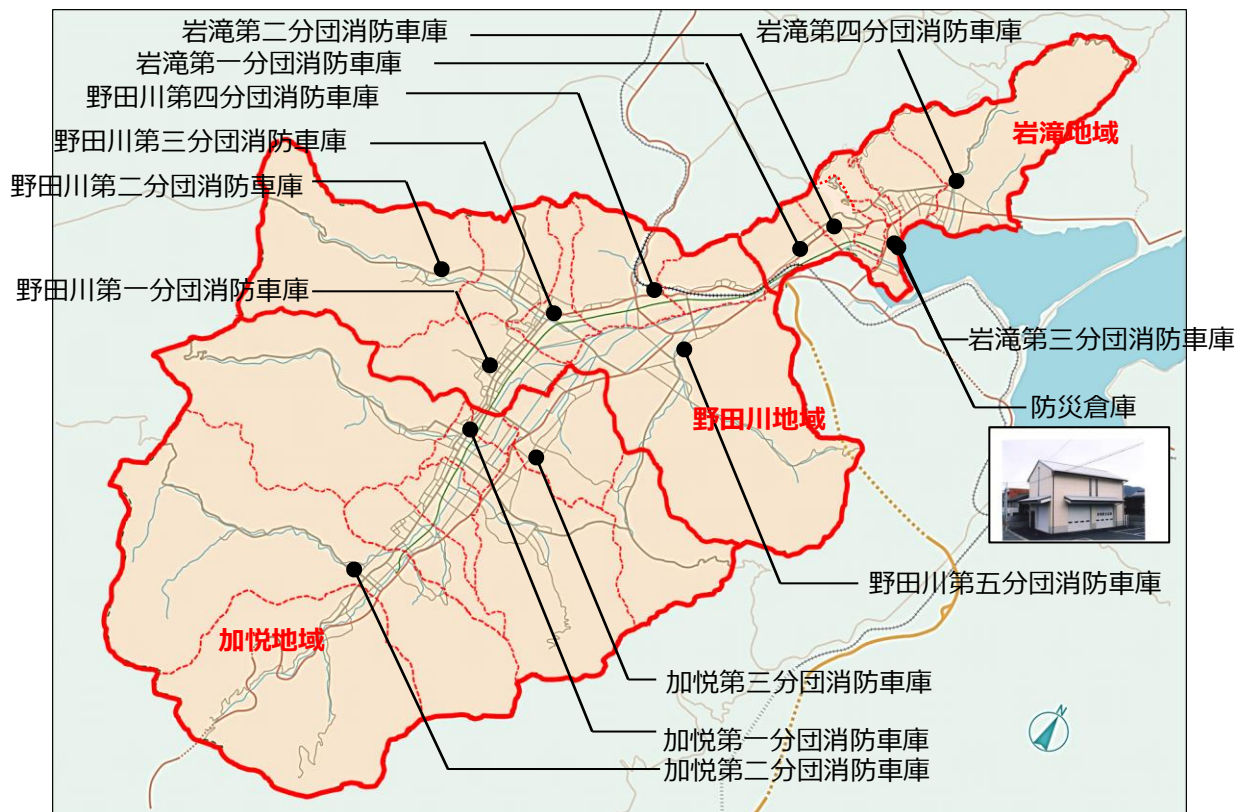
施設名	所在地	面積（㎡）		建築年	運営形態
		敷地	延床		
加悦第一分団消防車庫	算所18、19、20、20の1番地	303.8㎡	195.5㎡	S55	直営
加悦第二分団消防車庫	滝467番地の2	535.0㎡	178.6㎡	H22	直営
加悦第三分団消防車庫	明石2353番地	707.0㎡	83.1㎡	S53	直営
岩滝第一分団消防車庫	弓木923の1番地	323.2㎡	86.1㎡	H8	直営
岩滝第二分団消防車庫	弓木1975の1番地	58.5㎡	39.8㎡	H3	直営
岩滝第三分団消防車庫	岩滝1791の4番地	144.3㎡	196.2㎡	S59	直営
岩滝第四分団消防車庫	男山209の6番地	156.0㎡	86.1㎡	H6	直営
野田川第一分団消防車庫	三河内1570番地2	466.7㎡	205.6㎡	H12	直営
野田川第二分団消防車庫	岩屋303番地1	144.8㎡	84.0㎡	S54	直営
野田川第三分団消防車庫	四辻65番地	223.9㎡	132.4㎡	H11	直営
野田川第四分団消防車庫	下山田393番地1	2,480.5㎡	214.4㎡	H10	直営
野田川第五分団消防車庫	石川5602番地	562.3㎡	214.4㎡	H7	直営
防災倉庫	岩滝2048番地	520.7㎡	215.8㎡	H17	直営

合計 6,626.7㎡ 1,932.0㎡



消防車庫の規模を延床面積で比較しますとばらつきが出てきます。建物構造が様々であることが理由ですが、近年整備された消防車庫は、1 階が車庫、2 階が詰所となっています。岩滝第 2 分団の消防車庫は車庫のみで詰所は隣接する弓木地区公民館を利用しています。

【施設位置図】



消防車庫の位置ですが、岩滝地域以外の加悦地域、野田川地域は小学校区に 1 つ整備されています。そのため町域の半分以上を占める加悦地域では他地域よりも 1 つの分団の受け持つ範囲が広がっています。消防団では地域を越えた応援出動体制で消防力強化に努めています。

① 与謝野町消防団各分団の担当区域と団員数

各分団の担当区域と実団員数はご覧のとおりです。施設の説明が先になりましたが、消防施設の 카테고리をご理解いただくための参考としてください。

与謝野町消防団は消防団本部と旧町単位に設置された各方面隊があります。各方面隊の下に実際に防火活動に従事する分団が設置されています。各分団の担当区域と団員数は以下のとおりです。

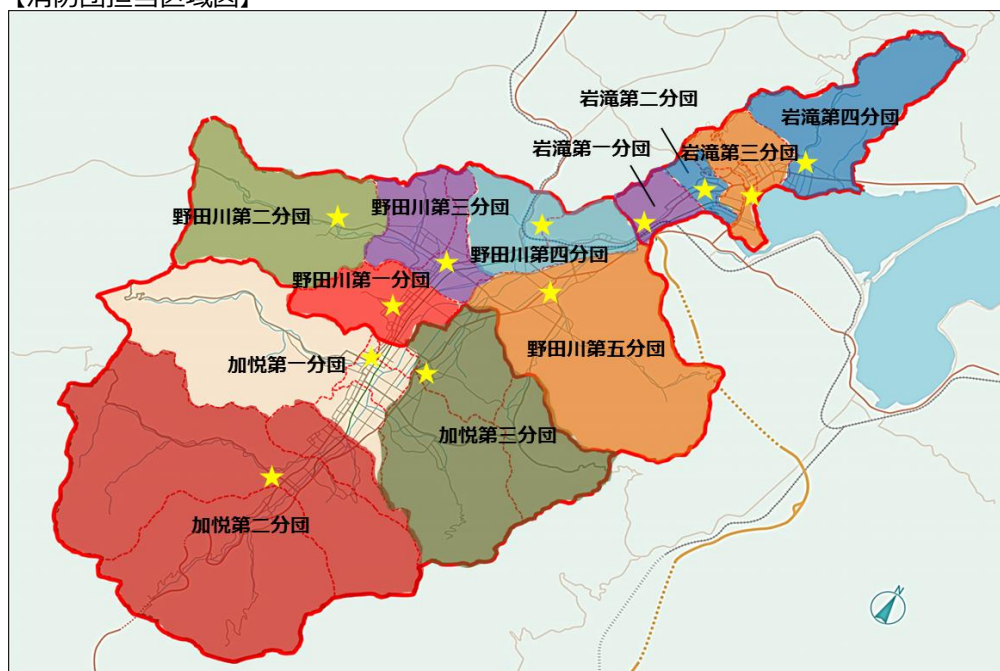
【各分団の担当区域と団員数（面積合計は小数点 2 位を四捨五入する関係で 108.3k m²になります）】

方面隊	分団名	担当区域	担当区域面積	実団員数
加悦方面隊	加悦第一分団	算所、加悦奥、加悦、後野	13.5km ²	45人
	加悦第二分団	与謝、滝、金屋	31.2km ²	30人
	加悦第三分団	温江、明石、香河	14.4km ²	30人
岩滝方面隊	岩滝第一分団	石田	1.4km ²	12人
	岩滝第二分団	弓木	1.4km ²	15人
	岩滝第三分団	岩滝	3.2km ²	20人
	岩滝第四分団	男山	7.4km ²	14人
野田川方面隊	野田川第一分団	三河内	2.9km ²	30人
	野田川第二分団	岩屋	9.7km ²	31人
	野田川第三分団	市場	4.8km ²	40人
	野田川第四分団	山田	4.7km ²	30人
	野田川第五分団	石川	13.8km ²	33人
合計			108.3km ²	330人

※団員数は平成26年4月1日現在です。

先ほどの施設位置図と重複する部分もありますが、担当区域を図示すると以下のとおりです。黄色の星印は消防車庫の位置になります。特に加悦方面隊の担当区域が広いことがわかります。

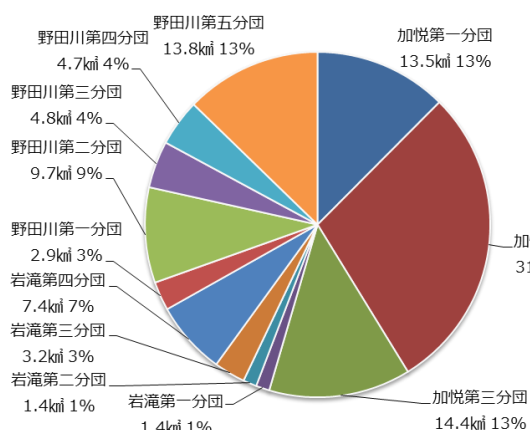
【消防団担当区域図】



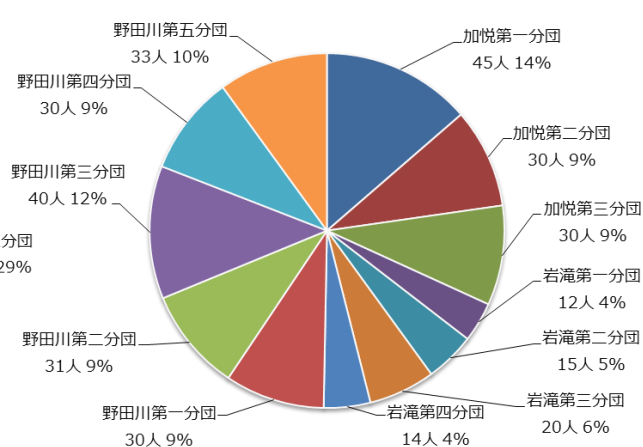
【参考：方面隊ごとの区域と団員数（面積合計は小数点 2 位を四捨五入する関係で 108.3k m²になります）】

地 域	車庫・分団 配置数	面積	団員数
加悦方面隊	3	59.1km ²	105人
岩滝方面隊	4	13.4km ²	61人
野田川方面隊	5	35.9km ²	164人
合計	12	108.3km ²	330人

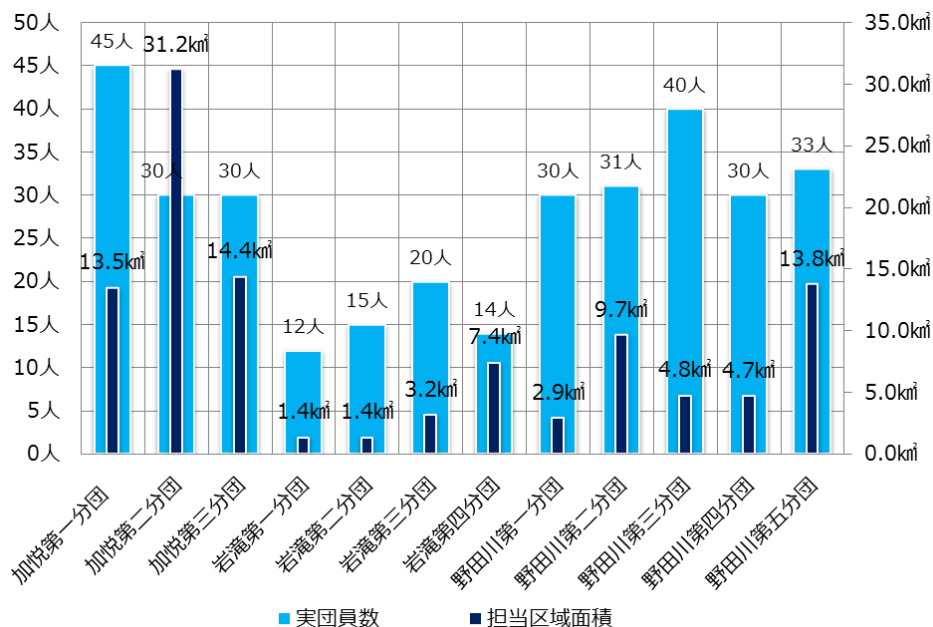
【各分団の担当区域割合グラフ】



【各分団の団員数割合グラフ】



【各分団の担当区域・団員数複合グラフ】



各分団の担当区域の割合をグラフで示すと加悦方面隊の割合が大きくなっています。加悦方面隊だけで 55%にもなります。特に加悦第二分団の山林面積が大きいことが理由です。

団員数では野田川方面隊が 164 人と最も多く、次いで加悦方面隊の 105 人、岩滝方面隊の 61 人となっています。

② 施設外観（消防車庫）



加悦第一分団消防車庫



加悦第二分団消防車庫



加悦第三分団消防車庫



岩滝第一分団消防車庫



岩滝第二分団消防車庫



岩滝第三分団消防車庫



岩滝第四分団消防車庫



野田川第一分団消防車庫



野田川第二分団消防車



野田川第三分団消防車庫



野田川第四分団消防車庫



野田川第五分団消防車

その2 施設の物理的状況

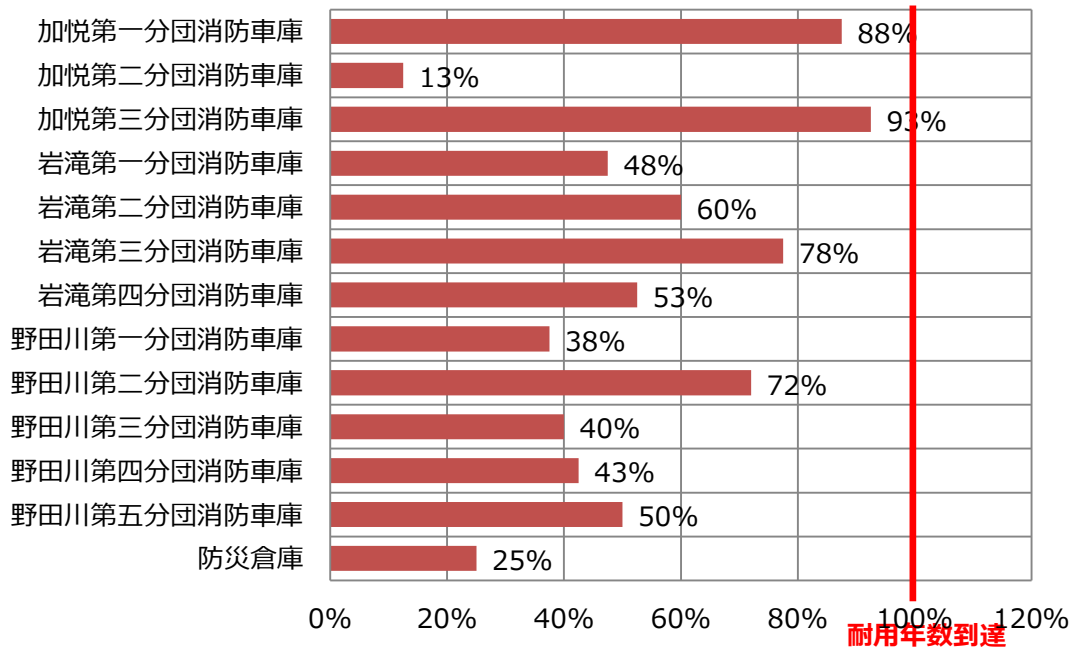
① 老朽化の状況

【消防防災施設老朽化一覧】

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建築年	耐用年数到達	老朽化率	
加悦第一分団消防車庫	鉄骨造2階建	S55	H32	88%	有
加悦第二分団消防車庫	鉄骨造2階建	H22	H62	13%	有
加悦第三分団消防車庫	鉄骨造1階建	S53	H29	93%	無
岩滝第一分団消防車庫	鉄骨造2階建	H8	H48	48%	有
岩滝第二分団消防車庫	鉄骨造1階建	H3	H43	60%	有
岩滝第三分団消防車庫	鉄骨造2階建	S59	H36	78%	有
岩滝第四分団消防車庫	鉄骨造2階建	H6	H46	53%	有
野田川第一分団消防車庫	鉄骨造2階建	H12	H52	38%	有
野田川第二分団消防車庫	鉄筋コンクリート造 2階建	S54	H41	72%	有
野田川第三分団消防車庫	鉄骨造2階建	H11	H51	40%	有
野田川第四分団消防車庫	鉄骨造2階建	H10	H50	43%	有
野田川第五分団消防車庫	鉄骨造2階建	H7	H47	50%	有
防災倉庫	鉄骨造2階建	H17	H57	25%	有

※耐用年数は鉄骨造40年、鉄筋コンクリート造50年を想定しています。

※老朽化率は（経過年数/耐用年数）で算出しています。100%以上は耐用年数超過となります。



消防車庫については加悦第三分団車庫、岩滝第三分団車庫、野田川第二分団車庫が特に古く、老朽化が進んでいます。その他の消防車庫については近年整備されたものが多い状況です（加悦第一分団車庫は平成23年度に大規模改修を実施しています）。

② 設備（車両）

【消防防災施設設備一覧】

施設名	車別	車種	年式	購入費 (千円)	更新予定
加悦第一分団消防車庫	指揮司令車	日産 アトラス	H17.3	0	未定
	水槽付消防ポンプ自動車	日野 レンジャー	H16.11	23,310	未定
	小型動力ポンプ付積載車	トヨタ ダイナ	H9.9	4,179	H26に更新済み
	多機能型小型動力ポンプ付積載車	いすゞ	H22.9	0	未定
加悦第二分団消防車庫	消防ポンプ自動車	三菱 キャンター	H20.10	17,535	未定
	小型動力ポンプ付積載車	トヨタ ダイナ	H19.3	6,563	未定
加悦第三分団消防車庫	消防ポンプ自動車	三菱 キャンター	H14.12	14,910	未定
	小型動力ポンプ付積載車	トヨタ ダイナ	H19.3	6,615	未定
岩滝第一分団消防車庫	消防ポンプ自動車	日野 デュトロ	H26.3	12,360	未定
岩滝第二分団消防車庫	消防ポンプ自動車	三菱 キャンター	H14.11	13,650	未定
岩滝第三分団消防車庫	水槽付消防ポンプ自動車	日野 レンジャー	H16.3	23,310	未定
	小型動力ポンプ付積載車	日産 アトラス	H10.3	4,179	H26に更新済み
岩滝第四分団消防車庫	消防ポンプ自動車	日野 デュトロ	H13.10	13,650	H28
野田川第一分団消防車庫	消防ポンプ自動車	日野 スペースレンジャー	H12.9	20,000	H27
野田川第二分団消防車庫	消防ポンプ自動車	日野 デュトロ	H25.3	15,035	未定
	小型動力ポンプ付積載車	トヨタ ダイナ	H9.11	6,700	H26に更新済み
野田川第三分団消防車庫	水槽付消防ポンプ自動車	三菱 ファイター	H13.11	24,900	H29
野田川第四分団消防車庫	消防ポンプ自動車	日野 デュトロ	H23.9	18,039	未定
	小型動力ポンプ付積載車	日産 アトラス	H15.9	6,857	未定
野田川第五分団消防車庫	消防ポンプ自動車	日野 デュトロ	H22.1	17,500	未定
	小型動力ポンプ付積載車	三菱 キャンター	H14.12	6,900	未定
防災倉庫	司令車	トヨタ サーフ	H18.2	0	未定

※購入費0は消防庁や日本消防協会等から贈与または貸与された車両です。

③防災に関する状況

【消防防災施設防災状況】

施設名	避難所指定		警戒区域の指定		
	水害	地震	浸水想定区域	土砂災害（特別）警戒区域	
				急傾斜地の崩壊	土石流
加悦第一分団消防車庫	—	—	—	—	—
加悦第二分団消防車庫	—	—	—	—	—
加悦第三分団消防車庫	—	—	—	—	—
岩滝第一分団消防車庫	—	—	—	—	警戒区域内
岩滝第二分団消防車庫	—	—	—	—	—
岩滝第三分団消防車庫	—	—	0.5m未満	—	—
岩滝第四分団消防車庫	—	—	—	—	—
野田川第一分団消防車庫	—	—	—	—	—
野田川第二分団消防車庫	—	—	—	—	—
野田川第三分団消防車庫	—	—	—	—	—
野田川第四分団消防車庫	—	—	—	—	警戒区域内
野田川第五分団消防車庫	—	—	0.5～3.0m未満	—	—
防災倉庫	—	—	0.5m未満	—	—

その3 施設の利用状況（消防団員の状況）

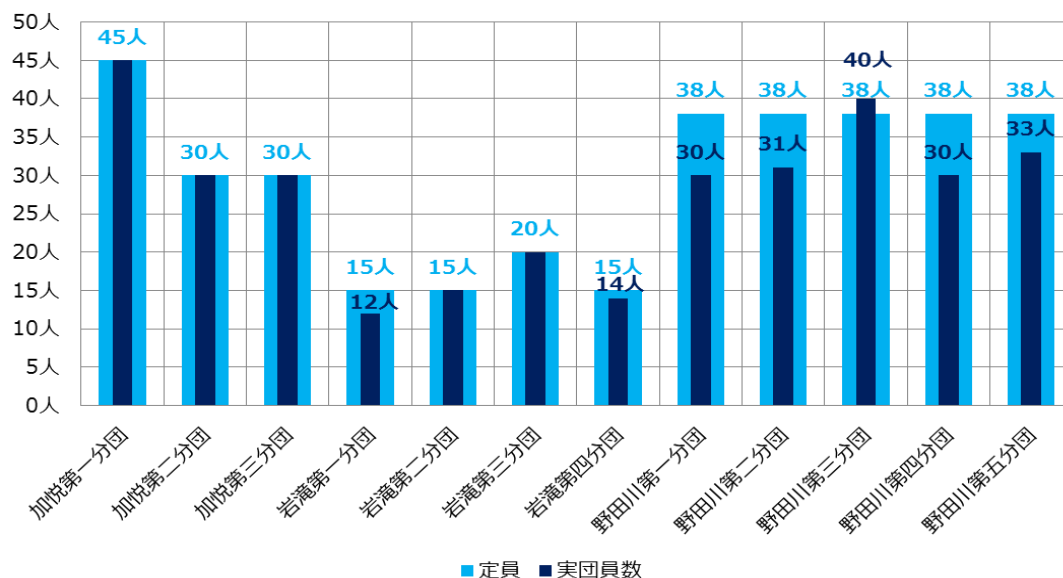
防災倉庫を除く消防防災施設を活用するのは消防団です。その消防団員の状況をみてみましょう。

【消防防災施設設備一覧】

施設名	定員	実団員数	不足数	充足率
加悦第一分団	45人	45人	0人	100%
加悦第二分団	30人	30人	0人	100%
加悦第三分団	30人	30人	0人	100%
岩滝第一分団	15人	12人	3人	80%
岩滝第二分団	15人	15人	0人	100%
岩滝第三分団	20人	20人	0人	100%
岩滝第四分団	15人	14人	1人	93%
野田川第一分団	38人	30人	8人	79%
野田川第二分団	38人	31人	7人	82%
野田川第三分団	38人	40人	-2人	105%
野田川第四分団	38人	30人	8人	79%
野田川第五分団	38人	33人	5人	87%
合計	360人	330人	30人	92%

各分団の実団員数と基準となる定員数と比較してみると、どの分団も人員確保の努力をして、概ね充足していますが、野田川方面隊でやや定数に満たない状況があります。

【各分団の団員数グラフ（平成26年度）】



その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

現在の消防防災施設に係る年間の管理・運営コストは以下のとおりです。

【消防防災施設管理・運営コスト一覧】

(単位：千円)

項目	加悦一車庫	加悦二車庫	加悦三車庫	岩滝一車庫
賃金	0	0	0	0
光熱水費・燃料費	145	153	123	89
通信料・手数料	0	0	0	0
使用料・賃借料	0	0	0	0
消耗品費	0	0	0	0
備品購入費	0	0	0	0
賄・医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	5	51	13	0
委託料	0	0	0	0
指定管理料	0	0	0	0
その他	4	6	1	2
合計	154	210	137	91
項目	岩滝二車庫	岩滝三車庫	岩滝四車庫	野田川一車庫
賃金	0	0	0	0
光熱水費・燃料費	53	163	135	282
通信料・手数料	0	0	0	0
使用料・賃借料	0	0	0	0
消耗品費	0	0	0	0
備品購入費	0	0	0	0
賄・医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	0	58	75	3
委託料	0	0	0	0
指定管理料	0	0	0	0
その他	1	4	2	14
合計	54	225	212	299
項目	野田川二車庫	野田川三車庫	野田川四車庫	野田川五車庫
賃金	0	0	0	0
光熱水費・燃料費	243	244	281	255
通信料・手数料	0	0	0	0
使用料・賃借料	0	0	0	0
消耗品費	0	0	0	0
備品購入費	0	0	0	0
賄・医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	26	0	32	36
委託料	0	0	0	0
指定管理料	0	0	0	0
その他	0	12	6	5
合計	269	256	319	296

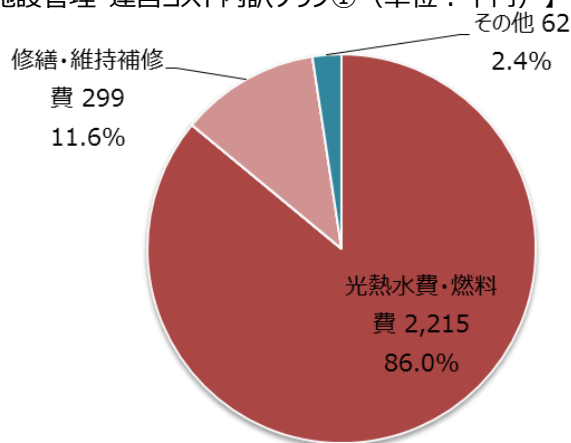
※金額は平成25年度の実績額です。

(単位：千円)

項目	防災倉庫	合計
賃金	0	0
光熱水費・燃料費	49	2,215
通信料・手数料	0	0
使用料・賃借料	0	0
消耗品費	0	0
備品購入費	0	0
賄・医薬材料費	0	0
修繕・維持補修費	0	299
委託料	0	0
指定管理料	0	0
その他	5	62
合計	54	2,576

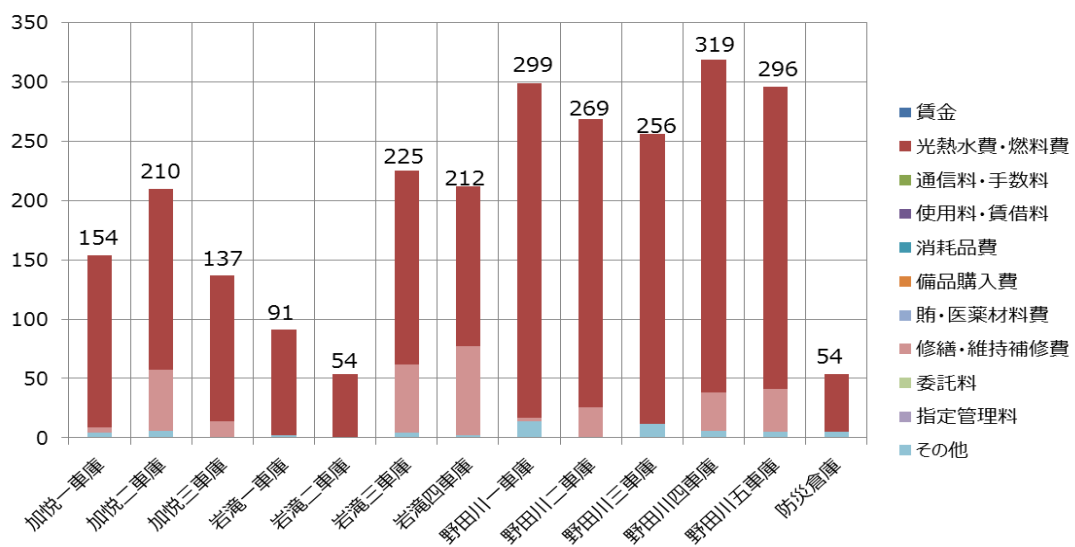
※平成25年度実績です。

【消防施設管理・運営コスト内訳グラフ①（単位：千円）】



消防施設の主な経費は光熱水費です。その他の経費として火災保険料などがあり、最低限の維持費で運営されています。

【消防施設管理・運営コスト内訳グラフ②（単位：千円）】



② 整備コスト（建替え・解体コスト）

【整備時期の考え方】

☆耐用年数到達年に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆耐用年数経過している建物は5年以内に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆建替える必要がないと考えられる建物は耐用年数到達年に解体（耐用年数が既に到来している場合は5年以内に解体）

☆消防団の再編等の未確定要素は考慮せず、現状を維持した場合のコストです。

【コストの考え方】

建替えコストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました。

○建替えコスト・・・36万円/㎡（解体費含む：その他施設）

○解体コスト・・・3万円/㎡

これらの単価に現在の延床面積を乗じて算出したコストは以下のとおりです。

【消防防災施設整備等コスト一覧】

（単位：千円）

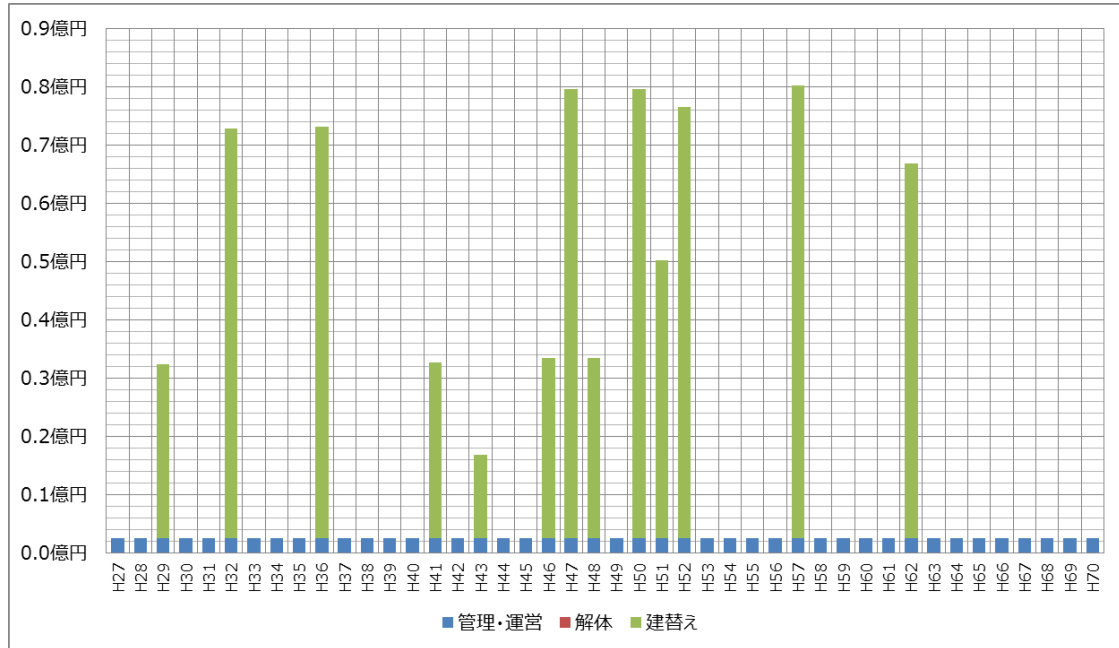
施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建替え		解体	
				実施年度	コスト (解体費含む)	実施年度	コスト
加悦第一分団消防車庫	S55	40年	11,950	H32	70,373	参考	5,864
加悦第二分団消防車庫	H22	40年	43,407	H62	64,296	参考	5,358
加悦第三分団消防車庫	S53	40年	3,400	H29	29,933	参考	2,494
岩滝第一分団消防車庫	H8	40年	17,784	H48	31,010	参考	2,584
岩滝第二分団消防車庫	H3	40年	4,167	H43	14,310	参考	1,193
岩滝第三分団消防車庫	S59	40年	27,207	H36	70,614	参考	5,885
岩滝第四分団消防車庫	H6	40年	22,617	H46	31,010	参考	2,584
野田川第一分団消防車庫	H12	40年	—	H52	74,023	参考	6,169
野田川第二分団消防車庫	S54	50年	9,124	H41	30,240	参考	2,520
野田川第三分団消防車庫	H11	40年	—	H51	47,664	参考	3,972
野田川第四分団消防車庫	H10	40年	42,007	H50	77,184	参考	6,432
野田川第五分団消防車庫	H7	40年	72,711	H47	77,184	参考	6,432
防災倉庫	H17	40年	34,650	H57	77,695	参考	6,475
				合計	695,536	合計	57,962

※解体コストは参考です。

※野田川第一分団消防車庫、野田川第三分団消防車庫の当初建設費は、併設する施設との分別ができないので空欄にしています。

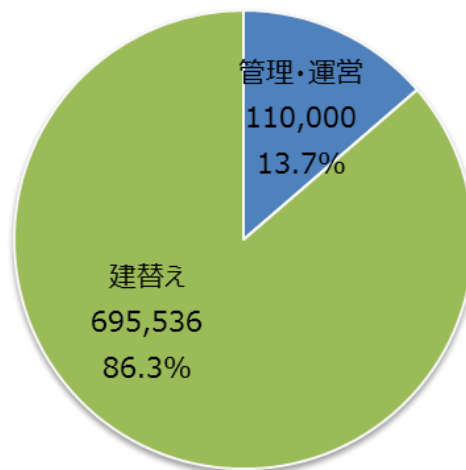
平成70年頃まで（実際は平成62年頃）に全ての消防車庫等を建替えた場合、総費用は約7億円になります。管理・運営コスト（平成25年度実績をベースに横置き）も含めた将来コストの推移は以下のとおりです。

【消防防災施設将来コスト推移表】



コスト総額約 8.1 億円（整備約 7 億円、解体 0 億円、管理・運営 1.1 億円）

【消防防災施設将来コスト内訳グラフ（単位：千円）】



その5 まとめ

1 現状・課題

●利用状況

消防防災施設というカテゴリーにおいて、利用者数や利用頻度という考え方は妥当ではないため、実際に

施設を利用する消防団の現状についてお示しました。消防団員は全国的に団員不足が叫ばれる中で、各分団の努力によって団員数確保ができています。しかしながら実情としては団員のサラリーマン化が進んでおり、平日の日中に担当区域にいる団員が乏しい現状もあります。少なくとも平日の日中に町内で働いている団員の割合は55.1%で約半数程度となっており、分団によっては平日の日中に担当区域で働く団員が5人以下となる場合もあります。消防団ではそのような現状を踏まえ、消防団員でもある役場職員に勤務先の地域で火災が発生した場合、消火活動の補助を担わせるなどの対策を行っています。

●老朽化状況

消防車庫については、老朽化率が60%を超えている建物が5施設あります。その中でも加悦第三分団消防車庫については老朽化率が93%まで進んでおり、すでに建替えの方針があります。

●防災状況

一部の施設で土砂災害の警戒区域や浸水区域に指定されています。

●コスト状況

施設全体の管理・運営コストは光熱水費、建物保険料、修繕料などの最低限なものに限られています。その他に消防団の活動にかかる経費がありますが、ここでは計上していません。

今後の整備にかかるコストですが、全ての消防車庫等を建替えると平成62年度までに約8億円かかる見込みです。

その他に1台6百万円～3千万円という車両整備コストが毎年かかる等、施設自体の維持の他に消防団活動にかかるコストは大きいですが、地域の安心・安全を最前線で担う役割は大きく、消防団活動には交付税措置がある等、国の施策においても重要な位置づけにあることが分かります。

2 今後の展望

●消防団の再編について

今後の消防団の再編が、消防防災施設の整備等に大きな影響を与えます。将来の与謝野町の消防防災体制のあり方について、今後の人口推移等を見据えて、消防団の再編等の検討を進めていく必要があります。